

拓殖大学 海外留学プログラム（TUSA-P）

令和元（2019）年度 夏季短期研修報告

プログラム名	派遣先	期間	派遣学生数	報告書掲載ページ
商学部・韓国	慶熙大学校	2019/9/3～2019/9/10	11	2～13
外国語学部・中国	北京大学	2019/8/3～2019/8/31	20	14～34
外国語学部・カナダ	ランガラ・カレッジ	2019/8/3～2019/9/1	12	35～47
外国語学部・オーストラリア	ニュー・サウス・ウェールズ大学	2019/8/3～2019/9/8	19	48～67
国際学部・インドネシア	ダルマプルサダ大学	2019/8/8～2019/8/30	15	68～83



商学部プログラム (インターナショナルチャレンジ研修)

韓国 (第6回)

慶熙大学校

慶熙大学校国際キャンパス

韓国京畿道龍仁市器興区書川洞1番地
Tel : 82-312013900
Web: <http://www.khu.ac.kr/eng/index.jsp>

1949年に創立された慶熙大学校は、幼稚園から大学院までの総合教育体系を備えた名門私立大学で、本学とは1999年に学術交流協定を結び様々な交流を行っています。ソウル市内、龍仁市、南楊州市に3つのキャンパスがあり、本研修はソウル市内から車で1時間程度の龍仁市にある国際キャンパスで実施します。同校は外国人学生に対する韓国語教育に高い実績を持ち、毎年世界中から1,000名を超す学生が韓国語を学びに訪れます。

研修概要

目的

日本と韓国の文化、社会、経済等の違いを体験することにより海外留学への興味を掻き立て、更に高い学習意欲の喚起を図ります。

対象学生

商学部の学生及び他学部生 25名

内容

韓国語授業（初級会話）、慶熙大学校日本語学科生との交流、韓国文化体験（K-POPダンスやテコンドー等）、企業見学、ソウル市内視察などを行います。異文化体験を主目的とした研修のため、韓国語未履修者でも参加可能です。

単位認定

「インターナショナルチャレンジ研修Ⅰ」(1単位)または「インターナショナルチャレンジ研修Ⅱ」(1単位)として認定

期間

2020年9月上旬（約1週間）

滞在方法

※コシテル（朝・昼の2食付き）

※2~4畳のトイレ、シャワー付個室を備えた宿泊施設

募集、選考

募集4月下旬、面接及び発表5月中旬

選考方法

面接、学業成績

研修日程（2019年度の参考）

9/3 (火)	羽田発 ソウル着後 慶熙大学校国際キャンパスへ 入校式、オリエンテーション
9/4 (水)	研修開始 午前：韓国語授業 午後：韓国文化体験授業等
9/10 (火)	ソウル発 羽田着、通関後解散

研修費用（2019年度の例）

● 学費	40,930円
● 審費、食費	27,290円
● 現地交通費、文化体験費	44,340円
● 航空運賃等	49,770円
● 海外旅行総合保険	2,980円
合計	165,310円 その他生活費用等が発生します。 (レート 100KRW=9.38円で算出)

所属：商学部 経営学科 1年
出身：埼玉県立八潮南高等学校
2019.4 拓殖大学入学
2019.9 韓国短期研修参加（慶熙大学校）

【研修国・地域の紹介について】

私は、初めて韓国に行きました。韓国はとても学歴社会で上下関係がとても厳しい国だと思っていました。でも実際韓国に行ってみて話を聞いて日本と似ているなと感じました。トイレなどの文化などが違い少し苦労しました。トイレットペーパーをそのまま流してはいけないという普段とは違う習慣に驚きました、お風呂もトイレと一緒に最初は少し抵抗がありました。日本よりも道路の状態があまりよくないと思いましたとてもデコボコで整備されていない感じでした。車もとても路上駐車されていて危険だなと思いました。韓国の大学はとても大きくて敷地も広く日本より大きいと思いました。バスで移動教室があったり日本とは違うところがたくさんありました。今とても韓国と日本の仲が悪くて安全なのかとても心配していたが韓国人たちはみんなとても優しくて生活していてもとても安全でした。食べ物はほとんどの物が辛かったです。だけどとてもおいしくて苦手だった辛い物が好きになりました。タッカンマリなどの韓国料理を食べました。

【研修生活について】

研修前は体調管理のことや食べ物など安全なのかなどとても気にしていましたが、食べ物はすべて美味しいと良かったです。宿泊先ではエアコンが効かなくて夜寝るのが辛かったですが最後のほうは慣れて生活できました。授業ではまだ大学の授業でまだやっていないところをやってついていくのがとても大変でしたが何とかついていくことができました。このような研修でしか体験できない日本語学科の方や韓国語学科の方達と交流することができ普段聞けないようなことを直接聞くことができました。またソウル観光やご飯を食べに行ったりしてとても仲を深めることができました。韓国人と会話しているととても勉強になりいろんな単語や言葉を知ることができましたこの研修を受けていないとできない事だなと感じました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して韓国の文化や日本との違いなどを間近で感じることができました。韓国には前から興味がありましたがもっと知りたくなりました。少しでも韓国語を覚えて次韓国へ行ったときは今回よりも喋れるようにしたいという気持ちが強いです。また今度は自分が外国の方に日本の文化や一緒に観光したりしてやってもらったことを自分がしたいと思いました。交換留学もしたいと思いました。もっと勉強して詳しく韓国について知って生活をしたいと思っています。外国の方と多く関わるような仕事をしたいと思いました。

所属：商学部 経営学科 1年
出身：千葉県立柏陵高等学校
2019.4 拓殖大学入学
2019.9 韓国短期研修参加（慶熙大学校）

【研修国・地域の紹介について】

今回自分の研修国は韓国でした。韓国は日本に近いですし、行ったことがあるという人も多いかも知れませんが自分は初めて行きました。それに国際情勢の状況も状況ですし、どのくらい安全でどのくらい日本人を受け入れてくれるのか心配でした。ですが実際にやってみるとその心配はいつの間にか忘れていました。そのくらい韓国の人々は優しく接してくれました。最初に持っていた韓国のイメージのせいもあるかも知れませんが日本よりも親切ではないかと思うくらい優しく素敵な国でした。大学の周辺だけでなくソウルやスウォンの方もです。やはり現地に行ってみないとわからないものがあります。また絶対韓国に行きたいと思えました。そして自分の履修は韓国語ではないですが、もっと韓国語を勉強して韓国人と韓国語で会話をしてみたくなりました。次韓国に行った時にはもっともっと今よりも韓国語で話せるように頑張りたいと思います。このように研修に行って思えたのでぜひこのプログラムに参加してみて欲しいです。

感想はこれくらいにして、日本との違いについて書こうと思います。一つ目は食べ物についてです。なんとなく予想がつくと思いますが、基本的に辛いものが多いです。毎食1つ辛い物が出てきます。しかし何回も食べていればだんだん慣れてきます。辛いですが何故か辛い物がないと物足りなく感じるようになりました。自分も辛いのが苦手だったので辛い物が苦手の方も心配はいらないのかなと思います。

2つ目は公共機関についてです。韓国でバスも電車も乗りましたが交通費が日本に比べてすごく安いです。そして韓国ではよくバスが走っていてよくバスを使います。移動するのに日本ではほぼ電車だと思いますが韓国ではバスは必ず入ってきます。こういう日本との違いも見つけることができたので楽しかったです。

【研修生活について】

次に研修生活について話そうと思います。流れとしては朝学食で朝ご飯を食べ午前中に韓国語の授業をして、午後にテコンドーの体験や南大門に行くなどの文化体験でした。韓国語の授業にしろ文化体験にしろ楽しくやることが大事だと思います。そして午後には文化体験だけでなくキョンヒ大学の学生とコミュニケーションをとる機会があります。そこで積極的に話すといいと思います。知っている言葉を使ったり携帯で調べたりして話すといいと思います。韓国の方との会話はすごく勉強になります。日本ではなかなかできないことです。自分のなかではこの韓国の方と接する機会があったのがすごく良い経験になりました。そこで聞いた言葉や何回も使った言葉は忘れませんし日本で勉強するときの糧になると思います。自分はこのように感じました。これで報告書を終わりにします。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を行ったことで自分の視野が広がった気がします。違う国にも行ってみていろんなことを知りたいと思いました。自分は第二外国語が中国語ですが、中国語で習ったことを韓国語ではなんというのかを考えてみて韓国語の知識も増やしたいなと思います。

所属：商学部 経営学科 1年
出身：埼玉県立越谷北高等学校
2019.4 拓殖大学入学
2019.9 韓国短期研修参加（慶熙大学校）

【研修国・地域の紹介について】

実際に感じた韓国と日本の相違点について記します。まず、食べ物についてです。韓国の食べ物はやはり辛かったです。しかし、韓国人にとっては辛さ控えめであるらしく、辛い食べ物にあまり慣れていない私は、韓国料理は慣れが必要な料理であると思いました。韓国料理の中には辛くない食べ物もありました。韓国料理は辛かったですが美味しいかったです。私が特に美味しいと思った料理はサムギョプサルです。

次に、服装についてです。私は研修に参加していた女子のメンバーと一緒に、韓服の一種であるチマチョゴリを着る体験をしました。チマチョゴリは色やデザインが豊富にありました。また、チマチョゴリはチマ（スカート）が曲線を描いていることが特徴の一つなのですが、その曲線を生み出すためにチマの下に、ワイヤーでできたソッチャマ（スカートの内着）を着ました。私はこのようにしてチマチョゴリのシルエットをつくりだしていることに関心を持ちました。本場でチマチョゴリを着るという貴重な体験ができる嬉しかったです。

次に、文化についてです。ここでは食事のときに感じた文化について記します。韓国ではやはりスプーンや箸がほぼ金属製でした。そして、食事のマナーも実践しました。マナーの一つである食器を持たずに食べることに慣れるのに少し時間がかかりました。

【研修生活について】

まず、授業の内容について記します。授業では、発音や数字、挨拶など初級レベルの韓国語を学習しました。先生は韓国の方でしたが、韓国語初心者である私のために、先生が日本語を交えて授業をしてくださったおかげで授業内容に対する理解度が深まりました。授業中、私がわからないところがあったときに、先生は優しく教えてくださいました。

私は、第二外国語が韓国語ではないため、今回の研修に行く前に韓国語を勉強する必要があったのですが、韓国語の勉強が不十分なまま今回の研修に参加してしまいました。そのため、私は授業についていくのに精一杯でした。私はこのことに対して今でも後悔しています。語学研修に参加する際は、事前学習が必須であると痛感しました。

次に、予習、復習についてです。私は、復習として夜寝る前にテキストを見返して、発音や挨拶などを覚えたりしていました。予習は、私はテキストの次の日やるページを見て、読めるところは読むということをしました。私には今回の研修は少しハードスケジュールに感じ、あまり勉強するためのまとまった時間がなかったように思いました。しかし、そんな中だからこそ、隙間時間を使って発音や単語を覚えたりするなど、工夫する力が少しづつ身についていったのではないかと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

韓国文化授業では、様々な貴重な体験をしました。テコンドーではいくつかの型を教わったり、型を使ったダンスを踊ったりしました。型はどれも格好いいと思いました。また、型を使ったダンスを覚えるのは大変でした。K-POPダンスも、振り付けに細かい動きがあったため難しく、覚えるのが大変でした。韓紙工芸は繊細な作業が多かったです。研修メンバーの皆は、いいものを作っていたと思います。ヌリボッとのtask活動や学生交流では、実際に学生と交流して自分の伝えたいことを韓国語で伝えることの大変さをとても感じました。しかし、ヌリボッの学生の方や日本語学科の学生の方が、私の伝えたいことを理解しようと努めてくださいました。そして、伝えたいことが伝わったときは嬉しかったです。また、水原華城や博物館、サムソンイノベーションに行ったことも、様々な歴史を感じられたため、私にとって貴重な体験になりました。

今後は、韓国語などの言語をもっと勉強し上達させ、進路の幅を広げ、海外で現地の人ともっと交流したいと思いました。

所属：商学部 経営学科 1年
出身：私立京華商業高等学校
2019.4 拓殖大学入学
2019.9 韓国短期研修参加（慶熙大学校）

【研修参加の動機について】

私は今まで、中高の間留学にいったことないのですが大学に入ったら行こうと思っていたのです。まずこれが留学を申し込むきっかけとなったのですが、なぜ韓国という国に決めようかと思った動機は私が元から韓国が好きだというのが大きいのですが、韓国の何が好きだったのかというとはじめは韓国の文化の K-POP から入りました。高校二年生の時にミュージックステーションで TWICE を見たときにそれまでアイドルというものにあまり興味がなかったのですが、そのビジュアルとダンスの完成度、切れのすごさを目にして惹かれてボーイズグループも BTS などを見てさらに惹かれるものがあり韓国の文化にどっぷり惹かれていきました。

K-POP から入り勿論ライブ映像なども MV などもいろんなものを見たのですが、その私の好きなアイドル達の VLIVE というダンスではなく普段の日常生活の映像を見ているうちに韓国語が飛び交っていて翻訳なしでもこの人たちが言っていることが分かればなと思い大学に入るまでは自分で韓国語を少しかじっていました。それが、大学に入り、第二外国語で韓国語を取り韓国語の勉強がより形になっていきました。

少し授業で韓国語が学べるからと言っても所詮は授業内でしか学べることもそんなに多くはなくやはり、現地で話していかないと身につくものも身にならないように感じたので今回の研修を希望しました。

【研修国・地域の紹介について】

韓国は実際に行ってみると、日本と違う点が少しずつ色々と違うなと感じました。大きな差というものは、そこまで感じなかつたのですが物価が割と違うのでそれが多種多方向に日本との差に影響があるのかなと思いました。また、トイレなども少し日本と違っていて流れないトイレがあるのにはちょっと驚きました。水は流れるのですが、紙が流れないのでゴミ箱がおいてありそこにトイレットペーパーを捨てるという日本ではあまり見ないような光景がありました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

韓国という外国であるがアジア圏の中なので、そこまで大きな異文化というのには今回の研修中には感じなかつたのですが、少しずつ違う文化の違いに気づいたときにそれまで当たり前だった日本の良い面、悪い面が見えてきて、当たり前が結局は日本という一つの国の中で当たり前だったということに気づけた事はこれから外国に行っても日本で過ごしていくうえでもいい勉強になったのかなと思います。

これまでの当たり前をこれからはこれが当たり前と思わず恵まれていることなのだと身をもって感じたことは、ある意味で言ったらこれからの人生を生きていく中で一つの教訓となったといえます。また、この経験を忘れてはいけないと強く感じました。

所属：商学部 経営学科 1年
出身：私立跡見学園高等学校
2019.4 拓殖大学入学
2019.9 韓国短期研修参加（慶熙大学校）

【研修参加の動機について】

私は中学校の時から KPOP が好きで韓国に興味をもちはじめました。初めはアイドルにしか興味がなかったのですが、徐々に文化や食生活にも関心がわいてきました。研修に行くおすすめのタイミングは 1 年の時です。1 年生は第二外国語を取り始めてまだ数か月しかたっていないので右も左もわからない状態だと思いますが、現地に行ってみると学校の授業で学ぶ何倍も早く言語を習得することができます。第二外国語が研修に行く国の言語じゃなくても大丈夫です。先生が一から丁寧に教えてくれるので安心です。出発までにしておくべきことはその国の歴史や政治について少しでも調べておくことです。

【日常生活について】

寮では生活最低限のスペースしかなくあまりくつろぐことは出来ませんでした。お風呂もトイレと一緒に空間にあり、それが一番のストレスでした。大学ではほぼ毎日午前中は授業を受け、午後は文化体験しました。午前中の授業では日本語を話せる先生が教えてくれました。文化体験では KPOP ダンスとテコンドーが一番記憶に残っています。それから日本語学科と韓国語学科の学生との交流もしました。日本語が話せる人もいれば、話せない人もいてその中で韓国語と日本語を混ぜながら話すのが楽しかったです。お互い言語の勉強になりました。今流行っている言葉なども教えてもらったりと学校の授業だけでは習えない韓国語も知れてよかったです。TA という先生のアシスタントをする学生がいて、その学生の方との交流もたくさんできました。日本にいるときよりも積極的にみんなと会話し、韓国語を話す機会を自らつくることが出来ました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の韓国研修を通して、韓国語の上達スピードや理解度が高まったことです。行く前よりも韓国語を勉強するモチベーションがあがりました。現地で韓国語を教えてもらって、やはり発音が難しいなと感じました。今後も韓国語を勉強して長期期間で韓国に留学したいと思っています。留学するという夢をかなえるためにも、韓国語の勉強は必須です。今回の研修で自分がいかに韓国語で言葉を伝えることが出来ないかを知ったので、次こそは悔しい思いをしないようにしっかり準備したいと思います。将来も韓国に少しでもかかわる仕事が出来たらいいなとおもっているので、今後も気を抜かず勉強を頑張っていきたいとおもいます。

所属：商学部 国際ビジネス学科 1年

出身：横浜創英高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.9 韓国短期研修参加（慶熙大学校）

【研修参加の動機について】

私がこのプログラムに参加した動機は主に2つあります。まず1つ目はもともとKPOPや韓国ファッションにとても興味があり独学で学習した韓国語のクオリティを上げたかったからです。実際に現地では授業の担当の先生と日本語学科の学生以外に日本語が話せる人はおらず、自分の持っている知識で会話しなくてはならなかつたので少し大変ではありました。自分が話した韓国語が伝わった時はすごくうれしい気持ちになりました。学校外で関わったお店の従業員の方々も必死に理解しようとしてくださるのでためらいなく言葉を発することができました。そして、2つ目の動機は私がこの研修の他に英語圏の研修にも参加したいと思っていたからです。私は自分の興味のある韓国語と英語を大学生の間に生活に困らない程度の学力につけるには、現地に行ってネイティブと会話することが一番定着すると考えています。実際の雰囲気や、現地の方々との関わりを通して経験を積むことで将来外国と関わる職に就いた時に役に立つと思います。そして、私はこの研修には1年次に参加することをお勧めします。理由としては、就職活動までまだ時間があるということ、授業の先取りができるということ、2年次にもう一度別の国に行く時間があるということです。時間に余裕があるうちに様座な経験を積んでおくことがとても大切だと思います。

【研修生活について】

現地の韓国語の授業はハングルの読み書きや日常生活に役立つフレーズなどを行い、今回の研修では韓国語を始めてやる子から簡単な会話ができるレベルの子まで様々でした。私が体感した限りでは研修前に自分でハングルの読み書き、簡単な自己紹介程度はできた方がよりスムーズに授業が受けられると思います。ですが、もし、わからなくても先生は日本語ができるのでためらわず言葉を発信することがとても大切です。また、復習は午前中に習った単語やフレーズをなるべく午後にあるTASKという韓国人の学生との交流会やスーパーなどで実際に使ってみることが効果的だと思います。このようにインプットとアウトプットが1日にできるのもこの研修の魅力だと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

1番実感したことは語学力が行く前に比べて確実に上がったということです。日本では教科書通りにインプットすることしかできませんでしたが、実際にやって1週間ネイティブの先生に自分の発音の悪いところを指摘していただけたので確実に自分のできていない部分をわかることができました。これからはその部分に気を付けて授業に取り組みたいと思います。また、実際に韓国人の学生さんと交流して、普段自分が日本で授業を受けている時よりも積極的に発言していましたし、自分の意見をしっかり伝えているように感じました。その姿勢を見習って韓国語の授業にかかわらずしっかりと意見をいつも持てるよう心がけていきたいと思います。

そして、私は将来海外で働きたいと考えているので、英語だけでなく第2言語として韓国語も話せるように日々勉強に取り組んでいきたいと思います

所属：商学部 国際ビジネス学科 1年

出身：私立中央学院高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.9 韓国短期研修参加（慶熙大学校）

【研修参加の動機について】

私は韓国ドラマや韓国料理が好きなので、もっと韓国の文化を知りたいと思ったのと韓国の大学で語学を学んでみたいと思ったので、韓国インターナショナルチャーチ研修を志望しました。また、この研修は8日間という短期間なので、まだ入学したばかりで留学について詳しく知らない私にぴったりな研修だと思いました。私が研修出発までに準備したことは、事前研修でもやりましたが、韓国についての基本的な知識をつけることと韓国語の勉強です。私は元々韓国に興味があったため、独学で韓国語を勉強していました。しかし、大学では韓国語を履修していないため、研修に行く前に基礎レベルを勉強しなおしました。研修先での韓国語の授業は、そんなに難しく感じませんでしたが、慶熙大学の学生との交流の時、韓国語で会話をしたいけれども自分が伝えたいことを言うことができなく、もどかしい気持ちになりました。韓国語を話すことができれば、もっと楽しむことができたと思ったため、私は韓国語を履修した方がいいと思います。研修に行くおすすめの学年に関しては、韓国語を履修しているなら、二年生の方が一年生より韓国語ができると思うので、もっと研修を楽しめるのではないかと思います。

【研修生活について】

研修生活では、韓国語の授業はもちろん、テコンドーやK-POPダンス、韓紙工芸、サムソンイノベーション見学、慶熙大学の学生との交流などをしました。韓国語の授業の内容は、基礎レベルで、韓国語を履修している人なら容易だと思います。韓国語を初めて学ぶ人でも、先生方が優しく教えてくれるので心配はいらないと思います。とても良い先生方ばかりで、楽しく韓国語を学ぶことができました。韓国語の授業を通して、本や参考書などを見ながら勉強することは自分一人でもできるが、発音することは一人ではできないと思いました。テコンドーやK-POPダンスは、初めてするので少し難しかったですが、一緒に研修に参加した友人や先輩方のおかげで楽しく体を動かすことができました。サムソンイノベーションミュージアムでは、電子産業の歴史と未来を見ることができました。サムソン歴史館、発明家の時代、企業革新の時代、クリエイティブ時代などを見ることができ、とても良い機会になりました。そして、私が楽しみにしていた慶熙大学の学生との交流では、自分の韓国語のレベルに無力さを痛感しました。学生の方ともっと韓国語で会話をしたいのに、自分が伝えたいことを言うことができなく、何とも言えない気持ちになりました。もっと韓国語を勉強しようという意欲が沸き、向上心が高まりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私が研修を通して得たことは、人々の考え方も常識も似ているようでかなり違うということです。もちろんですが、人は見た目だけでは判断できないということを改めて実感しました。大学には、多くの留学生がいるので、考え方などが違うということを意識しながら接していくたいと思いました。就職後も多くの外国人の方と関わる機会があると思います。この研修を通して得た多くのことを就職後にも生かしていきたいと考えています。

所属：商学部 経営学科 2年
出身：茨城県立下館第一高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.9 韓国短期研修参加

【研修生活について】

研修中の授業では、韓国人の先生によってハングルの書き方から始まり最後は簡単な単語を覚えていくところまで習います。第2言語で韓国語を履修している2年生にとっては復習のような授業、1年生にとっては少し分からぬこともあります。また、今まで韓国語に触れたことがない学生でも周りの学生や先生のサポートによって、みるみるうちに韓国語が身につきます。とはいえ、韓国語を全く知らない状態より少しでも韓国語の知識がある状態で授業に臨む方が、授業の理解度が上がり新たな発見につながると思いますので、研修の前に韓国語に触れるなどをオススメします。予習、復習の勉強方法については、私は授業の前に単語の発音を確認し、実際に授業で発音してみてネイティブの先生にアドバイスをいただく、そして宿舎でそのことを思い出しながら発音し単語をひたすら書いて覚えるという形で行っていました。授業中に学ぶことはたくさんあるので、自分の時間でできる勉強時間を大切にすると良いと思います。

【日常生活について】

買い物をする際に気を付けなければならないこととして、スーパーマーケットでは基本的に「レジ袋をください」と一声かけなければレジ袋をいただけません。また、レジ袋は日本と同じく有料ですが1枚30円もかかってしまう場所もあるので、エコバックや大きめのカバンを持参していくことをオススメします。

食事に関する点でも日本と異なる点がいくつかあります。韓国の方は食事をする際、スプーンとお箸をセットで必ず使います。多くの日本人はお箸でご飯を食べますが、韓国人はスプーンでご飯を召し上がります。さらに韓国では食器を手に持って食べることはないので、お茶碗などを手に持って食べる習慣がある日本人にとっては注意すべき点です。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修で、自分がどれだけ必死に語学を学ぶかによって話すことのできる人が増えていくということを実感しました。言葉を使わなくても意思の疎通は可能ですが、知らない言語を学び日本人以外の方といろんな意見や価値観を交換し合って知恵や教養などを養うことは、人生を豊かにし自分自身の価値を高めることに繋がるでしょう。韓国では自分が描くような完璧な会話ができたとは言い難いほどの会話しかしていません。自分が想像していたよりも、思ったことを伝えることは難しくてもどかしいものでした。しかし、その悔しい気持ちが私をもっと韓国語を勉強しなくてはならないという気持ちにもさせてくれるのです。

今回の研修で学んだことや感じたことを大切にして、今後は様々な国の方と積極的に会話をすることに試みてみたり、資格や検定に向けての勉強に励もうと思います。

所属：商学部 経営学科 2年

出身：都立第一商業高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.9 韓国短期研修参加

【研修参加の動機について】

私は第二外国語で韓国語を履修しています。そのこともあり、韓国ドラマが好きになりました。そうしてだんだんと韓国に興味を持つようになって今回このプログラムに参加しました。韓国なら旅行で気軽にに行くこともできますが、それよりも価値のあるものだと身を持って感じました。一年生の時から募集をしていたことは知っていましたが、なかなかチャレンジ出来ずにいました。そんな時、友人が大学のプログラムで中国に行った時の話を聞いて参加を決めたことも事実です。帰ってきて感じたのは、1年生の時に歩いていたかったなあということです。この短期研修では韓国語の学習だけでなく、文化体験や学生との交流などもかなり充実していて、他の海外研修よりも参加しやすいのではないかと思いました。授業の進み方は日数が少ないこともあります、かなり早く感じました。日本語の喋れる先生だったので安心しましたが、韓国語の基本的な知識を持っていないと厳しいものがあると思います。自分自身、追いついていくのに必死でした。

【日常生活について】

私たちはコシテルというトイレ、シャワー、冷蔵庫、ベッドがある1人部屋で一週間過ごしました。狭いとは聞いていましたが予想を上回る狭さに最初は驚きながらも2、3日で慣れました。ティッシュとウェットティッシュは必ず持って行ったほうがいいと思います。私が行ったトイレにはすべて紙がありましたが、無い場所もあるようなのでカバンに1つ入っていると便利だと思います。部屋の近くに洗濯機とキッチンがあるので、洗濯や簡単な料理をすることもできます。みんなでお湯を沸かして韓国のカップラーメンを食べたりもしましたが、基本私たちは外食をしていました。日本と比べるととても物価が安いので、たくさんのお金を持っていく必要はないのかなと思いました。また、ほとんどのお店でカードが使えるので一枚持っていくと便利だと思います。交流した学生のほとんどが現金をほぼ持たずにみんなカードを持っていて、驚きました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私自身、今回が2度目の海外でした。ここ最近、日本と韓国の関係が悪く、かなり身構えていましたが日本のニュースを見ただけではわからないたくさんのこと学ぶことができた気がします。日本と違う環境の中で生活することに不安でしたが、ヌリボの方々やTAのサポートのおかげでとても楽しい一週間を過ごすことができました。しかし、自分の勉強不足を身を持って体感した一週間でもありました。ごはん屋さんの注文などはできても日本語の出来ない学生とのコミュニケーションを取ることにかなり苦戦しました。もう一度、韓国に行きたいと思っているのでその時までにはもう少し喋れるようこれから授業を精一杯頑張ろうと思いました。また、韓国以外の海外にも行ってみたいなあと強く思うきっかけにもなりました。このプログラムを知らない人がまだたくさんいると思うのでこれからは色々な人に勧めていけたらいいなと思っています。私自身も、機会があれば長期のプログラムにも参加してみたいです。

所属：商学部 会計学科 2年

出身：茨城県立土浦第三高校

2018.4 拓殖大学入学

2019.9 韓国短期研修参加

【研修国・地域の紹介について】

韓国は朝鮮半島の南に位置し、日本と時差がなく、日本と同じように四季があります。日本からは、飛行機で2時間程度で行くことができます。日本と韓国の文化は似ている部分もありますが、違う部分もあります。

まず食事の際は、日本と同じように箸を使います。しかし、お米を食べる際にはスプーンを使うのが一般的です。また、日本では、食器を持ち上げて自分に近づけて食べますが、韓国では食器を持ってはいけません。現地の学生と話をした際に、この食事のマナーについて聞いてみました。そしたら“絶対にしてはいけない”というわけではないと言っていましたが、マナーを知ることが出来たなら気をつけようと思いました。

そして、次に日本と違うことは、目上の人に対しての行動です。日本でも、名上の人や年上の人には敬語を使いますが、親戚内ではその意識が薄いと思います。しかし、韓国では、親戚内でも必ず敬語を使わなければいけません。これは、韓国の儒教の文化が根強く引き継がれており“年上（年長者）を敬う”という考えがあるからです。なので、電車やバスにお年寄りがいたら必ず席を譲り、お年寄りの前で失礼な態度をとってはいけない、お年寄りには親切にするという考えが強い国だと感じました。

【研修生活について】

研修中の1日のスケジュールは、午前中4時間韓国語の授業を受けて昼食をはさみ午後は文化体験をしました。

韓国語の授業は、ハングルの読み方から始まり簡単な文法や数字、色、曜日、ソウル探訪の際に使える言葉を覚えました。授業内容は、1年次の韓国語の授業と似ていました。そのため、研修に参加した2年生は復習のような授業となりました。しかし、初めて韓国語を習う人だと授業の進みが早く感じると思うので研修前にハングルの良い方は予習した方が授業の内容をより理解できると思います。

文化体験では、韓国の国技であるテコンドーを体験したりK-POPダンスを踊ったりアクティブな活動もありました。文化体験の際の先生方は、皆さん内容を全て韓国語で説明していたので、何を言っているのかわからなかったメンバーもいましたが、研修に参加したメンバー同士で訳して説明をして縛が深まったように感じました。

その他にも、キョンヒ大学の日本語学科の学生と交流をしてお互いの国のこと聞きったり、一緒にご飯を食べに行ったり、買い物にいったりしました。短い時間でしたが、楽しく交流することができました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の留学では、自分の韓国語の実力を改めて知ることができました。研修中に、ヌリボッという学生の方々と一緒に行動することがたくさんありました。ヌリボッの方々は、日本語が話せなかつたので韓国語で会話をしていましたが、上手く伝えられないことが多々ありました。その際にジェスチャーなどで伝え、理解できた際はお互いに喜び、ヌリボッの方と仲良くなることができました。このことから、コミュニケーションは、言葉だけが全てではないことを実感しました。しかし、せっかく韓国語の勉強をしているのでもっと韓国語で話せるようになりたいとおもいました。そのために、これからは今まで以上に韓国語の勉強をし、ハングル検定やTOPICに挑戦したいと思います。

所属：政経学部 経済学科 2年

出身：千葉県立実翔高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.9 韓国短期研修参加

【研修国・地域の紹介について】

日本と韓国の相違点として、季節に関しては四季があり気温も少し肌寒い程度です。習慣として湯舟には入る習慣がないので、シャワーで済ませることになりますが日本の銭湯のような施設もありますのでぜひ行ってみてください。服装については、日本人より派手な髪型や服の方が多いのが印象的で自分を主張する性格の方が多かったです。食べ物に関して、毎食と言ってよいほどキムチが出て宿舎にも常に無料で食べられるキムチやカップ麺があります。個人的な意見としては、味が濃いものが多く若い人にとっては人気なのだと思います。音楽に関してはやはり今、世界的に k-pop が人気なのでどこに行っても様々なアーティストの方の曲が流れていて、路上ライブのクオリティもすごかったです。韓国人の方の考え方は日本人の方と大きく違い、自分の考えははっきりと主張し嫌なこと好きなことははっきり言います。困っている人がいたら、ためらわずにすぐに助けて下さりますし少しの時間しか会わなかつた人でも必ず連絡をくれるのでとても情が深い方々だと思います。研修先の街に関しては、水原という場所に宿舎がありそこで生活をしていました。周りにはカフェと飲食店が多数あり値段も安いです。日本にあるスターバックスコーヒー、セブンイレブンなども多くあります。そこで換金などもできるのでとてもよく利用しました。学校の中の施設に関しては、とても広いのでバスケットコートやカフェなどもあり学生寮も多くあります。食堂は、朝の食堂と昼の食堂の場所が違いました。朝は配膳されるものを食べますが、昼はバイキング形式なので自分が食べたい分だけ食べることができます。町を歩いているとごみがそこら中にあるので、ごみの回収や清掃が日本の方が行き届いていると思います。横断歩道を渡るときは十分に注意した方が良いです。車側は赤になつた瞬間に走ってきますので余裕をもって渡るようにしてください。

【日常生活について】

日常生活に関して言えることは、やはり言葉が通じないということがどれだけ苦労することなのかということです。トイレや食事の面に関しては不便なことはなかったです。授業に関してですが、日本語が話せる先生がついて下さるのでとても安心して授業を受けることができます。難易度は高くなく基本的なことから丁寧に教えて下さるのでとてもよかったです。わからないことがあってもすぐに質問できる環境なのでわかりやすく理解が深まりました。

日本語学科の学生さんとは連絡先を交換し、とても仲良くなりましたお金の面に関しては、日本より物価が安いので安く買い物をすることができました。現金は少し持つておくと割り勘するときに便利で、あとはカードで払ったことが多かったです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して私は物事を様々な面から見ることができるように、色んな人に会って学ぶこと多くコミュニケーション能力も少し向上したと思います。韓国語も前よりは聞き取れるようになりました、簡単な単語を使って意志疎通が取れるようになりました。また、友人も多くできたので今でも連絡を取っています。大学2年でこのような貴重な体験ができたのは、人生においてとてもプラスになりました。今回この研修に参加したことで課外活動の重要性を知れたのでこれを機に様々な活動に取り組みたいと思えるようになりました。今後の進路については、アパレル関係に進みたいので、韓国で見たショップの作り方や接客の仕方を就職した時に使えるようにしたいと思っています。また、ハングル検定なども積極的に受けたいと考えています。



外国語学部中国語学科プログラム 中国（第31回） 北京大学

北京大学

中華人民共和国 北京市海淀区頤和園路5号北京大学
Tel : 86-10-62750592/57362
Email : yumeih@pku.edu.cn
<http://english.pku.edu.cn/>

北京大学は、首都北京にある1898年に創立された中国最高峰の国立大学で、世界大学ランキングでも常に上位に位置されています。歴史的にも著名な人物を数多く輩出し、広大な敷地に約3万人の学生が学んでいます。短期研修生は、北京大学对外中国語教育学院のプロパー教員により、建物の瓦が創設期を思わす伝統の校舎を使用して講義を受けます。

研修概要

目的

生きた中国語に触れ、異文化を体験し、中国語に対する学習意欲を喚起することを目的とします。

対象学生

中国語学科生。中国語履修歴のある他学部・他学科生の参加も可能。

内容

平日はレベル別の少人数の教室で中国語を学習。土曜日または平日午後に課外活動の文化講座があり、京劇や雜技の鑑賞や、故宮や万里の長城の見学など。

単位認定

「海外語学研修」(4単位)を認定

期間

2020年8月上旬～9月上旬（約4週間）

滞在方法

大学内の宿泊施設に滞在。食事は、大学内の食堂を利用。

募集、選考

募集 4月下旬 面接及び発表 5月上旬～中旬

選考方法

面接、書類審査（人物、学業成績、健康状態など総合的に判断）

研修日程（2019年度の参考）

8/3 (土)	成田出発、北京空港着 バスで大学宿舎へ
8/5 (月)	クラス分け、オリエンテーション
8/6 (火)	授業開始
8/30 (金)	授業終了
8/31 (土)	北京空港発、成田到着、通関後解散

研修費用（2019年度の例）

● 旅行基本費用	93,060円
● 学費（授業料・登録料）	158,650円
● 滞在費	74,480円
● 海外旅行総合保険料	5,920円
● 予備費	3,950円

合計 336,060円 その他生活費用等が発生します。
(レート 1RMB=19円で算出)

所属： 外国語学部 中国語学科 1年

出身：群馬県立高崎北高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修生活について】

授業のクラスは事前に自己評価を送り、それを元に北京大学側が決めてくださいます。はじめの2回の授業でクラスが自分に合っていないと感じた際には、クラスを変更することが可能でした。しかし、変更後のクラスの様子は実際に受けてみるまで分からないので、1つ上のレベルのクラスに上がる決断をするのは難しいように感じました。そのため事前研修の際にも度々話が上がると思いますが、もし授業についていけなかつたらクラスを1つ下げればよいと考え、過大評価しそうかなと不安に思うくらいで自己評価を提出するのがちょうどいいと私は思います。

授業は1コマ50分で、主に会話を中心とする1,2限目と文法などを学ぶ3,4限目で構成されていて午前中で終わります。また、同じレベルのクラスでも進行速度やテスト、クラス内で行う発表の内容なども異なります。私が授業を受けた中級クラスの1つでは、1,2限目の先生は中国語のみで授業をしてくださり、3,4限目の先生は基本的には中国語で生徒たちが分からなそうな時は英語使って説明してくださいました。授業で使うテキストは北京大学で製作されたもので、進め方も重点的に行うポイントも拓殖大学の授業とは違い新鮮で新しい発見が多くありました。

【日常生活について】

私たちがお世話になった寮は道路を挟んで北京大学の向かい側にありました。部屋は2人1部屋で、お風呂、トイレなど共用スペースとは別に、ベッドや机、クローゼットなどがついた広々とした個人の部屋がありました。隣人がいる人も、いない人も、途中から来た人もいました。私の場合は、荷物などは置いてありましたが実際に会うことは一度もありませんでした。寮の敷地内には、ボーリングやバトミントンが楽しめる施設や、北京大学の学生証にチャージしたお金で簡単に支払うことが出来るコンビニエンスストアや食堂などもありました。

また、歩いて行ける範囲内に北京でも有名なショッピングセンター「スーパー」、美味しいごはん屋さんもたくさんありました。大学のすぐそばには地下鉄の駅があり、乗り方は日本より数段わかりやすいうえに価格も驚くほど安く、とても便利でした。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して、もっと中国語を主体的に学ぼうという強い気持ちを得ることができました。相手に自分の言いたいことが伝わったときには喜びがありました。しかし、それ以上に単語が分からず相手に伝わらないことの方が何倍も多く、その度にもっと中国語ができたら…と悔しい思いをしました。もっと単語量を増やし、正確な発音ができるようにするためにも授業はもちろん、疑問に思ったことをすぐに調べる癖をつけようと思います。

また来年以降も留学に参加できるように普段の授業から気を引き締めていこうと強く思いました。

所属： 外国語学部 中国語学科 3年

出身：東京成徳大学深谷高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修生活について】

授業は7班あるうちから一人一人個人の能力に合わせて組まれるシステムになっています。授業難易度は7班になるにつれてレベルが上がり、私は5班で授業を受けることになりました。授業内容ですが、中国人の二人の先生がそれぞれ会話と文法の授業に分けて教えてくれました。私の受けた5班の授業レベルはおそらく大学2、3年くらいのレベルに感じました。次に授業日程ですが、基本的に月曜日～金曜日の朝8時～12時です。授業開始時間を日本と比べると中国の方が圧倒的に早く日本では無い文化を感じました。初めは、朝8時からの授業に慣れずストレスを感じることもありましたが、1週間もしないうちに慣れ、ストレスのない留学生活が始められました。私が受けた5班は大学2、3年レベルで3年の私が6、7班に志望しなかった理由は、引率の関口先生にも3年の私と石山君は上のクラスに行くよう指示されていたのですが私は、中国語学科3年の中でも成績が優秀なわけでもなかったので二年の復習も兼ねてやりもう一度改めて見直すことが大事と思ったからです。そして、日本に帰国してあと一年半あるのでしっかりと今回の留学を活かして後期の授業に取り組みたいと思います。

【日常生活について】

中国での生活では、平日でも基本的に午後は自由時間が多く近くのご飯屋さんに行ってたくさん美味しい中国料理を食べました。数多くのお店に行きましたが、一番美味しくて感動したのが北京ダッグです。天安門の近くにある北京ダッグの専門店で値段も高かったですがキュウリや白髪ねぎなどの薬味と春巻きの皮で包んで食べるの本当に美味しかったです。また北京に行く機会があれば、もう一度食べたいです。

また、北京では寮の前に運動場があり、汗を流したいときはそこでバドミントンやジムなどへ行って自由時間有意義に過ごせました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はリスニングや会話が苦手で現地の人の生きた中国を聞き、克服するために留学に行きました。初めはなかなか聞き取ることができなかったのですが、毎日生きた中国語を聞いていたおかげで耳が慣れて少しづつ会話が理解できるようになってきました。しかし、まだまだ100%聞き取ることは出来ないので今回の留学で学んできたことを通して残りの大学生活に活かし勉学に励みたいと思います。そして、留学を終えて、大金を払ってくれた両親に感謝しかありません。今後は親孝行して行きたいと思います。

所属：外国語学部 中国語学科 1 年

出身：都立小川高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修生活について】

私は北京大学で一か月間中国語の授業を受けました。私のクラスは7段階に分かれているうちのレベル2のクラスでした。人数は15人ほどで、日本人の他に、ロシア人やタイ人の方が居ました。一日4時間の授業のうちの最初の2時間が文法で残りの2時間が会話の授業でした。教科書の内容はすべて中国語と英語で書かれていて、どちらの授業も会話文と単語がメインでした。また、先生が私たちに説明するときもすべて中国語と英語でした。最初のうちは聞き取るのが困難だったけれど、研修が終わるにつれてリスニング力も上がりました。授業中分からない単語が出てきたら携帯の翻訳機を使って理解していました。毎日宿題が出ますが文法の授業の宿題は、単語の予習復習、文法の復習問題が多く、会話の授業の宿題は、中国語でのスピーチの原稿作りなども行いました。そこで作った原稿をもとに発表する授業も試験を含め3回ほど行いました。私が印象に残っている授業は、会話の授業で先生に質問された問題をランダムにあてられてこたえていくという内容の授業があり、自分が知っている単語でその質問に答えていくというのがとても楽しくて印象に残っています。ロシアの話やタイの話も聞けて、とても留学ならではの雰囲気で授業出来たことがこのプログラムに参加してよかったです。

【日常生活について】

私が生活していた寮は北京大学東門の向かい側にありました。近いので学校に行くにはとても便利な場所でした。部屋は2人1部屋という構造になっていて、トイレお風呂が共有ですが自分たちの部屋1つずつにオートロックのカギが付いていました。しかし修理や掃除をしてくださる方は自分たちの個室にも入ることが出来るのでパスポートなどは常に持ち歩き、持ち運べない貴重品は机の引き出しに入れてカギをかけ保管していました。ルームメイトの方とはお風呂の時間を決めたりトイレットペーパーを共有したりしていました。授業が終わった後は、主に近くのスーパーへ買物に行ったり、洗濯物をしたり、先輩たちと寮の中にある娯楽施設でボウリングをしたり、大学内にあるバスケットコートでバスケットをしたし体を動かしながら生活していました。寮の敷地内にコンビニがあるのですが朝は9時からしかやっていないので、前の日の晩に次の日の朝ごはんや飲み物を買いに行っていました。

食生活については、朝コンビニのパンを食べ昼は学校の食堂で食べていました。寮の中のコンビニも食堂も学生証にチャージして払うことが出来るので便利でした。夜ご飯はレストランやデパートの中のごはん屋さんで食べることが多かったです。携帯は中国で使えるSIMカードを5枚ほど持つて行ってギガがなくなり次第交換して使っていました。お金はNEOマネーカードに日本円で十万円ほどチャージして、近くの駅のATMで隨時下ろしながら使っていました。週末の課外活動にも積極的に参加し様々な中国の文化に触れました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この研修プログラムは語学を学ぶことはもちろん、中国で実際に一か月生活することができる所以自分が今まで持っていた中国への考えとは全く別の物になり、中国に対してもっと興味が湧き学習意欲にもつながりました。

進路についてはまだ確定していませんが、中国語力をもっと向上させたいと強く感じました。日本で勉強していた中国語と本物の中国語というのは全く別の物で、中国人の方にもっと自分の気持ちをうまく伝えられるようになりたい、中国人と同じ中国語が話したいと思えた短期留学でした。今後も中国に足を運び、この気持ちをもっと将来につなげられるように努力したいです。

所属： 外国語学部 中国語学科 1年
出身：埼玉県立浦和北高等学校
2019.4 拓殖大学入学
2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【中国を留学先に選んだ理由について】

私が中国を留学先に選んだ理由は、中国語を学ぶ上で中国がどのような国か自分自身で見て確かめて知っておきたかったということと、中国最高峰の大学である北京大学で勉強してみたかったということです。元々、中国のポップスカルチャーが好きで、中国の芸能事情等もSNSで見ていたので、なおさら行きたいという気持ちが強かったです。最初はなるべく現地で学べる時間が長くなるよう2年生から参加できる長期留学に参加しようと考えていました。ですが、初めての留学、初めての中国なのにいきなり8か月の留学に参加しても大丈夫なのか？という不安が強かったので1年生のうちに中国体験という意味も兼ねて短期留学に参加してきました。まだ勉強し始めて少ししかたってないのに1か月の留学なんて早いかな？とも思いましたが、行ってみた感想としては全然そんなことなかったです。むしろ勉強し始めて早い段階でネイティブの授業を受けられたので、1か月で圧倒的に力が付きました。2年生で行ってももちろん力になりますが、この点を踏まえるとおすすめは1年生のうちに留学へいくことだと思いました。留学前の段階で絶対に履修しなければいけないという授業はありませんが、向こうの授業はネイティブスピーカーによるフル中国語なので、中国語の授業をある程度真剣に受けていないといけないと思います。私は留学前にHSK3級を取っておきました。

【中国での生活について】

北京大学の授業は平日、朝の8時に始まり、昼の12時で終わります。よって、午後や週末は基本的に自由な時間です。基本的には友達と観光スポットに行ったり、若者が集まる街で遊んだり、ショッピングをしたり…地下鉄の料金が安いのでいろいろな所へ出かけました。行く先々で感じたことは現地の人はほんとに優しい人が多いということです。もちろん日本ほど安全とは言いませんが、フレンドリーさなら中国の方が上かもしれないと思いました。

北京は中国の中では物価が高いといわれていますが、日本と比べるととても安く感じます。ですからつい物を買ってしまうのですが、寮にキッチンがない為毎日食べ物にお金を使います。1回1回は高くなくても1か月間いつも外食だと、ある程度は資金が削られるので、金銭面の管理は気を付けたほうがいいです。

中国で生活するにあたり気を付けたほうがいいことは、水道水は飲めないので水を買い置きしておくこと、寮に冷蔵庫がないので、食べ物はその日のうちに消費すること、パスポートは持ち歩いたほうがいいということです。観光地の入場の際に身分確認をされることもしばしばあるので、出かけたりするときは携帯しておいたほうが助かると思います。また夜10時以降は外出できない決まりなので水や朝ごはんを買い忘れないように気を付けたほうがいいと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この研修で少しですが明らかに中国語の力が付きました。私は長期の留学にも参加してもっともっと語学力を高めたいと思っています。また中国へのイメージもすごくいいものになりました。帰国してからの授業では以前以上に真剣に取り組み、長期留学枠を獲りたいなと思っています。

そして将来私は日本で活躍するだけでなく中国でも活躍できる仕事に就きたいなと考えています。そのためにももっとネイティブになれるように努力し続けていきたいと思っています。

所属： 外国語学部 中国語学科 2 年

出身：埼玉私立歴明高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修国、地域について】

中国の気候のイメージはとても暑く、空気は非常に濁んでいるイメージでしたが実際行ってみると、そこまで暑くなく朝方は肌寒いと感じるぐらいでした。空気は程よく綺麗で、日本の様に湿度が高くないのでカラっとしており過ごしやすかったです。

私が気づいた中国の方の習慣は、朝方に寮の前の広場でご年配の男性が毎日同じ時間に、太極拳をしているところを見かけ教科書に記載されているとおりで驚きました。

食文化の面では、レストランや学内の食堂など様々な場所で食しましたが全体的に香辛料が強く、味付けは日本に比べて濃いという印象を受けました。特に美味しかった食べ物は火鍋という食べ物です。日本でいうしゃぶしゃぶの様な食べ物でとても食べやすかったです。

あと、日本人と中国人で違うなと感じた点、1つは外国人特有の積極性があるというところです。道端で歩いていると、同じ大学の女の子が同じ日に何度も複数の男性から、声を掛けられるという場面を見かけました。道路で歩いていても歩行者お互いが、道を譲らずぶつかっているということもありました。ある意味で日本人にはあまりない積極性でした。

【日常生活について】

普段の生活サイクルは、平日は6時半に起き1時間で支度をし、8時から授業が始まるので学校に行き12時まで授業を受け、終了するとそのまま学内の食堂に行き昼食をとり、その後は各地の観光地に行き、行かない日は近くにある娯楽施設で、ボーリング、バドミントンなどをしてその後、晩御飯をとった後は各々の課題や翌日の予習などをしていました。休日は世界遺産を見に行ったりして過ごしていました。

プログラムの中にカンフー鑑賞や京劇鑑賞などが元々のプログラムに含まれており、こういった機会がないとなかなかみる機会がないので非常に良い経験だったなと改めて思いました。お金は銀行に何度も行き両替をしていました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私が、この短期研修を通して得たことは、中国語のスキルアップは勿論のこと、何事にも臆せず様々なことに挑戦することの大切さをとても感じました。今まであまりこういった学校のプログラムなどに参加してこなかったので、これからはどんなことでも、果敢に挑戦し、充実した学生生活を送っていこうと強く感じました。

来年も、もし可能ならばまた挑戦したいなと思う様な素晴らしい研修でした。

所属：外国語学部 中国語学科 1年

出身：私立花咲徳栄高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修参加の動機について】

私がこの研修に参加しようと思った理由は、中国語学科に入ったばかりで知っている単語が少ない中でも、本場の発音と生活感を体験することによってこれから学んでいく姿勢が変わるとと思いました。日本で勉強するよりも日本語が全くない中の中国での勉強は分からぬワードがあればすぐ調べ、その場で理解し、分からなくなったら何度も見返すことで覚える力がつきました。

1年生から留学に参加するのはとてもお勧めできます。周りには1年生が少ないので頑張ろうという意思がより高まり予習と復習が欠かせなくなり中国語に対する意識が高まります。耳に本場の発音をならすのは早いほうが癖もつきにくいと思うので、1年生からの留学はとても為になるとおもいます。

まだ知っている単語が少ないので、今までの授業で学んだ単語は覚えておくべきだと思います。

出発までに中国の街並みや生活で使える言葉は知っているといいと思います。

【日常生活について】

生活するうえで、水は絶対に必要です。中国の飲み水以外は危険なので、飲むのはもちろんインスタントや歯磨きをするとき、怪我をして洗い流すときは絶対購入した飲料水を使用します。トイレットペーパーは流さず専用のゴミ箱に捨てます。出かけた時もトイレに紙がない場合があるのでティッシュはいつでも持っておくべきです。

京劇や万里の長城に参加しましたがとてもよい経験でした。中国にいても自ら行くには難しいと思うので企画されている研修には行くべきです。

寮が共同スペースで1人目がアメリカ人で英語での会話でした。2人目が韓国人で韓国語と中国語で会話しました。部屋のドアに中国語で書かれたメモが貼ってあり、挨拶をするタイミングがなくそう言ったことをしてくれて嬉しかったです。

買い物は商品がとても安く、けれど使えるものや食べられるものが多いです。衣服と化粧品も安くてよい品が多いです。支払いが微信のみのお店が多かったです。現金しかなく困っていたら、快く現金で対応してくれましたが、微信が使えれば食事や買い物の幅が広がります。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は1か月中国で生活し勉強をしただけでも覚えた中国語が多く、初めよりも授業で理解をすることができたので長期行くことができたらもっと伸びると思います。

北京大学での授業の仕方と拓殖大学での仕方は異なり、北京では分からなくなったら携帯ですぐ調べていました。留学行く前は学校の授業に電子辞書を持って行ってなかったので調べることを後回しにせずその場で解決しようと思います。

航空会社に勤めたいと思っており、日本に来る中国人はやはり多いので、中国語でもなまりがある中国語もあるので、今の中中国語を完璧にしたら、中国人全般と話せるようにしたいです。

所属：外国語学部 中国語学科 2年

出身：茨城県立多賀高等学校出身

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修国の紹介について】

はじめに日本と中国との相違点を紹介します。まずトイレは日本と違ってトイレットペーパーを水に流すことができません。したがって、便器の隣にあるごみ箱に捨てるになります。慣れるまでとても大変でした。外出する際は多めにティッシュを持っておくと安心かもしれません。また中国の食べ物は油っぽくて香辛料が豊富に使われている料理が多くあります。そのようなものを食べていると体が慣れるまではおなかを下しやすくなります。私の場合ずっとおなかを下していました。さらに、お店で並んでいると時々悪びれた様子もなく現地の人は割り込んできます。そこは把握しておくべきと思います。

そして研修先の北京大学、寮のすぐ近くに地下鉄の駅があるのでどこかに行くにも便利だと思います。片道 100 円以下とかで割と遠くまで行くことができます。また近くに銀行もあって円から元への両替も可能なので時々利用していました。ATM もあったのですが私は銀聯に対応したカードを持っていなかったため使うことができませんでした。事前に作っていくことをお勧めします。大学内には食堂が三,四ヶ所、カフェ、映画館、コンビニ、バスケットコートなどがあり、寮にはレストラン、コンビニ、ボーリング場、バトミントンコートなどと様々な施設があるのでとても充実しています。

【研修生活について】

クラスのレベルが 7 段階にわかれていて、レベルによって教室が異なります。レベルは留学前に日本で行う事前アンケートの結果によって北京大学側がレベルを決めてくれます。現地で授業を一日受けてみて自分に合っていないと思ったら一度だけレベルの変更が可能です。私は変更せずにレベル 5 のクラスで一ヶ月間授業を受けました。一コマ 50 分で一日 4 限あります。朝八時からのスタートなので午前中には授業がおわります。1,2 限が口語メインの授業で 3,4 限は筆記メインの授業でした。どちらも授業は簡単な中国語で進んでいきます。先生によって中国語だけでなく英語でも説明してくれる方もいるので、その部分も踏まえてレベルの変更を考えてもいいと思います。また予習復習などは一応してはいましたが、そこまでガッツリとはせず、わからない単語の意味やピンイン、語法の意味や使い方を調べてメモを取る程度だけです。でもおそらくこれは重要なことで授業についていくには必要不可欠なのかもしれないですね。また授業では教科書を使用するのですが、授業内容に関連した先生の雑談からもちよつとした知識を得ることができるので、諸々でレベルアップを期待できると思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

留学に行く前は現地のことをいまひとつ理解していないなくて、日本のメディアを見る限り中国に対してそこまで良い印象は持っていました。でも行ってみると思っていたよりいい人もいたりするし、想像よりも中国ってすごいなって思うこともあり、行かないで勝手に良くない印象を持つのは違うなと思いました。このことで広い視野・視点で見るということを知った気がします。そしていざ本場の中国語をきいてみると聞き取るのがとても難しいし、さらに自分よりも中国語のレベルが高い人の中国語を聞いていると、こんな風に流暢に話せるようになりたいと思い、もっと勉強を頑張らなくてはいけないと感じました。これからの中華語学習のモチベーションアップにつなげて、その中でさらなる資格獲得を目指したいです。また、まだ漠然とはしているものの目標の日本と中国、日本と世界のビジネスの懸け橋となる仕事をするためにも、これらの経験などを活かし、からの中国語学習のモチベーションアップにつなげ、その中でさらなる資格獲得、中国語のレベルアップを目指したいです。

所属： 政経学部 法律学科 2年

出身：北海道釧路北陽高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【日本と中国の生活の違い】

食事において、レストランに行くとお手拭きは提供されなく、水ではなくお湯が出されます。日本では水が出てくるのが当たり前ですが、中国では熱いお湯が出てきます。また、水や油が体に合わなくお腹を壊す可能性が高いです。実際私も中国でお腹を壊し病院に行きました。

気候について、気温は東京とさほど変わらないのですが湿度が低くジメジメしないで過ごしやすいです。また、朝晩は涼しいので快適でした。日中は暑いですが、建物内に入ればクーラーが付いているためとても涼しいです。

トイレについて、日本ではトイレに紙を流すことが出来ますが、中国では流すことが出来ないのでトイレに設置されてあるゴミ箱に使用後捨てなければなりません。さらにウォシュレットが無いため、日本でウォシュレットを愛用している人には厳しい環境だと感じました。また、和式トイレが多いため洋式に慣れている人はつらいと思います。

物価について、とにかく中国は物が安いです。日本円で300円もあればレストランでおいしい物を食べることが出来ます。また、タクシーや地下鉄などの公共機関の運賃もかなり安いので手軽に北京市内を回ることが出来ます。

【クラスでの勉強について】

私は中国語学科ではなく政経学部法律政治学科所属なので第二外国語として中国語を一年半勉強し、中国語検定4級を持っていました。その私が北京大学で7クラス中の4クラス目に配属されて勉強をし、このクラスは自分に適していました。

授業はほとんど中国語で行われ、先生との会話も中国語を用います。ほぼ毎回宿題が出され、授業開始直後に単語テストがありました。教科書に載っている文法はやや難しかったですが、頑張ればついていくレベルのものでした。クラス選びでは、少し難しいなと思うくらいのレベルの所で勉強したほうが良いと感じました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

習った中国語が通じたときにとてもうれしく感じました。その達成感が今後の勉強のモチベーションになると思います。

また実際に中国に行き、まだまだ発展することが出来る国だと感じました。現在の中国のGDPは日本を抜かし世界二位の国になったので、日本が先進している分野を中国でも生かすことにより、より安全かつより清潔、より経済が発展する社会を築き上げることが出来ると思います。進路について具体的に職種は決まっていないのですが、中国を発展させるために海外に支社または支店を持つ企業に就職し、中国を発展させつつ、双方の良いところを取り入れ、お互いにより発展できるような仕事をしたいと考えています。

所属：外国語学部 中国語学科 2年

出身：私立浦和学院高等学校卒業

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修国・地域について】

私が行った8月の北京は気候的にとても過ごし易い環境でした。朝方は25度前後で比較的涼しく日中は30度まで上がります夜も気温が下がって8月でも少し肌寒かったです。日本だと湿気が多くジメジメしていて汗をすぐかいてしまいますが中国は湿気が少ないので日中の30度ぐらいの気温でもあまり汗をかきませんでした。でも陽射しが強かったです。北京の道路は日本に比べるととても広いです。また、道路の端には歩道だけでなく電動自電車が走る道まであります。電動自電車の数は日本に比べると倍ぐらい多いです。北京の交差点では信号が赤でも電動自電車や歩行者が信号無視してくるので危ないです。私が行った研修先の北京は世界遺産が7個もあります。寮の最寄り駅からも近い世界遺産が多かったです。頤和園は最寄り駅から3駅でいけます。天安門や天壇公園も最寄り駅から40分ほどで着くので1ヶ月の間に見に行けます。北京大学内はとても広く建物が凄く多いです。大学の教室やカフェ、図書館にはWi-Fiがついています。大学内の食堂はバイキング形式になっていろいろな料理があります。大学が広いので食堂も4つありました。食堂の料理はとても安くおかずを3つ頼んでも10元で食べられます。ご飯は無料なのでお腹いっぱい食べられます。食堂の料理は油を使った料理が多く野菜を使った料理も油が使われていました。また大学内の食堂やコンビニの支払いは学生証にお金をチャージして支払うシステムで現金では払えませんでした。寮の近くにも食堂はありますがそこはメニュー表に料理の写真がないのでどんな料理かわからないです。また寮の近くに現金で払えるレストランもあります。そこは大学内の食堂よりメニューも多くいろいろな料理がありますが食堂に比べると少し高いです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を行ったことにより中国語に対する考え方があり、また日本で中国語を学ぶ意欲がとても上がりました。また自分が大学を卒業してからについてこの研修を通してやりたい事が明確になったのでそのためには中国語を流暢に喋れるようになることが一番の近道になるのでこれから大学生活を大切に過ごしていきたいです。

所属： 外国語学部 中国語学科 2年

出身：札幌新陽高等学 校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修生活について】

初めに、私は今回の中国短期研修は2回目でした。今回の中国短期研修は1回目とはまた違う価値観で挑めたのでとても楽しいものでした。学習面では、1回目の中国短期研修では低いレベルで中国語を学んでいたので今回はレベルを高くし、レベル5にしました。主な勉強内容は会話と文法でした。内容は少し難しく、もとからわかる内容から全くわからない内容もありました。会話の授業では、本文をしっかりとみんなで読み、文法と単語もやりました。そして、2日に1回、本文を読むテストがありました。また、自分でお題の文を考え、先生との質疑応答や北京に関する質問を出題されたりしました。文法の授業では、本文に沿った文法や、単語を勉強したりということで、文法と単語を重点的に勉強しました。また、本文の内容を暗記、中国の歴史、文化なども学びました。さらに、この授業も2日に1回単語のテストがありました。

会話の授業だけ中間テストがありました。テスト内容は先生に指定された教科書の文を読み、先生に質問されたことを中国語で返し、最後に筆記で文法に関するテストをしました。会話の授業は当然ですが会話でのテスト、文法の授業は、筆記のテストでした。問題数は比較的多いものではありませんでした。最後の授業では、映画を鑑賞することもできました。北京大学の寮での生活は、隣人の荷物が多く共有スペースが狭かったので部屋を変えてもらいました。部屋では、お湯が出なくなるぐらいのトラブルがありました。しかし、1回目の短期研修のように黒い水が出るなどのことはありませんでした。食事は寮内のレストランや大学内の食堂ですませました。料金は安く、味もおいしかったです。今回の短期研修では、いろんなものを食べました。北京ダックはもちろん火鍋や串焼き、餃子、チャーハンなどを食べました。どれもとてもおいしかったです。

休日はいろいろなところへ、天安門、万里の長城、中関村、五道口、サンリートンなど多くの場所にいきました。中関村では、一目惚れで1000元以上する服を買ってしまいました。万里の長城では暑い中階段で登ってしまったため熱中症になりかけてしまいました。そこだけは少々苦い思い出になりました。また、王府井に行き、そこでタピオカミルクティーを飲んだのですがあまりの美味しさに2回ほど行ってしまいました。

【研修国・地域の紹介について】

今回、研修国だった中国では、日本と違って湿度も低く暑い日もありましたがとても過ごしやすい国でした。また、研修先の北京大学では、学内の運動場で毎日運動している学生さんや先生方の姿が見られました。日本の大学ではあまり見られない光景だと思いました。

大学の食堂も日本と違って券売機などではなく目の前で指示したものを盛り付けてくれて学生カードで支払うというシステムでした。逆に驚いたのが現金が使えなかったことです。

街中では、100m間隔と言っていいほどごみ箱が設置されており、日本より便利に感じました。また、レンタル自転車もとても沢山ありました。人口の多い国なので仕方がないのかなと思いました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修で中国語にさらに磨きがかかって少し上達したと感じました。今後の学生生活では、研修に参加をしていない学生に差をつけて授業に取り組もうと思いました。大学では習っていないことなどを学べたので、これを武器にもっと高みを目指そうと思えました。また、国際交流は大事だという価値観がより増しました。進路は変わらず中国人を中心とした観光業についての職業に就きたいと思っています。そのため研修後ももっと真剣に中国語学習に取り組もうと思いました。

所属： 外国語学部中国語学科 1 年

出身：神奈川県立相模原総合高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修生活について】

北京大学の授業は、レベルごとにクラス分けされており 1 から 6 まであります。そのクラスは、事前にアンケートをとり、自分の実力にあったクラスに分けられます。また、向こうでも変更することができます。

授業内容は、1、2限は文法の授業、3、4限は口話の授業を受けました。

1、2限の授業では、教科書の本文に出てくる文法を詳しく丁寧に教えてくれます。この授業は、先生からの質問が多く、教科書に載っている単語を使い日常のことなどを聞かれ答えることが多かったです。

3、4限の授業では、教科書の本文をグループで発音練習をやりました。また、習った単語を使い発表をしたり、グループになり自分の国の料理を発表したりしました。

授業は、日本の授業より少し難しいですが、すごく親身で、質問しやすい環境で中国語を学べました。

【日常生活について】

放課後は、各自自由行動で、学校から近いショッピングモールがあるところで、買い物などしました。また、学校内のバスケットコートで、バスケをしたり、ボーリングをしたり、バトミントンなどしました。現地の人と一緒にスポーツをして楽しみました。

休日は、電車に乗り、世界遺産に行ったり、ショッピングをしたり、遠出をしていました。世界遺産は、どこも広く、沢山の観光客で賑わっていました。有名なショッピングモールは、とても広く綺麗で、日本にもあるブランド店が沢山ありました。また、日本の無印良品や、とんかつサボテン、牛角などもありました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修で、自分の実力のなさを実感しましたが、留学を行ったことにより、語学の向上や、これから励みになりました。今まで、バイトや、遊びなどで学習時間が減っておりテストでよい結果がでませんでした。しかし、留学でわからない事や、通じなかつたりしたので、来年長期留学にいきたいので、その時までに、相手が何を言っているのか理解して会話がしっかりと成立できるようになります。また、留学するために、中国語検定が必要なので、そのために、毎日こつこつやっていきたいです。

また、将来中国語を使って仕事をしたいと思っています。私は、まだしっかりとした仕事が明確に決まっていません。ですが、人のためになる仕事がしたいと考えています。そこで、中国の方と関わりながら仕事ができたらいいです。明確の仕事を中国語学習しながら見つけていきたいです。

所属：外国語 学部 中国語 学科 2 年

出身：富山県立高岡西高校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修生活について】

研修では、自分の実力の無さを実感させられました。最初の自己紹介では自分の中国語が通じ感動しましたが、徐々に講師の中国語が聞き取れなくなりました。教科書や黒板の文字は理解できるが、講師に質問されると何を聞かれているか分からず、答えるも声調を直される事が増えました。私は中国語での会話能力やコミュニケーション力が低いことがこの留学で良く分かり、これから強化ポイントが分かりました。

【日常生活について】

北京の留学生活では、新たな出会いが多くありました。近畿大学の学生や東海大学、国士館大学の学生と仲が良くなり、今でもたまに連絡を取っています。そして何より、2人の韓国人の留学生と出会いました。1人は、現地で引率をして下さったジャンウです。彼とは、放課後のサッカーサークルで話す機会が増え、サッカー以外の話もするようになりました。彼は、最近北京大学を卒業し軍隊に入るそうです。もう一人はスンフィです。彼とは私が在籍したクラス4で出会いました。彼は中国語が堪能で、日本語も日常生活程度話せます。彼とは授業で協力したり、カフェに行ったり、昼食と一緒に食べたりしました。そして、授業の合間に、韓国語も教えてもらいました。お互いに観光地の情報を交換したり、すごく親密になりました。このような出会いが、私の日常生活を充実したものになりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は研修で、自分の弱点を多く知ることが出来ました。一つ目は、研修生活について上記した通り、中国語でのコミュニケーション力の低さです。中国語学科に在学させて頂いている以上、現地の中国の方と会話やビジネスが出来る程のコミュニケーション力を身に着けたいと考えています。さらに近い所で言えば、現在、会長を務めさせて頂いている中国語劇愛好会にも北方工業大学から来た留学生が参加してくれており、より親密な交流が出来ればと考えています。そして、来年2020年の東京オリンピック・パラリンピックで都市ボランティアに応募しており、マッチングが成立すれば、多くの外国の方をスタジアムや観光地へ案内する役割になります。その時に、迅速に対応できるように今から力を身に着けたいと思いました。

二つ目は、異文化について無知なところが多くあったことです。例えば、エスカレーターの乗る位置や地下鉄でのマナーなどです。今回、現地で学んだ異文化を覚え、さらに細かいマナーや礼儀を学ぶ必要があると感じました。

所属：外国語学部 中国語学科 1年

出身：私立本庄第一高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修国・地域について】

私は北京に留学に行き、日本と中国の違いを多く感じることがありました。まずは食についてです。日本での食事は、主菜・副菜・主食・汁物が主ですが、中国では、白米に主菜一品というメニューがほとんどでした。レストランでの外食の際は、一品ずつの量が多いため、友人と分け合って食べていました。

日本で外食をして食事を食べ終えた際には、端に食器をまとめていますが、中国ではそのままにしておく方がほとんどでした。

研修先北京は、日本よりも道路が広く、片側4車線以上ある場所もありました。中国人の移動方法は日本と同じように車やタクシー、バス、電車などもありましたが、セグウェイで移動する人もいました。また、日本でいうレンタル自転車のようなもので移動する人もとても多くいました。自転車が歩道においてあれば誰でも使用でき、どこでも自転車の利用をやめることができるシステムにはとても感動し、日本にもこのような制度が欲しいと思いました。

一か月間宿泊した北京大学の寮は、Wi-Fi環境もよく、学校も近く、寮の敷地内にレストランや食堂、公園、運動のできる施設など、身近には生活に便利な施設がたくさんだったので、一か月間とても過ごしやすかったです。

【研修生活について】

私は今回の研修では、1から7段階のクラスがあるうちの、第3クラスで一か月間授業をうけました。第3クラスは、留学前の私よりもレベルが高く、周りに同級生が少ない環境での授業でした。最初は先生が何を話しているのかほとんどわからない状態からのスタートでしたが、周りに先輩方がたくさんいるという利点を生かして、わからない言葉はすぐに聞くなどをし、自ら話したい言葉を調べて話していくうちに、授業にもなれ、段々と先生の話をしていることが理解できるようになりました。

授業では、ほぼ毎日その日の復習をかねた宿題が出て、教科書の新出単語は必ず予習するようにしていました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回参加した北京大学夏季研修を通じて、改めて言語を学ぶ上で大切なことは、自ら話そうとする意欲と、わからない言葉はすぐに調べることだと思いました。授業の時間だけでも言語力は向上しますが、買い物やレストランに行って授業で学んだ言葉を使用し、その場で調べた言葉を使うとより言語が身に付きました。

また、ルームメイトと話すときは英語を使用するので、英語力も今までよりも向上できたと思います。

今回の研修を終えて、研修前の自分よりも一皮むけた自分になって帰国することが出来たので良かったです。研修で得たことを、今後の言語学習に生かしていきます。

所属： 外国語学部 中国語学科 1年

出身：都立拝島高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修生活について】

研修先ではクラス別での授業でした。私は、3のクラスで勉強しました。1, 2時間目に文法、3, 4時間目に口語を学びました。どちらも教科書でした。文法の授業では、まず単語をやってから本文を読みました。他には、教科書の例文の問題を解いたり、その例文の答え合わせの際に一人ずつ読んだりしました。先生が質問してきたことに答えたり、単語テストをしたりもしました。口語の授業でも、まず単語をやってから本文をやりました。口語の授業では、書くということよりも、ピンインの確認や読みが中心でした。他には、先生の質問に答えたり、自分で持ってきた写真について3分間発表をしたりしました。レベル3でしたが、授業中に先生が発する言葉でも、まだ分からぬ單語が沢山ある為、辞書を用意しておいて常に分からぬ單語を調べて授業を受けていました。例文を作っていて分からぬ時なども、その時に先生に質問をするようにしていました。文法の授業では、毎回宿題が出ていたので、友達と一緒にやったり、分からぬものは先輩に聞きに行ったりしていました。予習は、単語や本文を読んで行っていました。復習は、分からなかつた単語をもう一度やったり、その日に使つた言葉を友達と会話したりしていました。研修先ならではのこととしては、寮にあるコンビニに買い物に行った時に、言葉の使い方が違つたりすると、その場で直してもらいました。

【日常生活について】

授業が終わってからの時間は、北京大学内にある食堂に食べに行っていました。そのあとは寮に戻り、洗濯物や部屋の掃除、宿題などをしていました。それらが終わってから、買い物に行ったり、観光に行ったり、バスケやバドミントン等のスポーツをしたり、自由に過ごしていました。週末は、少し遠出の観光に行ったり、買い物に行つたりしていました。夜ご飯などは、寮の敷地内にあるレストランに行ったり、寮から徒歩20分ほどのところにある中関村というところで食べたりしていました。中関村には、スーパー・マーケットやアディダス、スケッチャーズなどのお店が沢山ありました。これらのお店で買い物をするのにも、日本語や英語が全く通じない為、何をするのにも中国語でした。なので、日常生活においても常に中国語に触れているので、勉強をしているというような意識はなく、中国語を学べていたと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私が研修を通して得たことは、自信と積極性です。中国語を学び始めて約4か月でこの研修に参加しました。まだろくに会話もできない状態でしたが、中国で授業を受け生活をしている間に、少しではありますが、耳が慣れてきたのか聞き取りやすくなってきました。質問で聞かれている内容が分かり、答える回数が増えてきました。その度に、自信がついてきました。街での買い物の時なども自分から話さなくては、何も始まらず自分から積極的に話しかけました。これらることは、今後の学生生活にも活かされると思います。少しでも自信がついたことによって、自分から積極的に発言ができるようになるので、上達も早くなるのではないかと思いました。今回の研修の経験から言葉だけではなく、コミュニケーション力なども学ぶことが出来たので、就職などにも今回の研修が活かされると思いました。

所属： 外国語学部 中国語 学科 3年

出身：県立巻高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修国・地域の紹介について】

夏場日本は朝昼夜と1日中蒸し暑い気候ですが中国では昼間は日本と同じく暑いのですが朝夜に関しては涼しくとてもすこしやすいです。降水量も日本より少なく晴れの日が多い印象です。日本では食事をする前にはいただきますと手を合わせる習慣がありますが中国にはその習慣はありません。中国の方は夜に太陽拳をする習慣があるそうで寮のそとで結構見かけました。日本では餃子は主食ではなく副菜としてよく食べられていますが中国では主に主食として扱われており大きさも日本のより大きいものがほとんどです。餃子の種類も水餃子がメインで焼餃子はあまり見かけませんでした。一番日本との違いを感じたのは交通機関に関してです。バイクはヘルメット着用義務がなく皆ヘルメットは着用せずに運転をしています。自転車とバイクの交通量がとても多く初めてみたときは衝撃的でした。車の運転に関しても日本とは異なる点が多くクラクションを鳴らす場面がとても多かったです。中国の方はすぐに鳴らすのでとてもうるさいと感じました。電車に乗るのも日本とは異なり空港で見かける金属探知機のようなもので危ないものをもっていないかチェックされます。毎回必ずチェックされます。日本と違い中国には街中のいたるところにごみ箱が設置されており素晴らしいと感じました。日本ではすぐにごみで溢れかえってきたなくなってしまうので設置されていませんが中国はその辺がしっかりしていると思います。中国のトイレは水圧がとても弱いのでトイレットペーパーは流せません。公共のトイレではトイレットペーパーを置いてあるところは警備員が立っていました。

【日常生活について】

基本的には平日は午前中授業があり午後の活動は各自自由です。北京大学側が用意してくれたツアーミたいなものに参加することができカンフーや京劇を観に行くことができます。土日は基本何もないで買い物に行ったり観光したりなどできます。中国は物価が安いので買い物はとてもおすすめです。北京大学ではフットサルサークルのようなものがあり誰でも参加できます。様々な国の留学生が参加しているので他の国の留学生と交流したい人などは参加するのをお勧めします。やったことがない人も参加できます。中国の料理は脂っぽい食べ物が多く胃を痛めてしまう恐れがあるので胃薬は携帯していたほうが良いです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回自分は中国語を向上させるために留学しました。元々聞き取りの力は少し有ったのでそこは確実に伸びたと思います。自分たちが何気なく使っている日本語が使えないというのは少し怖かったですが新鮮でとても良い経験が出来たと思っています。今後この経験を生かし日々中国語を向上させることに励みたいと思います。

所属：外国語学部中国語学科2年
出身：私立武蔵野高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修国・地域の紹介について】

中国にはいろいろな日本との違いがありました。例えば気候でイメージでは暑くて空気も良くないと思っていた。しかし日本と違い空気が乾燥していて日本のジメジメした暑い夏と比べると涼しくてとても過ごしやすかったです。街中の様子はとにかく人が多いという感想をもちました。というのも中国人の方はとても活動的だと思いました。街中で何人かで集まりヤンコ踊りや太極拳、また卓球台やバスケットコートで運動をしていました。服装は男性が半そで短パンの方が多かったと思います。女性は日焼けを避けるためだと思うのですが長袖で帽子をかぶっている方が多かったと思います。これはあまり日本との差は感じませんでした。食べ物は派手で油が多めの料理と辛めの料理が多かったです。しかしそれがとてもおいしかったです。日本の料理とはまた違ったおいしさで感動しました。

【日常生活について】

寮での生活は二人で共同スペースを使い自分の部屋がありました。僕のルームメイトはカナダ人の方で来たばかりで何もわからない僕に親切にいろいろ教えてくれました。クラスの留学生もいい人たちと一緒に楽しく学ぶことが出来ました。また寮を警備してくださっている方も優しい方でした。日本と同じように最低限のルールさえ守れば寮の生活はなにも心配することはありません。

放課後は授業が午前中に終わるので観光に行ったり、大学内でスポーツをしたりしました。また、この研修の中で万里の長城、カンフーの講演、京劇を見学したりしました。どれも迫力があって放課後や休日がとても充実したものになりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して僕はいろいろな物を得る事が出来ました。中国語力をあげるだけでなく、日本とは異なる地にいくことによって得られる経験。他の留学生との交流することで友人になることもできました。この研修で中国に対して以前より興味を持つようになりました。中国語学科の学生としてさらに中国の言語だけでなく文化や歴史にも着目して今後留学の経験を活かして授業に取り組み、より理解を深めていこうと思います。留学したことはきっと僕の進路の選択肢を増やしてくれたと思っています。中国に携わる仕事はもちろん、多くの言語が喋れた方が有利な世の中になっているので留学で得た力と今後の学生生活で中国語を学び進路を決めたいと思いました。

所属： 外国語学部 中国語学科 1年

出身：都立杉並高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修参加の動機について】

単に中国語学科だというのもありました、一年生のうちに一度自分が学んでいる言語の地域に行くことで、これから、本国の人に通用するような語学力を身につけていくうえで、どのようなことを具体的にどうやって勉強するべきかを知りたかったからです。また、今後中国語を学んでいくにあたり、言語だけでなく、歴史や文化、情勢などを自分の目で確かめるべきだと思ったからです。今回この研修に参加したことで、期待していた以上のものを得ることができました。しかし、やはり中国語を学び始めて四か月での一か月にわたる生活は少々きついものがありました。経験はとても大事ではありますが、一年間基礎力を身につけてから参加したほうが、もっと中国での勉学や生活が楽しくなっていたと思います。ですが、得たもののほうが多いので、今回の研修に参加したことを後悔していません。出発までには、中国語の勉強はもちろんですが、やはりそれぞれの国の今の状況を確認しておいたほうがいいと思います。これから行く国のこと全く知らずに行くほど危険なことはありません。その点においては、出発前に危機管理の講座があったのでとても助かりました。

【日常生活について】

今回私は北京大学の留学プログラムに参加しましたが、北京大学の寮は思っていたよりずっときれいでした。また、平日は毎日朝の八時から授業があり、校舎まで歩いて約二十分かかるため、余裕をもって三十五分前には寮を出ていました。そのため、夏季休業中で緩みがちな生活習慣がきちんと引き締まっていたように感じます。毎晩九時か十時に短期研修に参加しているみんなで集まって、その日の報告などをしました。放課後や週末は基本的に自由なため、各自勉強をしたり、遊びに行ったり、寝たりととても楽しかったです。授業は七つに分かれましたが、それぞれのクラスに様々な国の仲間がいて、中国人の先生が授業をして、とても国際色豊かな教室だったため、中国語を通して、中国人とはもちろん、フランス人、スペイン人、韓国人とたくさんの友達ができました。

授業では、中国語のみを使い、教科書の説明文まで中国語でした。訳はすべて英語で書かれていました。そのため、英語の勉強にもなっていたように感じます。お金については、私は生活費として、約十万円を持っていましたが、かなり余りました。中国は物価が安いため、食費がとにかく安かったです。だからと言って、使い過ぎには注意するようにしました。インターネットについては、SimFreeにしてVPNのサービスを使わないと全くつながりません。事前に準備しておくことが大切だと感じました。食事は、胃と腸と相談しながら、少しずつ慣れていくべきだと思います。これ以外にも、貴重品は常に身に着けておく、など基本的なことを意識できていれば、何の不自由もないように感じました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は、今回の留学を通して、当初の目的でもあった、言語以外にも、中国の様々なことを学ぶということができたと感じています。大学側が用意してくださった、盧溝橋への見学では、衝撃的なものを見た、という思いと同時に、日中の関係や反目について深く考えさせられました。普段の生活の中でも、中国人の全体的な特徴をとらえることができましたし、中国人は私が思っていたほど悪い人たちではなく、むしろいい人のほうが多い。ということもわかりました。この研修で、興味を持ったことや抱いた感情は決して忘れずに、これから勉学につなげていきます。

所属： 外国語学部 中国語 学科 1 年

出身：立正大学付属立正高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修参加の動機について】

私は中国語学科で中国語を学ぶべく、今回の研修に参加しました。私は高校生の時から中国に興味を持っており、大学入学前からこの研修を知っていました。大学入学後、約三か月間中国語を学んできてこの短期間で学んだ中国語が現地ではどのくらい通用するのだろうと思い、ますますこの研修に参加したいという気持ちが強くなったからです。

そして、授業中に先生方から参加して今の中国を感じてきてほしいとの話があり、一年生のうちにできるだけ多くの中国語に触れたいと思い、ネイティブの中国語を聞き、色々経験をしたいと思ったからです。

【日常生活について】

この研修は北京大学の学生寮で生活します。一つの大きな部屋の中に更に二つに部屋が分かれており、シャワー、トイレなどが主に共同です。隣人は同じ大学の生徒ではなく他の大学の日本人。あるいは外国人でした。私の隣人はアメリカ人でした。最初は緊張したけどわざわざ部屋に挨拶してきてくれて、そこで会話が弾み打ち解けることができました。このように日本ではできない経験もすることができます。

授業は基本午前で終わって、放課後は自由時間です。午後の時間はみんなで大学の食堂に行ってお昼ごはんを食べたり、近くのデパートに行ったり、疲れた日には寮に戻りみんなでお昼寝をしてから夕方に出かけたりしていました。休日はみんなで行きたいところを計画して天安門など観光地にも行きました。お金はカードに十万円いれて持っていました。基本的に日本より物価がすごく安いので、お金が足りなくて困ったことはありません。ただ出歩くときは貴重品の管理などは徹底しました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修でリスニング力、コミュニケーション力が得られたと思っています。中国に来た初日買い物に行った際には店員さんが何と言っているか分からなかったけど、中国で生活をすると耳が慣れ、少しですが聞き取れるようになります。この聞き取れた瞬間に喜びを得ることができて、友達同士でもその喜びを分かち合っていました。また、どんどん発言やコミュニケーションをとることによって自分の間違いや、今まで気が付けなかった点にも注目することができます。

このように普段から全てが新鮮で刺激的な生活を送っていました。また今後はこの研修で得たことを思い出しながら勉強に励んでいきたいと思っています。

所属： 外国語学部 中国語学科 1年

出身：埼玉県立大宮南高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.3 中国短期研修参加（北京大学）

【中国短期研修参加の動機について】

私は、中国語を身につけたい、話せるようになりたいという考えだけで拓殖大学の中国語学科に入学を決めました。そのため、中国に関する知識は小中高の歴史の授業で習った事のみで、現在の中国にはどんな人がいるのか、どんなものがあるのか、どういった生活を送っているのか。何も知りませんでした。中国語を学ぶ上で、中国からの留学生と関わる機会も多く、これから将来中国の人々と関わる仕事に就いたとして、中国語を話せるだけで全く文化を知らないのは、中国の人々にも失礼であると思いました。また、私は内向的な性格なので外向的な人が多い外国にとても強い憧れを持っていました。そのため、今回の研修を通して、少しでも外向的になりたい、いろいろな考え方をしてみたい。そう思い留学を決意しました。

研修に行くおすすめのタイミングは、この1年生の夏休みがぴったりです。実際に今回中国に行ってみて、沢山の中国人の人々と話す機会がありましたが、たった4ヶ月学んだ中国語で伝わるのはごくわずかな単語でした。自分なりに一生懸命伝えているつもりが全く聞き取ってもらえず、もどかしかったです。しかし、そんな思いをしたからこそ中国人ともっとすらすらと沢山の話がしたいという思いが強くなり、今後の中国語の学習に対するやる気につながりました。そして、様々な中国の文化に触れる事ができ中国という国をとても好きになることができました。研修に参加するにあたって、授業で習った単語や、日常会話で使える単語など単語のストックがとても大切だと思います。文章にして伝えることができなくても単語だけである程度伝わることもあるので、行く前に沢山覚えておくと安心です。

【日常生活について】

学校は毎日昼の12時に終わり、土日は休みなので、自由な時間がとても沢山ありました。そのため、放課後は寮の近くのショッピングモールへ行ったり、電車に乗って観光地へ行ったりしました。週に一度研修生全員で学校からバスに乗り、カンフーや京劇の鑑賞、盧溝橋、万里の長城へも行きました。北京にある観光スポットはほぼ全てまわることができたと思います。

中国は食べ物の物価が日本に比べてとても安いので、研修中の食事は基本的に外食でした。時間がないときは寮の中にあるコンビニで買って部屋で食べたりもしました。北京ダックを食べたり、中国の家庭料理を食べたり、はじめはなれない中国独特の味付けに戸惑いましたが、香りや味付けにも日に日になれました。中国には意外にも日本食のお店が多くあったので、中国のご飯に比べると少し高いですがたまに食べに行ったりもしました。

研修には日本人だけでなく、韓国やロシアなど沢山の国からの研修生がいました。みんなとてもフレンドリーで英語や中国語を使って沢山話をしました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回この研修に参加して、自分が思っていたよりも沢山の事を得ることができ、自分で沢山の変化があったと思います。食の違い、文化の違い、言葉の違いなど実際に体感し世界の大きさを実感しました。また、今まで歴史の授業やテレビの報道など、中国のわるいところを多く見てきていたので、正直中国に対するイメージはあまりよくありませんでした。しかし、実際に中国に行ってみると、日本と同じように綺麗な青空でした。そして、中国の人はどの人もみんな温かい人ばかりでとても感動しました。

今回の研修で中国語をもっと話せるようになりたい、読めるようになりたいと、中国語に対する意欲が大学に入学する前よりも強くなりました。自分の目標に向けてこれから勉強を頑張りたいです。

中国で過した一ヶ月間は自分の中でとても素晴らしい経験になりましたし、忘れられない思い出です。

所属： 政経学部 法律政治学科 3年

出身： 明法中学高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 中国短期研修参加（北京大学）

【研修参加の動機について】

中国を研修先として選んだのは、中国語を現地で学びたいと思ったからです。外国語学部中国語学科でもないのになぜ参加をしたのかというと理由は一つだけあります。大学生になってから春と夏には約一か月の旅行をしてアジアや東南アジアで生活をしていました。そこで台湾やマカオに行く機会があり、現地の人と中国語で友達が会話をしているのを見てとてもかっこいいと思いました。第二外国語で中国語を履修していたのですが私が発音する中国語では会話になりませんでした。ですから日本に帰ってきてから中国語をさらに勉強をしようと思い、HSK3.4級の取得をしました。そして中国が大好きだったので一石二鳥だと思いこの研修に参加しました。

【学校・日常生活について】

授業は8時から12時まで。日本にいた時は毎日こんなに早い生活をすることはなかったので起きられるかどうか心配でしたが意外と日本を離れてみると意外と朝早く起きることが出来ます。クラスに行くまで大体10分くらいなので、最悪ギリギリに起きても間に合います。クラスは自分にあったクラスでないとついていけなかったりすると思うのでそこは自分と相談しながらクラスを変えるべきだと思います。授業は基本的に楽しく、午前中の時間が過ぎるのはあっという間でした。

午前中に授業が終わって午後の生活は基本的に自由です。学校のプログラムがなければなにをしていても大丈夫です。授業の予習や復習をしたり、観光に行くこともできます。疲れていれば昼寝をしても大丈夫です。

お金のことに関してですが、大体10万円を持っていけばまず困ることはないです。むしろ裕福な生活を送ることが出来ると思います。

携帯のSNS等はVPNというものを使わないと中国では利用できないので日本にいるときにアプリをダウンロードしておくべきです。寮にあるWi-Fiは弱いところもあるので携帯をSIMフリーにしておくのがおすすめです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修を通してもちろん知識も得られたのですが、それ以上に良い経験をすることが出来て、良い友達を作ることが出来ました。世界中に友達を作ることでこれから海外に行くときはほかの人とは違う楽しみ方をすることが出来ます。私は将来の夢は決まっていて中国と関係していることなのでこれからは更に難しいHSKを取得したいと思っています。



外国語学部英米語学科プログラム

カナダ[®](第12回) ランガラ・カレッジ

Langara College

100 West 49th Avenue,
Vancouver B.C., Canada V5Y 2Z6 Canada
Tel : 1-604-323-5023 Fax : 1-604-327-9210
E-mail : leap@langara.bc.ca
<http://www.langara.bc.ca/international/esl/leap>

1965年に設立された公立短期大学で、23,000人の学生が在籍しています。トランスファー大学としての要素が強く、卒業生の多くが有力大学に編入しています。本学との交流は古く、本学長期研修はこのランガラ・カレッジからスタートしました。ESLクラス(STEP, LEAP)の教育には定評があり、集中して英語を学ぶことが出来ます。

研修概要

目的

生きた英語に触れ、異文化を体験し、英語に対する学習意欲を喚起することを目的とします。

対象学生

全学部学生。外国語学部英米語学科1年生と2年生以降の学生で選抜します。

内容

短期集中英語講座受講、美術館等の見学、課外活動

単位認定

「海外語学研修」(4単位)を認定

期間

2020年8月上旬～8月下旬(約4週間)

滞在方法

現地家庭にホームステイ

募集、選考

募集4月下旬 面接及び発表5月中旬

選考方法

面接、書類審査(人物、学業成績、健康状態など総合的に判断)

研修日程(2019年度の参考)

8/3 (土)	羽田発 バンクーバー着 送迎バスにてキャンパスへ、その後ホスト宅へ
8/6 (火)	プレイスメントテスト、オリエンテーション 授業開始
8/30 (金)	授業終了・修了式
8/31 (土)	バンクーバー発
9/1 (日)	羽田着、通関後解散

研修費用(2019年度の例)

● 旅行基本費用	190,000円
● 学費(授業料・登録費・教材費)	154,000円
● ホームステイ代	96,096円
● 空港送迎費	4,400円
● バスカード	8,800円
● 両空港使用料および燃油サーチャージ	28,500円
● 電子渡航認証取得費用	4,320円
● ホームステイ斡旋料	15,840円
● 海外旅行総合保険	6,010円
● 予備費	2,854円

合計 510,820円 その他生活費用等が発生します。
(レート 1CA\$ = 88円で算出)

所属： 外国語学部 英米語 学科 1年
出身：東京都私立駒沢学園女子高等学校卒業
2019.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ短期研修参加(ランガラカレッジ)

【研修生活について】

カナダのランガラカレッジの SERP のプログラムでは学校の初日にレベル分けのテストが行われました。リスニングのテストで、簡単なものから段々と難しくなっていく形式でした。そのテストの結果で、自分に合ったクラスで同じくらいの学力の人と授業が出来ます。授業の内容は、自分のことについて簡単な自己紹介の仕方、昨日何をしたか、今日の放課後に何をする予定なのかなどの簡単なスマートトークを 4 人のグループなどで会話をし、グループの人が話したことについてクラス全体に知らせるところから授業がスタートします。スマートトークの中でただ聞き手にまわるのではなく相手が発言したことに対してたくさん質問をしてみたり、自分のことに対して質問がありますか？など自分から会話を進めていくことが大切だと感じました。SERP には日本人と韓国人が参加していましたので、日本、韓国、カナダの 3 つの国を比べ文化にどんな違いがあるのか、制度やルールの相違点を考えグループで話し合うこともしました。英語で話すだけでなく自國のことを改めて考えることが出来、そして異文化をその国に住んでいる人から直接学ぶことが出来ました。議論するのはただルールなどを話すだけでなくプラスで自分はどう思っているのかなど、意見を聞かれるため最初は難しいと感じる場面もありました。完璧な回答をしなきや、間違えていたらどうしようという考えが私の中にあって初めの頃は答えがわかつてもいうことが出来ないことが多くありましたが、クラスメイトや先生がとてもフレンドリーなものもあり、恥を捨て発言することができるようになりました。

授業はグループで議論して発表したり、ポスターを作って違うクラスの人の前でプレゼンテーションをすることもしました。内容から自分谷で考え暗記して発表するので、きついなと思うものもありましたが、協力して作りあげ、終わった後の達成感やクラスメイトとの仲も深めることが出来、自分の成長を感じることができるカリキュラムだと感じました。宿題ではホストファミリーにインタビューしてくるものや、課外学習の感想などを書いてくるものがあり、ホストファミリーと話す機会が増え、感想文は提出して文法を直してくれました。

授業はただ受けるだけでは何も変わらないと感じました。自分から積極的に発言したり質問をしたりすることで成長できるものだと感じました。日本での授業でも同じですが、それ以上に積極性が求められます。自分の行動次第でたくさんのものを得ることが出来ます。私はたくさんの成長を感じられたのと同時に、それ以上に欠点を見つけることが出来た 1 ヶ月になりました。

【日常生活について】

私がステイした家はとても大きい家で私を含め 4 人の留学生がいました。だからと言って困ることもなく、毎日朝、お昼、夜のご飯を用意してくれたり雨の日には学校に送ってくれることもありました。キッチン、冷蔵庫、テレビ、洗濯など自分が好きな時に使っていいと言われていたので日常生活で困ることはありませんでした。朝はホストファミリーが休みの日はパンケーキや卵とベーコンなどを用意してくれました。自分で用意する日は、シリアル、トースト、ヨーグルトやフルーツなどを食べていました。朝食の時に昨日したこと、今日の予定などを話していました。放課後に外食することが決まっていたら夜ご飯はいらないとしっかり伝える、朝の時点で予定がわかつてなかったら、メッセージを送るなど自分ことを曖昧にせず伝えることが大切だと感じました。ホストファミリーと会話をすれば向こうから聞いてくれますが、自分から話す時間を作り学校以外の時間で英語を話す環境を作りました。

放課後は学校が 3 時に終わるので買い物や観光をして毎日出かけました。カナダについて最初の日は先輩がダウンタウンに連れて行ってくれました。帰り方もわからなかつた私達にたくさんのこと教えていただきました。先輩たちがいたのでとても心強く充実した 1 ヶ月を過ごすことができました。

1 日も無駄にしないように仲良い友達と放課後どこに行くかなど計画を立ててショッピング、ご飯を食べに行きました。カナダは日が沈むのが午後 8 時半くらいなので安心して遊ぶことができました。観光地に行ったり買い物をするのも楽しいですが、サンセットがとても綺麗なので見に行くことをお勧めします。

クラスメイトの韓国人とも友達になり放課後遊びに行きました。英語でしか会話できないのでたくさん英語を使うことができます。たくさん会話したいからお互い頑張って勉強し、高め合いながら日常生活を送ることができました。日本に興味を持っている人が多くとてもフレンドリーな人が多いので友達になると面白いです。

放課後の時間をどう使うかによって充実した生活ができるか、できないかが決まってくると思います。時間はすぐに過ぎてしまいます。1 ヶ月という短い期間の中で計画的に積極的に生活することを勧めします。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの短期研修が初めての留学でした。英語が好きで、参加してみたら？と勧められて友達も参加するので行ってみようとした。自分の英語力に不安しかなかったので最初は怖くてたまらなかったというのが本音です。ですが友達や先輩など周りの環境に恵まれ不安な気持ちはすぐになくなりました。毎日英語で会話できることができなくて最初は聞き取ることができなかつたバスのアナウンスや買い物に行った時話しかけられた言葉など日に日にわかるようになって小さな成長をたくさん感じることができました。

私は自分のことを誰かに話したり、人前で話すことが得意ではありません。でも、この研修を通して完璧じゃなくても良い、失敗しても良いんだと考えられるようになりました。自分の弱さを知って悔しい思いもしました。でも一緒に乗り越えて、支えてくれる友達がいたから本当に濃い 1 ヶ月を過ごすことができました。

また来年絶対カナダに戻ってきてたいと心のそこから思います。そのためにも今後の学校生活で積極的に授業を受け 1 分も無駄にしないという気持ちで過ごしたいです。英語を学ぶことに本気になれました。目標として来年のカナダの長期研修に絶対参加すること、将来の夢はフライトアテンダントになること、明確な目標と夢を持って学校生活を送っていきたいと考えています。

誰にも負けないという気持ちを行動に移しこれからまたスタートを切りたいと思います。

所属：外国語学部 英米語学科 1年

出身：横浜清風高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 カナダ短期研修参加(ランガラカレッジ)

【研修国・地域の紹介について】

初めに、カナダの街についてですが、カナダ（バンクーバー）は想像よりも住みやすかったです。というのも、空港から大学の最寄り駅までの所要時間でさえ、乗り換えせずにおよそ 30 分程だったからです。電車に限らずバスも普及しているので交通面はとても便利でした。加えて、一部を除いて基本的に私が訪れた街は奇麗でした。

続いて、カナダと日本の違いです。

まずは夏の気候についてです。カナダの夏は日本と違い 30 度を超えることは滅多にありません。加えて、湿度が低いのでジメジメせずとても快適です。また、日差しが強いので日向は暑く感じますが、ひとたび日陰に入ると体感温度は全く違います。つまり、朝晩は冷えますが昼になると気温が上がります。ゆえに、現地では真夏のような恰好の人もいる一方で薄いダウンジャケットを着ている人もいました。そして共通しているのは、多くの人々がファッションに無頓着でした。男性は T シャツにズボン、女性はキャミソールに短いパンツというスタイルが多かったですように思います。

次は食生活についてです。カナダ人は日本人と比べて栄養バランスはあまり考えない傾向があると思います。カナダに滞在していた 1 か月間で新鮮な生野菜を食べられたのは、たったの 1, 2 回でした。ホームステイ先の食事として野菜が出ることはほぼなく、また外で食事をする際、セットとしてサラダが出ることは少ないので追加でオーダーしなければいけませんでした。

最後にカナダ人の習慣についてです。カナダではレストランなどで食事をした後はチップを払うのが当たり前となっています。また、フレンドリーな店員が多くお店に入る時や会計をする時などに世間話をすることが多いです。さらに、洗濯機がとても大きいので、基本的に洗濯は毎日せず週に 1 度でした。

【日常生活について】

フリーWi-Fi は至る所に飛んでいますが、使えないところも多いので SIM カードの契約をしたほうがいいと思いました。カナダは日が沈むのが遅いため、夜 9 時になんとなく明るかったです。しかし、9 時を過ぎると一気に暗くなります。加えて住宅街は街灯が全くと言っていいほど無いので、辺りは暗く家までの道のりもわからなくなります。ゆえに、夜 9 時前には帰宅するようにしたほうがいいと思いました。

また、クレジットカードの上限額は予め確認しておいた方が安全です。実際、カナダでカードの限度額超過で金銭的に不自由になった人がいました。他国でお金が使えなくなるということはとても怖いことです。事前に確認が大事だと改めて思いました。

そして、拓殖大学以外の留学生は同じ日本人とあとは韓国人だけでした。韓国人の友人ができたのは今回の短期留学の大きな収穫の 1 つだったと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して得たものは間違いない積極性だと思います。カナダについてすぐの頃は、私含め皆、先生に英語で何か聞かれて答えようとするもなんとなく歯切れが悪く、しっかりと受け答え出来ていないように感じました。しかし、日が経つにつれ徐々に大きな声ではっきりとした物言いで受け答えが出来るようになってきました。

また、今まで海外旅行に何度も行ったことはありました。英語を話す国には行ったことがありませんでした。自分の英語のレベルで意思疎通できるかどうか不安だったからです。しかしながら今回 1 か月カナダに滞在してみたところ、英語の出来が悪くても、簡単な単語だけでも、伝えたいことは伝わるということを知りました。これからは「自分の英語力じゃ...」などと物怖じせずにどんどん海外旅行に行きたいと思いました。今回 1 か月海外で過ごすことができたので、違うプログラムでまた留学に行きたいと考えています。将来の職業などはまだ決まっていませんが、日本だけでなく実際に海外に行き世界に目を向けて、将来の選択肢を増やせるよう視野を広げたいです。

所属：外国語学部 英米語学科 1年

出身：私立関東第一高等学校

2019.4 2019年拓殖大学入学

2019.8 2019年カナダ短期研修参加(ランガラカレッジ)

【研修生活について】

学校の初日にクラス分けがリスニングテストのみで行われ、私はリスニングが苦手だったために一番下のクラスに入りました。そのクラスの全員が日本人で、英語を苦手としている人が多かったと思います。授業の難易度は高くなく、習った文法も既に知っているものでした。授業としてダウンタウンをクラス関係なく6人くらいの人数で探検しに行く授業があり、私のグループには韓国人の女の子も一人いました。クラスが日本人のみで、このままでカナダに来て外国人の友達を作れずに終わってしまうと思い、その日は韓国人の子とできるだけ英語で会話をすることの目標にしました。韓国人の友達と英語で会話をすることは初めての体験で、お互いの共通して話せる言語が英語のみの環境でコミュニケーションをとることは本当に楽しかったです。その韓国人の友達と仲良くなることができ、二人で日本食を食べに行きました。自分から遊びに誘ったり、たくさん話しかけてみたり、自分から行動したからこそ日本人しかいないクラスでも韓国人と二人で遊びに行くことができたと思います。普段の授業の休み時間にネイティブの先生におすすめのリスニング方法でラジオが聞けるサイトを教えてもらったり、韓国人とご飯に行くのにおすすめの日本食レストランを紹介してもらうなど様々なことを話すことができました。

【日常生活について】

ホームステイをする際には大学が決めた門限があり、友達のホームステイ先によっては門限に厳しくない家庭もありましたが、私のホームステイ先は門限に厳しく、門限を破ってしまった日はホストマザーにとても怒られました。放課後はクラスメイトと毎日いろんな場所に出かけました。私の友達の紹介で他のクラスの子と友達になれ、英語で自分のことについて話したり相手のことについて聞いたりするのは本当に良い経験だったと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修でまた絶対に会いたいと思える友達たちを作ることができました。私が大学1年の夏にカナダに行っていなければ彼らとは会うことができなかっただし、彼らと会話をしたり遊びに行くことで様々なことを考えて一ヶ月を過ごすことが出来たと思います。それと同時に自分のリスニング力の低さや、英語のボキャブラリーの少なさを実感しました。私にもう少しリスニング力があればバスで話しかけてくれた人やホストファミリーとももっと沢山話せていたと思うととても悔しいです。ですが、カナダに行っていろんな人達に出会うことができ、いろんな事について考える良い機会になりました。これから学校生活でも英語を話す授業では少しでも発音や自分のできるところから意識し、能力を伸ばせるようにしたいです。

所属：外国語学部英米語学科 1年

出身：私立武南高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 カナダ短期研修参加(ランガラカレッジ)

【研修参加の動機について】

4月に行われたオリエンテーションで担当になった先輩の勧めでカナダの短期研修に興味を持ちました。夏の短期研修ではオーストラリアも選ぶことができたのですが、以前訪れたことがあるため、行ったことのない国に行ってみたいと思い、カナダを選択しました。夏休みはたいてい友達と遊んだりアルバイトに明け暮れている生活を送っていました。しかし今回この研修を知り、夏休みを海外で過ごす貴重な機会だとおもいこのプログラムに参加しました。この研修を行ったことにより今後の計画や目標が具体的に決まるようになりました。だらだらと過ごしていたらこんなにモチベーションが上がらなかつたと思います。また、この研修によって充実した毎日を送ることができたため、来年や再来年の長期研修にも参加したいと思っています。そのためにTOEICやGPAの成績を伸ばす必要があるため、頑張りたいと思えるようになりました。また、普段の授業で積極的に英語にかかわることがどれだけ大切か学びました。必修科目のほかにワークショップという科目があります。ネイティブの教員が担当しており、クラスメイトと英語を使ってたくさん会話をするのでお勧めです。

【日常生活について】

学校の初日にリスニングのテストが行われ、クラス分けされます。私のクラスは日本人と韓国人が半分ずつくらいになりました。韓国人とコミュニケーションをとるには、もちろん英語は必須です。また、ホストファミリーとコミュニケーションをとるのにも英語を使います。つまり常に英語を使わざるを得ない状況です。最初は不安でしたが、クラスメイトや先生と話したりホストファミリーと会話を楽しんでいるうちに、その不安は消えました。大事なことは、自分の英語力に自信がなくても積極的に話しかけることです。相手は真剣に話を聞いてくれましたし、間違えることや知らないことは恥ずかしくないということを改めて実感しました。そうすることでだんだん自分の英語力に自信が持ててきたし、友達もたくさん作ることができました。

また、貴重品の管理について話します。バンクーバーは比較的安全な場所です。しかし、海外にいるということを常に意識してください。わたしはこの研修を機にクレジットカードをつくりました。バンクーバーはカードを使える店がほとんどだったので、カードを使う機会が多かったです。しかし常に周りに注意を払い、自分の手元にあるか何回も確認しました。幸いトラブルに巻き込まれることはなかったですが、財布やスマートフォン、パスポートの管理には常に注意してください。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修を通して英語だけでなく、様々な文化について学ぶことができました。私は自分の英語力にあまり自信を持ったことがなかったのですが、同じクラスの人やホストファミリーにたくさん話しかけました。文法や発音の仕方が多少間違っていてもお互い気にせず話せました。英語力を向上させるために大切なことは、積極性なのだと身をもって感じることができました。ほんとうに毎日が楽しく、長期研修に向けて日々の授業を大事にしたいと思いました。1年生のうちに短期研修に参加することは、今後の授業にも大きくかかわってくるのでぜひ考えてみてください。

所属：外国語学部 英米語学科 1年

出身：私立錦城学園高校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 カナダ短期研修参加(ランガラカレッジ)

【研修参加の動機について】

私は、高校1年生の時に2週間くらいオーストラリアに短期研修に行ったことがあります。ですが、当時は今以上に英語力も未熟で現地で通っていた大学の人たち、ホストファミリーとうまくコミュニケーションが取れませんでした。さらに初めての海外だったりオーストラリアが冬で日没が早くて17時には真っ暗だったりどこかに買い物に行くなどの観光がまるでできませんでした。そのため、私はこのふがいない結果がとても悔しくてたまりませんでした。なので大学生になったらこのリベンジをしたいと高校生の時に思っていました。最初は周りの仲のいい子たちが今回の研修に参加しないとのことだったので、勇気が出ず「来年にしよう」と思っていました。ですが、大野先生が「1年で短期に行って2年で長期に行くのがベスト」だと仰っていたのと、両親が背中を押してくれたので今回の研修に参加しました。私は、1年生の夏に行くのが最高のタイミングだと思います。大学1年生最初の夏休みを遊びではなく短期研修に捧げた代償は大きかったと感じました。なぜなら、1年生の夏に行くことによって2年生の夏に長期研修に参加できる可能性が上がるからです。もちろん短期研修に参加せず2年生で長期研修に参加するという手段もあると思います。ですが、ほとんどの人が短期研修に参加して不安を払拭してから長期研修に参加という段階を踏みたいと思っていると思います。段階を踏みたい人からすると、同じ1年生でも春の短期研修に参加してからだと2年生の時に長期研修には参加できません。そのため、1年生の「夏」に短期研修に参加して勉強意欲があげ長期研修に応募するための条件をクリアすることが、気持ちよくそして最短で長期研修に参加することだとおもいます。

【研修生活について】

研修前は、クラス分けテストで1番下のクラスになってしまったらどうしようだとか、授業についていけなかつたらどうしようと思っていたが、先生が丁寧に授業をしてくれたので全く問題ありませんでした。向こうでは、日本でしているような勉強法ではなくとにかくコミュニケーションをとることを課されました。そのため、ホストファミリーにインタビューをするという宿題を出されました。実際その方法はとても身になったと思います。日が経つにつれて先生やホストファミリーの話がより理解できるのが実感できました。授業ではLGBTQなどの世界的な問題について考えるなどの海外ならではの内容でした。それらのことについて自分の意見を話すことやほかの人の意見を聞いたことはとてもいい体験でした。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修で自分の英語力の未熟さを再確認したので、リスニングだったらディクテーションを繰り返したり、語彙だったらいつも単語の勉強も単語テストを乗り越えるためのその場しのぎの暗記だったのでしっかりと身につくまでやったり、今まで「まあいいや」で頑張れてなかったことを頑張ろうと思います。

進路は確実には決まっていませんが、今回の研修などで以前から薄々と思っていた「英語に近い仕事がしたいな」という気持ちが研修前より強まりました。

所属：外国語学部英米語学科 1 年

出身：山梨県立吉田高等学校

2019 年 4 月 拓殖入学

2019 年 8 月 カナダ短期留学参加(ランガラカレッジ)

【研修参加動機とカナダという国】

私は、以前にカナダは移住しやすいということを耳にしたことがあり、それからカナダについてとても関心がありました。入学当初の先輩の「モチベーションにもなるから留学したほうがいいよ」という勧めもあり、他の言語や文化を直接肌で感じてみたいため留学することを決めました。

留学する前は、言語能力、人種差別や異文化になじめなかつたらどうしようなどの多くの不安がありました。いざ留学してみると、カナダの人は人と人の距離感がとても近く、フレンドリーで優しいので、多少片言の英語でも真剣に聞き取ろうしてくれたり、伝えようしてくれました。実際、私が、コインランドリーで困っているとき、定員ではない人が助けてくださったり、いつも行っていたドラックストアでは、レジの人と談笑したりすることもありました。

カナダに渡って一番驚いたのは、非常にアジア人が多いということです。私は、ほとんどが白人だという偏見を持っていたので本当に驚いたのと同時に、本当に移住しやすいと肌で感じることができてうれしかったです。カナダは多くの文化が合わさってできている国なので、道を歩いているだけでもたくさんの異文化に触れることができました。

【日常生活について】

カナダは、水不足が大きな問題となっているので、洗濯が一週間に一度だけや、シャワーは、一人十分までと決まっていたり、各家庭で異なりますが、とても節水に力を入れている国です。私のホストファミリーは中国人だったのですが、留学初日にホストマザーに洗濯は、十日に一度だけと言われとれも驚きました。そのほかにも、食文化も日本と大きく異なり、正直おいしくはなかったです、なので外食がメインになっていました。留学中は、室内にこもっているよりも外に出て、多くの人と会話することが勉強になるので、留学でできた友達と一緒に毎日外出していました。留学には、日本以外の学生も参加していて、国をまたいで友達を作ることができます。また、各家庭には門限が設けられていて、それよりおくれて帰宅する場合、ホストファミリーに連絡することが必要になってきます。日本では LINE が主流ですが、カナダのひとはほとんど使用していないなく、メッセージなどで連絡を取り合いました。

【留学を通して得たことと今後の学校生活への影響と進路】

私は、留学で生の英語に直接触れ、以前よりリスニングが明らかに伸びました。そのほかにも、たくさんの文化を感じ異文化への理解や英語以外の外国語への関心がとても深まったので、より多くの外国語を学びたいと思いました。この留学は、元々カナダ移住を視野に入れてのものだったのですが、他の国にも渡りその文化に直接触れたいと思いました。この留学では、実際カナダに住むことで、机の上の勉強だけではわからない日常の生活を体験し、これ以上ない学習の機会だったと思います。

所属： 外国語学部 英米語学科 1 年
出身：神奈川県立藤沢西高等学校
2019.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ短期研修参加(ランガラカレッジ)

【検修国・研修先の紹介について】

8月の1か月の検修だったのですが、日本とは違いカナダは夏でもそれほど暑くなく、過ごしやすい気候でした。朝晩は寒いと感じる日も多かったです。レストランや学校、建物の中は冷房が効いているので、長そでを持って行ったほうがいいと思いました。

バンクーバーはすごくたくさんの人種が集まっているという印象がつよいです。カナダ人だけでなくアジア人もとても多かったと感じました、なのでみんなが快適に暮らせるように、いろいろな国の食べ物が売っているスーパーマーケットがあったり、フードコートには様々な国の料理がありました。もちろん日本食もあり、お寿司屋さんはすごく多かったです。

研修先のランガラカレッジは駅からも近いし、バス停も近いので交通の便は良かったです、さらに、ランガラ駅からダウンタウンまで電車で1本なのですごく行きやすいです。最初に支給されるコンパスカードを使うと無料で電車やバスが使えるので、たくさん出かけることができました。

【日常生活について】

ホームステイ先のおうちは、カナダ人のおうちは少ないと思いますが、どの家のホストファミリーもすごく親切な方ばかりで楽しく過ごすことができると思います。最初にルールなどを聞くとさらに過ごしやすいと思いました。私のホストファミリーはフィリピン人だったのですが、放課後にいろんなところに連れて行ってくださったり、たくさん英語で話しかけてくださったりしてくださる親切な方々でした。

放課後は友達と自由に遊びに行くこともでき、私は毎日のようにどこかに行っていました。放課後は完全に自由なので帰ってホストファミリーと過ごしてもいいし、友達と過ごしてもいいと思います。学校には日本人だけでなく韓国人もいるので、仲良くなつて遊びに行くのは楽しいと思います。韓国人の子たちはすごくフレンドリーな子たちが多い、一緒に遊ぶと楽しかったです。

朝昼晩ご飯はホストファミリーが作ってくれますが、夜ご飯はたまに友達と食べることもありました。ご飯がいらない場合は連絡を忘れないように注意しました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

一番感じたことは初めてこんなに長く海外において毎日英語に触れる生活で自分の英語がつうじることの喜びだと思います。最初は自信がなく自分から話すことが出来なかつたんですが、自分から行動しないと誰も何もしてくれないと思い、自分からはなしかけるように意識しながら生活しました。カナダに一緒に行った長期の人にあこがれたので来年自分も行けるように今から TOEIC や、学校の授業を頑張りたいと思いました。そんな目標ができたので、とてもいい経験になったと思いました。

所属：国際学部 国際学科 1年

出身：私立埼玉栄高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 カナダ短期研修参加(ランガラカレッジ)

【研修生活について】

授業クラスは登校初日にリスニングテストを行い、英語力別で分けられます。授業内容としては、カナダの文化を学び、英語でディスカッションやプレゼンテーション、また週に2日間ほどバンクーバーを観光するプログラムも組み込まれています。ネイティブの先生による英語オンリーの授業なので、英語でコミュニケーションをとれるようになりたい、と思っている人にとってかなり良い環境が整っていると思います。同じプログラムに参加しにきた他大学の生徒さんの中には、地方からの学生や韓国人の学生もいました。私のクラスには4人の韓国人留学生がいて、私と韓国人学生とカナダで知り合った日本人の友達と、放課後にダウンタウンに遊びに行ったりもしました。

観光プログラムの中で私が一番楽しかったのは、カヤックをしたことです。カヤックは海の波が緩やかな場所で行います。そのため、運が良ければカヤックの途中に野生のアザラシを見るすることができます。このように、留学はもちろん語学を学ぶために海外へ行くことが目的ではありますが、その国でしか味わえない文化に触れることも重要であると私自身感じました。この研修は楽しみながらも英語を学ぶことができ、とても充実していました。

【日常生活について】

各家庭生徒1名のホームステイを体験しました。私のホストファミリーは、6人家族と大家族の家庭でした。初めは緊張してしまって上手くコミュニケーションをとることができず、戸惑いました。しかし、毎日夕食後にホストファザーとお話しをしていくごとに少しずつ信頼が生まれ、心を開いて会話をすることができるようになっていきました。朝、昼、夕食は、ホストファミリーが用意してくれますが、夕食を友達と外へ食べてくる場合はその旨を伝えて連絡を取り合います。私のホームステイ先はホストマザーが洗濯をしてくれましたが、ほとんどの家庭は自分で洗濯機をまわすようでした。家庭でのルールは、ホストファミリーによって異なるので一番に確認するのが良いと思います。カナダは、夏とはいっても朝晩は冷え込むので上着は必要です。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この短期研修に参加した生徒のほとんどは英米語学科の人だったので、最初は不安でしたがクラスわけで同じになつたりして他学科の友達もできました。私自身、留学自体が初めてでホームステイも初めてだったので不安はかなりありました。現地の先生はとても親切でサポートをしてくれたので問題はありませんでした。クラスやホストファミリーとコミュニケーションをとるのはもちろん英語で、英語を話さざるを得ない環境に自分を置くことで自然に英語が出てくるようになりました。これは日本ではなかなか出来ないことなので、留学でしか体験のできないことだと思います。今まででは英語を勉強したい、しなくちゃとばかり思っていましたが、英語はコミュニケーションをとるツールだという感覚が身につきました。英語が話せる嬉しさを感じられたので、今後学生生活での英語学習への取り組みに生かしていきます。

所属：国際学部 国際学科 1年

出身：日本大学藤沢高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 カナダ短期研修参加(ランガラカレッジ)

【研修参加の動機について】

高校の修学旅行でカナダに行きました。そのときはわずか1週間という短い期間でした。学校が組んでくれているので特に英語を使うこともなくただただ旅行を楽しむという感覚でした。そのため次は実際にホームステイをして英語を使い実際にカナダに住む人と同じ暮らしを体験したいと思い参加しました。

修学旅行の時は周りに多くの日本人がいて先生がいつでも助けてくださる状況だったので今回は実際に英語を使って暮らすことが経験できて良かったです。

1年生のこの時期に参加できてとても良かったです。自分の英語力がどのくらいなのかどれぐらい通じるのか学ぶことができました。早いうちから自分の置かれている状況を知ることができて良かったです。それがこれから英語を勉強していく上でのモチベーションにつながりました。

2年生でも参加できますが早いうちにいろいろ経験できるという意味で1年生での参加をおすすめします。英語で伝えたいのに動詞や単語が出てこないことがあったのである程度単語帳で復習しておくと良いと思いました。

【日常生活について】

日本と文化の違うカナダでの生活は戸惑うことも多くありました。例えば、洗濯物は週に一回だけまとめて洗うことやご飯は多く作って次の日のお昼や夜に同じ物を食べるということです。日本ではほぼ毎日洗うのが当たり前だったので週に一回しか回さないことが少しストレスでした。カナダは多民族国家でアジアからの移民の人が多くいます。私のホームステイ先も香港人のご夫婦の家でした。そのためいつもジャンクフードというよりはアジア系の食事、夜ご飯に白米が出ることも多く食事で困ることはさほどありませんでした。ただ野菜を食べる機会が少なかったので日本に帰ったら野菜を食べたいと思っていました。朝ご飯は自分で作ります。コーンフレークや食パンがあるので自分で食べたいものを出して食べるという感じです。日本の朝ご飯に比べ軽めな食事になることが多かったです。ほとんどの家ではホームステイできる用の家の作りになっており、トイレやお風呂が二個以上あります。ホストファミリーとは別だったので自分の入りたいときにはいることができ、気を使わなくて良いので安心でした。ホームステイ先のルールは特になく、何時に帰ってくるのか夜ご飯は必要なのかの連絡やお風呂出たらきれいにする、自分が使った食器は自分で洗うというぐらいでした。学校が終わるとほぼ毎日のように遊びに出かけました。海を見に行ったりアウトレットで買い物をしたりおいしいご飯を食べに行ったりしました。今の期間だけ夜にナイトマーケットが開かれ、様々な国の料理が屋台で売っていたり、小さな遊園地のようにアトラクションがあったりしてたくさん楽しむことができました。学校の授業の中でアクティビティがありカヤックに乗ったり山に行ったり自然にもたくさんふれあうことができました。韓国からも同じプログラムで来ている生徒がいてその人たちと英語で会話できたのが良い経験になりました。日本語が全く通じないので会話するには英語を使う必要があり言葉の壁を感じましたしもっと英語力を上げて深い話がしたいと思えるようになりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

自分の英語力の低さに気付かされされました。スムーズに英語で会話している姿を見て自分も同じようになりたい、自分の思っていることをそのままに話せるようになりたいと強く思いました。今は毎日英語に触れて留学していた頃の感覚を忘れないように維持したいです。留学に行ってより一層英語が好きになりました。今後は日本で英語を話すためにできることは何か考えていきたいです。

所属：外国語 学部 英米語 学科 2 年
出身：私立安田学園高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ短期研修参加(ランガラ・カレッジ)

【カナダと日本について】

私は、今回初めて留学しました。そして、この1か月で多くの事を学び多くの事を体験しました。そして、Langara Collegeでの授業やホームステイ先での過ごした時間は私にとって貴重なものになりました。

まず、カナダの気温は日本の夏に比べてとても涼しく過ごしやすい気温でした。そして、カナダは多文化の国なので色々な国の人があります。街を歩いて驚いたことは、私たち日本人にとってはTシャツに一枚羽織るくらいでちょうど良かったのですが、タンクトップだけの人もいれば、ダウンジャケットを着ている人もいました。同じ場所にいても体感温度は違うという事に気づき面白いなと思いました。

1ヶ月生活しているとカナダと比べて日本の良いところ悪いところも感じることができました。私が感じた良いところは、日本の街はきれいだという事です。外にゴミは落ちてないし、空気も臭くないですがカナダは、街中にゴミが落ちています。バス停には必ずと言っていい程、ゴミ箱が1つ設置されていますが、常にゴミが満杯で頻繁には回収されていないようです。日本の悪いところはシャイだということです。カナダではバスに乗る時に運転手と挨拶をします。日本では挨拶をしないので驚きました。そして買い物するときも店員さんが How are you? 等とその日のお客さんの調子を聞いてきます。最後には Have a nice day! と言ってくれます。日本ではお客様の調子を聞くことはないのでこのやり取りがとても新鮮に感じました。そして、私が道に迷っていると、どこに行きたいの?と聞いてくれて教えてくれました。とても親切な人が多いなと思いました。

【交流について】

カナダで通っていた学校では日本人と韓国人がいました。私のクラスには韓国人が4人いて、最初は韓国人の英語の発音が少し違い、会話することに難しく感じていましたが1週間も経つと慣れてきて楽しく会話することができました。学校は月曜日から金曜日まで9時から15時まで週に1回はカッヤクや水族館、山登りなど行事がありました。学校の授業は、クラスの中で3、4人のグループを作り意見交換をして最終的に1つの意見にまとめるという事をしていました。その中で韓国人の考え方などを知ることができとても楽しく感じました。

私のホストファミリーはフィリピン人で家の中ではフィリピン語と英語が混ざって会話されていました。生活をしていて特に嫌なこともなく自由に過ごすことができました。毎日お弁当も作ってくれました。少し日本食を恋しく感じることもありましたが味もとても美味しいかったです。洗濯は週に1回でハンカチなど1週間分ないものは毎日手洗いをしていました。週末になるとホストファミリーが車で湖やブルーベリー狩り、バーベキューに連れて行ってくれました。そこには、ホストファミリーの友達も沢山いたので多くの人と会話することができました。

私の家では門限が23時だったので放課後毎日のように遊びに行っていました。カナダは21時くらいまでとても明るく、つい夜だということを忘れてしまいます。家に帰るとホストファザーとマザーが今日はどこ行ったの?など聞いてくれて、毎晩会話をしていました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの1か月で今までに知らなかった事を沢山知れて、たったの1か月でしたが多くの人に知り合う事ができました。それは私にとって貴重な時間でした。海外で生活してみて日本との違いを実際に体験して感じることができました。私は自分の英語力をもっと上げることができれば会話もスムーズになり楽しくなるのかなと思って生活していました。なので、今後の授業で積極的に取り組み英語の技能を上げたいと思います。

私は将来どんな仕事に就くかまだ決まっていませんが、英語を使う仕事に就きたいとこの留学を通して改めて思いました。

外国語学部 英米語学科 2年
神奈川県立大和西高等学校 出身
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ短期研修参加(ランガラ・カレッジ)

【研修国・地域の紹介について】

カナダは日本と違って夏でも湿気がなく、朝と夜は少し冷えますが毎日とても過ごしやすい気候でした。私は研修に行く前、カナダは白人系が多いイメージでしたが多文化主義な国なのでいろんな人種の方がいました。場所にもよりますがアジア系が思った以上に多くて驚きました。そのため飲食店も幅広く、日本人が経営しているお店もありました。カナダは比較的安全な国だと言われていますが、街を歩いていると道端にホームレスなどが座り込んでいる光景をよく目にしました。そのような人たちはドラッグに依存している人だから気を付けるように言われました。カナダは日本よりバスと電車がとても楽でした。バスはガスではなく電気を使って走るのでバスはワイヤーでつながっていました。また、バス停とバス停の距離が短いのでたくさん停留所がありました。降りるときはボタンではなく窓側にある黄色のワイヤーを引っ張るので最初はなかなか慣れませんでした。電車は日本より複雑ではないので迷ったりすることもなかったので便利でした。

研修中通っていたランガラ・カレッジは有名大学進学を目指す学生が多い大学で留学生もたくさんいます。住宅地にあり、公園のような広いキャンパスで落ち着いた雰囲気でした。キャンパス内には教室がたくさんあり、カフェテリアにはスターバックスやカナダにしかない Tim Hortons というお店もあり充実していました。

【日常生活について】

私のホストファミリーはフィリピン系のカナダ人でした。もう一人中国人の留学生もいたので食事の時間は決まっていました。朝は基本トーストと目玉焼きでしたが、夜は洋食や中華など幅広くとても美味しかったです。食事中会話することがあまりなかった分、家に帰ったらその日の出来事を話すようにしていました。家の鍵が渡されなかつたので門限は 21 時～22 時と他の人より早いなと思いましたが、安全を第一に考えてくれていたんだなと感じています。洗濯は週に 1 回だったのでやりくりするのが少し大変でした。ホストファミリーがどこか連れていってくれることは特にありませんでしたが、おすすめの観光地やお店などたくさん教えてくれました。一ヶ月間しかないのであとで後悔しないようにいろんな場所に行きました。日帰りでヴィクトリアという島に行きました。片道 4 時間かかりましたがフェリーを使って移動するのが初めてだったのでいい経験になりました。学校では授業以外に週に 1 回アクティビティがありカヤックを体験したり、水族館に行きました。クラスには日本人と韓国人がいて短期間でしたがとても仲良くなることができました。中でも、放課後にクラス全員で公園でピクニックをしたのが印象的です。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修を通して行動力が上がったと感じています。カナダという、初めて来た土地で生活することに最初はとても不安でしたが、自分から行動しなければ何も始まらないと思い、次第に日本にいるときよりも積極的に行動するようになりました。自分の思いを英語で伝えるのは難しいけれど、相手にちゃんと伝わった時はとても嬉しかったです。また、カナダにはいろんな人種の人がいて当然考え方や感じ方も違うのでたくさん刺激を受け、将来への視野を広げることができました。ホストファミリーに「たくさん勉強してお金を貯めて自分のやりたいことのすることはとても大事なことだからこの一ヶ月間いろんな経験をしてね。」と言われたことがとても心に残っています。今後の学生生活では自分の将来像を見つめ直し、この短期研修で学んだことを活かして自分がするべきことは何なのかよく考えて過ごしていきたいと思います。

所属：国際学部 国際学科 2年
出身：神奈川県立上鶴間高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 カナダ短期研修参加(ランガラ・カレッジ)

【研修参加の動機について】

私がこのカナダ短期研修に参加した動機は大きく分けて二つあります。まず一つ目は、英語力の向上です。カナダ人やホストファミリーのスピーチングはとても速いのでヒアリングを鍛えるのにすごく最適だと思いました。また、グループ授業での積極的な姿勢も改善できるのではないかと思い参加を希望しました。英語を学ぶのはとても大切なことだとは思っていますが、それよりも私はその国の文化や歴史について知りたいとも思いました。カナダの歴史や文化は自分でも知らないようなことがたくさんあると思い、それをより近くで感じたいなと思ったからです。

二つ目は、友情の輪を広げることです。自分は明るい性格だと思っているので、初めて会う人でもすぐに打ち解けられる自信があります。なので、カナダでは留学生やカナダ人の人たちと友好な関係を築きたいなと思いました。研修後は、カナダで出来た友達と、日本に帰ってきても SNS などで連絡を取り合えるような仲になっているはずです。

【日常生活について】

日常生活では、ホストファミリーとの間に注意事項や約束事があります。例えば、ホストマザーがいない時はお皿は自分で洗う、自室で食事をしないなどごく普通の決まり事です。放課後は友達とダウンタウンという町までショッピングに行くことが多かったです。大学のアクティビティとしてカヤック体験やプレゼンテーションなどをしました。色々なイベントがカナダにはあり、たくさん行ってみたいなと思ったのですが、お金を使いすぎるとお土産などが買えなくなってしまうので、気持ち多めに持つて行った方がいいと思います。カナダはどこにでも Wi-Fi があるので、ポケット Wi-Fi はあまり必要ないかと思います。食事はホストファミリーに早めに嫌いなものを伝えておいた方といいかもしません。なぜなら、伝えておかないと何回も出てくるかもしれないからです。

他国留学生は主に韓国や中国の人が多いと思います。なので、こちら話しかけなくとも相手から来るのがほとんどだと思います。ですが、自分から進んで話しかけること大切だと私は思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この研修を通して私は消極的になってはいけないということを知りました。なぜなら、最初の方は緊張や不安で何をこれからしていけばいいのか分からないことばかりで授業でもあまり発言できない場面がありました。ホストファミリーとの団らんでも自分の英語が正しいのか不安で声が小さくなることがありました。でも、そんな時ホストファザーに間違えてもいいからもっと積極的に話しなと言われました。その言葉に僕は積極的にいかないと海外では生活出来ないと思いました。なので、これから的学生生活では積極的に授業に取り組む姿勢を持っていこうと思います。進路はまだ明確に決まっているわけではないですが、将来は海外とつながることができる仕事に就きたいなと思っています。



外国語学部英米語学科プログラム

オーストラリア(第25回) ニュー・サウス・ウェールズ大学

Institute of Languages
The University of New South Wales

223 Anzac Parade, Kensington, NSW 2033
22 King St. Randwick NSW 2031 Australia
Tel : 61-(2)-9385-5396 Fax : 61-(2)-9662-2651
E-mail : institute.language@unsw.edu.au
<https://www.languages.unsw.edu.au/>

ニュー・サウス・ウェールズ大学（略称：UNSW）は、シドニーにある公立大学で、オーストラリア国内で常に5本の指に入る名門大学です。世界の優秀な大学トップ50にも選ばれています。学生は約40,000人、600の学部、大学院プログラムがあり、5,000人を超えるフルタイムのスタッフが、76のスクール、69の研究センター、6の機関、4の大学付属病院、8の学生寮、その他多くの運営機関で働いています。在籍学生の約5人に1人が留学生であり留学生の受け入れや海外大学との合同プログラムに長年の実績があります。

研修概要

目的

生きた英語に触れ、異文化を体験し、英語に対する学習意欲を喚起することを目的としています。

対象学生

全学部学生。外国語学部英米語学科1年生と2年生以降の学生で初めての参加希望者を優先します。

内容

UNSW附属Institute of LanguageでPlacement Testを受け能力別の国際混合クラスに分かれて受講します。そのほかにBusiness CourseやAcademic Courseも選択出来る場合もあります。

単位認定

「海外語学研修」(4単位)を認定

期間

2020年8月上旬～9月上旬(約4週間)

滞在方法

ホームステイ。食事は朝、晩の2食つき、昼は大学の食堂。

募集、選考

募集4月下旬 面接及び発表5月中旬

選考方法

面接、書類審査(人物、学業成績、健康状態など総合的に判断)

研修日程(2019年度の参考)

8/3(土)	羽田発
8/4(日)	シドニー着 ホームステイ開始
8/5(月)	オリエンテーション・プレイスメントテスト 授業開始 校外研修など
9/6(金)	授業終了、修了式
9/7(土)	シドニー発
9/8(日)	羽田着、通関後解散

研修費用(2019年度の例)

● 学費(入学費・授業料)	170,868円
● 航空運賃(空港使用料、燃油サーチャージ等含む)	132,990円
● 空港送迎バス代	14,350円
● ホームステイ代(斡旋料含む)	160,720円
● 海外旅行総合保険料	7,350円
● 予備費	1,712円
合計	487,990円 その他生活費用等が発生します。 (レート 1AU\$=82円で算出)

所属：国際学部 国際学科 1年

出身：十文字高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加 (ニューサウスウェールズ大学)

【研修生活について】

平日午前9時から午後1時半まで1コマ2時間の授業が2限ありました。クラス編成は初日のテストの結果で決められ、私が授業を受けることになったクラスには、中国、ベネズエラ、コロンビアからの生徒や、本学生と他大学からの日本人もいました。授業はクラスメイトとの会話形式で行われることが多く、最初の頃は自分の言いたい事を英語で伝えることがなかなかできず悔しい思いをしました。そこで、自分の中でこれだけは研修中にやろうということを一つ決めました。それは授業で学んだことを復習することはもちろんのこと、先生やクラスメイトの会話の中で自分が聞き取れた単語やイディオムを真似して翌日の会話の授業などで実際に使ってみることです。これによって少しずつですが積極的に話せるようになり、授業が楽しくなってきました。

その他にもライティング、パソコンの授業などもあり、非常に内容が濃いものでした。特に印象に残っている授業は、毎週金曜日の最後の时限に Weekly Test があり、その後の残りの時間を使い自分達で内容を決め作成したプレゼンをクラスメイトの前で発表したことです。ほとんどの学生が自国についての紹介をしていました。南米からの生徒はサルサダンスを私たちにレクチャーしてみんなで楽しく踊ったり、中国人の学生は中国語や切り絵を発表したりしていました。私は日本人の友達と協力して「味噌汁の作り方」を発表しました。反響はあったように思えます。各国の伝統をお互いに知ることができ、皆の仲がより深まった時間でした。多くの先生や友達にも恵まれ、とても楽しく充実した授業を受けることができました。

【日常生活について】

私がお世話になったホームステイ先は中国人の方でした。初日はホストマザーから家の案内や約束事また学校までの道順を説明してくれました。オーストラリアでは水不足が問題となっているため、シャワー、洗濯や食器洗いの際に使う水の量には厳しいルールがありました。さらにごみの分別も細かくエコに対する意識がとても高いと思いました。一方で、夕飯はアジア料理などの食べ慣れているものが多く、おいしい料理ばかりでした。また、ホストマザーの親戚や仕事先の同僚の方と食事を一緒にすることもありました。その中にはワーキングホリデーでシドニーに滞在している日本人の方や既に働いている同世代の中国人の方と交流することもあり刺激を受けることが多かったです。

学校の授業が終わる午後には色々なところに積極的に出かけていました。また週末などには学校側が主催するパーティーやピクニックに行き沢山の人と交流を深めることができました。さらに3日間の休日を利用しエアーズロックに小旅行をし、日本では体験できない貴重な経験をすることができました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

一ヶ月という短かった研修でしたが、学んだ事や吸収できたものはたくさんあります。初めの頃は、自分の英語力に自信がなく言いたいことがあっても周りの人に合わせてなかなか発言することができませんでした。このような場面に直面する中で「こう言つていれば」と後で後悔することが徐々に増えてきました。しかしそんな自分を変えなければいけないと奮起し、それからは積極的に自分の意見を言うように努力しました。また、ホストマザーからの「学び続けることをやめないで。それらはあなただけのものになるから」というメッセージは今後の自分のモチベーションにつながりました。将来オーストラリアの大学で長期留学することを現在視野にいれています。そして今後、ホストマザー、先生やクラスメイトに会った時に成長した自分を見せるができる位に、悔いが残らない学校生活を過ごさなければならないと強く感じました。

所属：外国語学部 英米語学科 1年

出身：埼玉県立川口北高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修参加の動機について】

私は高校生の時に2週間という短い期間だったのですがオーストラリアにホームステイをしました。そこで学校生活やホストファミリーとの思い出が私の一生の思い出となりもう一度オーストラリアに行って様々な経験を積みたいと思ったからです。拓殖大学に入学が決まった時に海外留学のプログラムが充実していて毎年多くの学生が留学に参加していると知り私も参加しようと決めていました。私は1年生でこの研修に参加できて本当によかったです。一緒に研修に参加した英米語学科の先輩方がクラスの友達と流暢な英語で話していたことや海外経験が豊富な先輩がたくさんいて良い刺激をもらいました。先輩を見て拓殖大学の1年間で身につく力は凄いと思い、私も頑張って勉強しようと思いました。

【日常生活について】

私のホストファミリーは5才の女の子と4才の男の子がいるご家庭でした。5才と4才ということもあり子ども達がとてもやんちゃで常にホストマザーとファザーの怒鳴り声が響いていて子育ては大変だと感じました。子供が小さいため、シャワーは20:30以降使えなかったり、夜は電気をなるべく点けてはいけなかつたりと家のルールはとても厳しかったです。しかし子ども達と一緒に絵を描いたり本を読んだりと楽しく過ごすことができました。大人の人は私の下手な英語を頑張って理解してくれて私が理解できないときは簡単な表現に言い換えてくれるけど子供はできないので初めは子供と話すのが大変でした。子ども達の話を毎日聞いて簡単な表現だけど日常生活で使える表現をたくさん学ぶことができました。5週目には中国から留学生が来て一緒に食事に出かけたり日本のことを見学したりととても仲良くなれました。3連休にはメルボルンに住む以前のホストファミリーに会いに行きました。1ヶ月でたくさんの人と関わることができました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回オーストラリア短期研修に参加できたことは私の人生でとても貴重な経験をしたと思います。多民族国家といわれるオーストラリアでたくさんの友達と出会いオーストラリアの文化だけでなく様々な国のこと学べました。この5週間はすべてが楽しいことではなく私の英語力が急速に成長したとは言えませんが、5週間海外で過ごしたこと達成感があり自分の自信に繋がったと思います。それと同時に日本の文化や食文化、マナーの良さといった素晴らしいところをあらためて感じることができました。日本に帰ってきて研修中にああすれば良かったのにと思い返すことがあるので2年生になっても留学に挑戦したいと思います。この5週間を通して自分の英語力のなさを実感しもっと勉強を頑張ろうという意欲が上がりました。高校生の頃から夢や進路について色々と悩んできましたが今回の経験で少し夢に近づけた気がします。

所属：外国語学部 英米語学科 1年

出身：拓殖大学第一高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修参加の動機について】

私は長期研修に参加したいという思いがあります。そのため一年生のうちにできるだけ長い期間海外に行き、さまざまな経験を積みたいと考えていました。そこで夏休みの間海外に行くことができる短期研修に参加することに決めました。外国語学部のプログラムのカナダ研修かオーストラリア研修かを決めるのは私の中ですごく難しかったのですが、一番譲れなかった点が研修期間の長さで、できるだけ長い期間行くことを希望していたためカナダ研修より一週間長くいくことができるオーストラリア研修に参加することを決めました。実際に参加してみて、長期研修に興味がある人、海外での生活に興味がある人は一年生のうちに短期研修に参加することをお勧めします。

【日常生活について】

私のホームステイ先はほかのホームステイ先に比べてルールが厳しくありませんでしたが、家庭によってはシャワーの時間が5分と決められている家庭もあるため初日にホストファミリーにルールについて話を聞くことをお勧めします。学校の時間割り的には9:00~11:00、11:30~13:30の二時間制です。基本的にお昼ごろで授業が終わるので午後はシドニー市内を見て回ることができます。私の場合、三週目の金曜日学校が休みになったため三連休を使って、ウルル・エアーズロックに行きました。オーストラリアならではの観光ですし世界遺産を身近に感じることができるために、もしも休みができた場合や、休みがなくとも土日だけでも行ける場所はたくさんあると思うためその土地ならではの観光や体験をすることをお勧めします。授業内では私のクラスには中国、コロンビア、ベネズエラ国籍の学生がいました。ほとんどの学生が私たちと同じ短期研修の学生でしたが、中には一年間留学に来ている学生もいて日本にいるよりさまざまが国の文化を感じることができ、さまざまな国的学生とも仲良くなれる機会があるため、とてもいい環境だったと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して今の自分の英語力に足りない部分を理解することができました。また一ヶ月以上海外で生活するのも初めてだったので長期研修参加への意欲だったり準備しなければならないことだったりが明確に見えた気がしました。話したいという意欲があっても単語力が足りないせいで言いたいことが伝えることができないことがったり、相手の言っていることが理解できていないと感じることが多くありました。今後の勉強法としては自分の単語力を上げること、またリスニング力が弱いためリスニング力強化に努めていきたいです。

所属：国際学部 国際学科 2年
出身：昭和女子大学附属昭和高等学校
2018.4 拓殖大学入学
2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修参加の動機について】

4月、新年度が START しました。国際学部は、「世界を平面で捉え、繋がりを意識できるようなグローバルな視野をもつ」ことが求められます。そのため、私は大学在学中になるべく多くの国へ訪問し、世界に蔓延る「多様性」を自分の眼で確かめ、多角的な視点で世界を捉えていきたいと考えています。

そんな中、外国部学部主催「オーストラリア短期研修」という私にとって適時な一報がありました。私は「他民族国家」として名高いオーストラリア社会の現状・固有の動植物等広大な自然を自分の眼で一度確かめたいと思いました。それと同時に「他民族国家」において自分の英語力がどれほど通用するのか、一抹の興味もありました。

オーストラリア短期研修の期間は 39 日間です。通常授業に影響を及ぼすことのない、夏季休暇中ということもあります。私は「仮にこの研修生活が無意義であろうと何とかなるだろう」という胸襟で参加を決意しました。

8月3日、この研修をとおして「他民族国家」特有の社会から「真のグローバル社会の礎を見出すことができるのではないか」という期待に思いを馳せて日本を出国しました。

【研修国・地域の紹介について】

Terra Australis Incognita——未知の南方大陸、オーストラリア。

第二次世界大戦後、オーストラリアはアジア・中東・南欧などから積極的に移民を受け入れ、多文化・他民族国家へと歩みだしました。この間、先住民アボリジニは迫害の歴史を辿ることになります。しかしながら、60 年代、「他民族国家」構築へと歩みだしたオーストラリア国家は、80 年代になりアボリジニの聖地であるエアーズ・ロック（ウルル）の返還、90 年代にアボリジニの先住権を正式に容認しました。已然「オーストラリア人」はアボリジニ独自の文化を潜在的に守り続けています。現在、アボリジニ 3/4 人がオーストラリア都市部で生活を営んでおり、街中で「ディジュリドゥ」という楽器を用いて演奏をする姿等を垣間見ることができます。

国境を越えた人類共通の宝物——世界遺産、オーストラリアは 20 件登録されています。そのうち、世界自然遺産登録数は 12 件であり、世界一の記録となっています。世界自然遺産として有名な「ブルーマウンテンズ」はシドニー市内から電車を用いて 2 時間程度で訪れるすることができます。この地では、山一面に広がるユーカリの油分が太陽光に反射することによって、「青い霞」状に包まれる神秘的な現象を眺望することができます。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修をとおして「自身の英語力向上」・「広大な自然を実見」だけではなく「真のグローバル社会の礎を見出す」手蔓を得ることができました。

「自身の英語力向上」の所以に、Family との生活による寄与が主要であると考えます。39 日間のオーストラリア滞在、Family との英語を用いた語らいは一様に旅行するだけでは経ることのできない空気感・生活感を直に体感することができたのです。私はこの研修をとおして、異文化は「体験する（滞在する）」ことでしか理解することができないと改めて考えました。

「広大な自然を実見」することで、その土地の自然が有す「歴史」を推すことができました。

「真のグローバル社会の礎を見出す」手蔓はシドニー都市で見出しました。シドニー都市はチャイナタウンやベトナム系住民が集住する街が多く立ち並び、「他民族国家」であることを改めて実感することができました。このような地では多種多様な文化が対立することなく受け入れられ、混ざり合い、独特の空間を作り出し均衡を保っている「異空間」を醸し出していました。

気の遠くなるほど高い空を見上げてみると、灼熱の太陽と淡青な美しい冬空が拡がっていました。初めてこのような光景を目の当たりにした私は、“この空は確かに世界中と繋がっている”と思いを巡らせながらオーストラリアを後にしました。

この研修で得た「糧」は私自身の今後の行動指針になると今もなお実感しています。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：私立帝京八王子高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修参加の動機について】

私は最初どちらの国に行こうか悩んでいました。今回の短期研修プログラムはカナダとオーストラリア、2か国から選ぶことができたのですが、どちらも行ったことのある国でした。最終的に私はオーストラリアに決めました。まず、一つ目の理由としては、ホームステイをオーストラリアでしたことが無かったからです。カナダでは2回したことでもあったのですが、オーストラリアはホテルステイのみだった為、現地の人々の生活を知りたいと思い、この国を選びました。二つ目は、オーストラリア英語を学びたいと思ったからです。1年生の時は、ネイティブの教授がイギリスの方だったので、あまりほかの国の英語を聞く機会がありませんでした。オーストラリア英語はまた独特な発音を持っていると聞いたので、興味がわき、オーストラリアに行こうと思いました。

研修に適したタイミングは自分が行きたいと思った時でいいと思いますが、就職活動、勉強面と色々な事を考えると、私はやはり2・3年で行くのがベストかなと思います。大学にも慣れて新たなことにチャレンジする余裕が出来ていると思うし、同じ学年の仲間もたくさん行くと思うので、心強いとは思います。あちらでも同じ大学の人だけと話すことは避けたほうがいいですが、同じ大学の人がいると、安心感はあると思います。

準備に関しては、初めての海外だったら、前もって大体1ヶ月前から準備したほうがいいですが、慣れている人は2週間前でも充分だと思います。

履修するべき科目は特にないですが、教養科目は計算してとることをお勧めします。

【日常生活について】

私のホストファミリーはお父さんお母さん息子娘の4人家族で、マンションに住んでいます。特にこれといったルールはなく、ただ夜子供たちが寝た後は静かにする、部屋を綺麗にする。それぐらいでした。自分の事は自分でする。（掃除、洗濯など）

放課後は、1時半に授業が終わるので、その後はフリーです。お昼ご飯を食べたり、ショッピングを楽しんだり、とても楽しかったです。週末にはビーチやシドニーの近くの観光地に出かけていました。

買い物に関しては、困ることはほぼないです。ショッピングセンターとスーパーが街に沢山あります。色々な国のレストランもあり、食も楽しめます。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修先で出会ったほかの大学や国の人達と英語で話し、様々な価値観、目的を知ることができました。年も職業も違うけれど、英語を通して交流を深めることができたと思います。

今後は、自分の考えを英語で伝える力を伸ばしていきたいと思いました。

進路も、より英語を使った仕事がしたいと強く思いました。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：青森県立青森西高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修生活について】

まず登校初日にスピーチング、リーディング、リスニングのプレイスメントテストを受けます。その結果をもとにクラスが決定されます。クラスは大きく分けて EE と CE の 2 つのクラスがあります。EE というのは Essential English で、主に海外の大学に通いたい人向け、CE は Career English で、仕事で英語を使う人向けのクラスだと聞きました。私は EE クラスだったのですが、他のクラスに比べプレゼンテーションやプロジェクトが多くかったと思います。文法の授業自体は高校で習う程度のレベルのものを詳しく学ぶ感じで、そこまで難しくないです。私のクラスでは、週末にクラスの人とペアになって出かけ、プレゼンテーションをするというのが毎週ありました。また、毎週ユニットテストというものがあり、先週やったユニットの復習のテストです。重要なポイントや単語がわかついたら難しくありませんでした。私が 1 番興味を持った授業は、スラングを教えてもらう授業です。日本の大学の授業では、取り上げられないと思うのでとても面白く感じました。

【日常生活について】

オーストラリアでの生活は、私にとって少し苦痛に感じるものもありました。オーストラリアは水不足の国です。そのため、シャワーの時間や洗濯の回数など水を使うことに対してとても厳しかったです。私の場合、シャワーの時間は 5 分、洗濯は週に 1 回でした。私は普段お風呂にゆっくり浸かるのが好きなため、シャワーも急いで浴びなければいけなかつたのは辛かったです。また、食に関しても味付けなど美味しいとは言い難いこともありました。しかし、好き嫌いの多い私にとってこれはいい機会でした。残してはいけないという気持ちから、食わず嫌いを少し克服できました。食べたあとの食器は自分で洗っていました。そして、私のホームステイ先は、私を除いて 3 人の留学生がいましたが、それぞれ起きる時間や帰る時間が異なっていたため、みんなで一緒にご飯を食べたり会話をする機会は少なかったです。Wi-fi に関しては、ホームステイ先から借りると 1 週間 10 ドルでした。私は、ホームステイ先からは借りず、1 日 600 MB まで 4G で使えるポケットワイファイを使って生活していました。学校や外のお店にはフリーワイファイがよくあるので、十分不自由なく生活できました。放課後は、授業が終わるのが早いため、いろんなところに行けました。少し遠くても電車で 1 時間程度で行けます。オーストラリアで電車やバスに乗るときは、OPAL カードというものが必要になります。乗車するときと降車するときにこのカードをタップするのを忘れてはいけません。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の留学は、私にとってとても良い経験になりました。現地に行ってみてこそわかることがたくさんあるのだと感じました。この研修を通して、他国の人と英語を使うことでコミュニケーションをとることのできる喜びを知ることができました。また、同時にコミュニケーションの難しさを実感しました。相手が知らない単語をわかるように説明するというのが 1 番大変でした。そのため、これからは日本語で意味を理解するだけでなく、その意味をきちんと説明できるようにしていこうと思いました。この先大学を卒業しても英語の勉強はずっと続けていきたいです。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：青森県立五所川原高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修生活について】

オーストラリアの語学学校は、毎日午前で授業が終わりました。だから疲れても午後友達とどこか遊びに行ったり、リフレッシュができるので毎日それをモチベーションにがんばることができました。授業では、先生にもよりますが一人一人プレゼンテーションをすることを求められました。私は人前で話すことが苦手なので、憂鬱だったけど日本の授業ではあまりプレゼンテーションをすることがないけど、オーストラリアでは先生が自信をつける練習をしてください。と言ってクラスのみんなにプレゼンテーションや発言を求められるので、そこが外国らしいと思ったし、素敵だなと思いました。また一番最初にクラス分けテストがあるため、自分の実力にあった授業を受けることができるところも良いと思いました。

【研修国・地域の紹介について】

私は初めての海外だったので、驚きの連続でした。まず、オーストラリアのバスは手を上げないと止まってくれないことや、次のバス停をアナウンスしてくれないので自分でそこのバス停の景色を覚えて降りなければいけないことにとても驚きました。そういう点について日本はとても優しいし、便利だと思ったけど、人についてはオーストラリアの人たちは親切だと感じました。日本人は電車やバスに乗っているとき、いつも携帯を見ているし、困っている人を見てもあまり自分から行動しない印象がありますが、オーストラリアはのんびりしていて、親切な人ばかりいる印象でした。また私がオーストラリアに行った季節は冬でしたが、昼間はぼかぼかしていて海水浴している人も多くてとても過ごしやすい気候でした。ただほとんどのお店が平日閉まっていたり、閉店する時間がとても早く驚きました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修に行く前、英語が話せるかとか、伝わるかとか、ホストファミリーに馴染めるかとか不安要素だけでしたが、いざ生活してみるとホストファミリーはとてもいい人たちですぐ馴染めましたし、語学学校だけでなく、街の人たちとも英語でたくさんコミュニケーションを取れて、今回の研修で私が身につけたかったコミュニケーション能力などをちゃんと身につけられたと思います。だから日本の授業でもオーストラリアで身につけたものを發揮できればいいなと思います。今回の研修を通して将来言語関係の仕事に就きたいという気持ちがますます強くなったので、TOEICのスコアを頑張って上げたいです。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：千葉県立成田国際高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【オーストラリア・シドニーについて】

オーストラリアは日本と違い、南半球に位置しています。そのため、季節が日本とは逆になります。私たちが研修に行ったときは8月だったのでオーストラリアは冬でした。しかし冬とはいっても日本の冬よりはずっと過ごしやすいです。服装も長袖一枚で十分の時もあり、とても快適に過ごせました。

そして日本と大きく違う点がもう一つあります。多民族国家であるということです。欧米系の方がいるのはもちろんのこと、アジア系の方も多くいます。街を歩いていても本当にたくさんの国籍の人とすれ違い、日本にはない新鮮さを感じました。それに伴い、食事も多くの様式がありました。学校の周りにあった飲食店だけでも和食、中華、タイ料理、イタリアンなど様々な国の飲食店がありました。

また、シドニーはオセアニアを代表する世界的な観光都市です。有名なオペラハウスやハーバーブリッジなどはもちろん、海に面しているのでビーチがたくさんあり、どのビーチもとても美しかったです。街並みもイギリス風の建物が並んでいるところもあれば、公園などの緑豊かなところもあり素敵でした。

国民性は、みんなとても明るくて優しいです。日本も優しい人は多いですが、オーストラリアの人たちはとても気さくでした。困っている様子を見ると外国人であっても声をかけてくれたりこちらが声をかけばとても親切に答えてくれたりします。建物や景色が美しいだけでなく、人の心も美しいからこそ世界的に有名で人気のある観光地になるんだなと感じました。

【日常生活について】

ホームステイ先のホストファミリーはタイとインドネシアの方でした。生活はそう変わらなくとてもリラックスして過ごすことができました。朝食はパンとジャムが置いてありセルフサービス式でした。昼食について、平日は学校にいるのでカフェでご飯を買ったり学校の近くのお店で買ったりして食べます。休日は家にいるならば用意してくれるのでファミリーと一緒に食べます。夕食も同様で基本用意してくれていました。一番注意しなくてはいけないのはお風呂の時間です。オーストラリアでは特に水は貴重な資源とされているのでシャワーの時間に制限がありました。私の家では「8分以内で」と言われました。私は普段長くかかるので8分以内に収めるのにはかなり骨を折りました。あとはホストファミリーのプライベートスペースに踏み込まなければ基本的に自由にできました。学校は朝の9時から午後の1時30分までそのあとは自由時間としていろいろなところに遊びに行きました。授業はレベル別に分かれており、少人数制だったため先生ともクラスメイトとも話す機会がとても多く仲良くなれたと思います。放課後は学校のすぐ近くから市街地のほうまでいけるバスが出ていたのでそのバスに乗り、いろいろなところに行きました。おすすめはフィッシュマーケットです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

1か月の研修を通して感じたことは英語(外国語)を学ぶにあたって実際にその環境に身を置くというのはとても大切であるということです。最初はやはり海外に行くことに不安がありました。実際に行ってみてとても充実した1か月間を過ごすことができました。海外の生活を体験すること、現地の人と交流すること、全く知らない土地で行き方を調べてそこまで公共交通機関を使って自分たちだけでいくこと、すべてとても大事な経験でした。

また、英語を話すことに対して緊張などもしなくなり、日本に帰ってきてからも英語を話すことにためらいを感じなくなります。話すことを苦手に感じている人にとっては特にその差が感じられることだと思います。どんな形であれ、短期研修は必ず自分の力になります。学校のプログラムで行かせていただけるのは本当に得難い経験であったと思います。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：静岡県立富士宮西高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修国・地域の紹介について】

オーストラリアは日本と季節が逆なので8月は冬でした。朝晩は日本同様寒かったですですが昼間は暖かいので気温差が激しかったです。現地の人は人にもよりますが冬でも薄着の人が多く見られました。オーストラリアに到着して3週間は全く雨が降らずとても乾燥していました。晴れても風の強い日が多かったのが日本と違う点でした。9月に入ると春なので気温が上がり暑いくらいでした。

オーストラリアの文化として食事の時に日本では全員が席に着いてから食事を始めますが、ホームステイの家では席に着いた人から食べていいよと言われていました。また、日本では出された食事は残さず食べるというのが礼儀と言われていますが、オーストラリアでは食事の量が多いので残す方が一般的です。

オーストラリアの食事は基本的にサンドイッチやハンバーガー、ステーキなどが多いです。家でも肉、ポテト、野菜が通常でした。街中のお店にはアジア系の人が多いということもあってかアジア料理のお店も多いです。日本料理のお店もあって特にお寿司屋さんは多いですが、オーストラリア流にアレンジされているお寿司がほとんどでした。

オーストラリアを訪れてみて改めて日本の食の良さに気付きました。日本では様々な国の料理が安くおいしく食べられますが、オーストラリアでは物価も高く同じような料理が多いことが印象的でした。またバスに乗った時には日本のように停車場所の案内が無く注意して見ていないと降り逃してしまったり、手を上げないとバスが止まらなかつたりと日本人は優しいと感じました。一方で、授業でディスカッションをしているときに他の国的学生に比べて日本人は自分の意見があまりなく、積極性も欠けていると感じました。日本人は親切だと言われていますが、オーストラリアの人達は店員とコミュニケーションをとったり、バスを降りる時に運転手に対してお礼を言ったり道を聞いたら丁寧に教えてくれたりと、私はオーストラリアの人達もフレンドリーで親切だと思いました。

【日常生活について】

ホームステイの家では家族で夕食を食べた後、家族とテレビや映画を見て過ごしました。テレビや映画を通して家族から歴史や文化について教わったり逆に日本のことを使えたりしました。犬の散歩に誘われた時には家族とコミュニケーションを取れる機会だったので断ることなく行っていました。また、ホストファミリーと暮らす上で自分の予定をしっかりと伝えるようにしていました。昼食や夕食がいらない時、少しでも帰りが遅くなつて夕食の時間に間に合わない時はホストファミリーが困らないように連絡をすることが大切です。

放課後は学校が1時半に終わっていたので友達と様々な場所を訪れて観光したり買い物をしたりしていました。クラスメイトで仲良くなつた中国人の友達がいたので放課後や週末に出かけていました。英語を話す機会でもあつたので良かったですが、日本人の友達と出かけることが多かつたので自分から積極的に他国の友達に話したり一緒に出かけたりする機会を作るべきだったと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修は私にとって初めての海外でした。日本語を話せない環境に居ることが初めてだったので最初は不安もありましたが、ホストファミリーや他国の留学生との交流を通して自分のコミュニケーション能力やスピーチ能力も少しは上がったと感じています。また他国の文化に触れることで日本の良さや日本人の悪い所も改めて見つめ直すことができました。今後、この研修で学んだ日本の良さを他国の方に伝えられるような仕事がしたいと思っています。またその他の国も訪れて、様々なことを吸収したいです。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：私立五所川原第一高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修国・地域の紹介について】

まず、研修期間は大学の夏休み期間でしたが、研修先のオーストラリアは冬でした。日本では普通冬には誰もが厚着をし、寒さ対策をしていますが、オーストラリアでは冬だというのに服装は人それぞれでした。一人は半袖半ズボン、一人はワンピースのみ、一人はニットにコートにブーツなど、寒さに関わらず様々なファッショング見受けられました。次に、食べ物についてです。日本との一番の違いはお米だと思います。日本のお米は食べ慣れていますが、オーストラリア米は食べ慣れていないので一番最初に口にした際はとても驚いたことを今でも鮮明に覚えています。食べられなくはありませんが、どうしても日本のお米と比べてしまい、美味しいは食べられませんでした。また、他のご飯に関しては、オーストラリアは多国籍文化ということもあります、様々な国のレストランやカフェがシドニーのシティーにはありました。日本食以外を積極的に食べられる機会は珍々ないので良い機会になりました。特に、ホストファミリーが中華系の人だったので、日本では馴染みのない中華料理を沢山食べることができました。馴染みのないものでも、何事も経験だと思って食べることが大切だと思い、食べたことのない料理でも積極的に興味を持って食べました。

【研修生活について】

研修ではまずクラス分けのテストを受けました。それからキャンパスツアーや大学内での過ごし方、授業の受け方などを学びました。クラスによってレベルは違いますが、日本の大学でのクラス分けとは選別の仕方が違うのかなと感じました。また、先生方は毎日同じわけではなく、日によって変わっていました。先生方一人一人はとても個性が強く、毎日楽しく授業を受けることができました。そして宿題については使っていた教科書に沿って随時出されますが、その日その日の授業に関連することなのでやり易かったです。パソコンを使用し、レポートを提出しなければいけない日もありますが、制作した内容は難しいものではなかったです。また、週の終わりの金曜日には毎週テストがありました。そのテストはその週に学んだ文法を中心に出されています。週を追うごとに段々と難しくなりますが、授業でも触れている範囲なので、復習が大事だと思います。授業の一環として先生と共にピクニックをする日もあるのでクラスの皆とも凄く仲良くなれました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して得たことは沢山ありますが、その中でも英語を通して様々な国の人とコミュニケーションを取ることの楽しさ、また、どんな場合でも自分を積極的に出すことの大切さを知ることができました。これは今後の学校生活に大きな変化を与えるとともに、自分の成長につながっていると考えています。また、自分の進路の幅が広がったと感じました。それはこの短期研修で沢山のことを経験できたからこそだと思っています。短期という短い間でしたが、沢山のことや物を得ることができました。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：県立本荘高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.3 イギリス短期研修参加

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修参加の動機について】

短期研修に参加することのメリットを挙げたときに、自分のためになると思ったことがいくつかあったので、私は今プログラムに参加しました。私は昨年度の春季休業中に、短期研修としてイギリスに滞在していました。当時の滞在方法もホームステイだったのですが、ステイ先では最低限の会話しかできなかつたことが心残りで、もっと日常会話を楽しみたいと考えたのが第一の理由です。さらに、大学生の長い休暇を有意義に過ごしたいという考えからも応募しました。語学留学という目的で海外に行っても、それ以上の経験を味わうことができる。新しい知識を教えてくれる。想像してもみなかつたことに興味を持たせてくれる。大学生になって、語学を含むいくつかの海外研修に参加してきた経験からえた、海外へ行くことのメリットをもとに、今夏はオーストラリアで過ごすことに決めました。

【日常生活について】

滞在方法はホームステイです。私のホストファミリーは、マザーが日本人、ファザーがイギリス人の家庭でした。ステイ先の情報を知った当初は、同じ家に自分以外の日本人がいることへの違和感や、ステイ期間中に日本語で会話をしてしまうのではないかという不安を感じました。しかし滞在してみると、マザーは私に対して出来るだけ英語で会話をしてくださいました。時々、無意識に日本語で話しかけられたこともありますが、私が英語でコミュニケーションを図ろうとすると、その気持ちを察したマザーは、言語を英語にチェンジしてくださいました。一方でファザーはイギリス人なのですが、日本語も流暢に話せる方でした。すごい！という尊敬とともに、またしても日本語の会話が生まれてしまう恐れを感じました。しかし、英語と日本語の両方の言葉の意味が持つニュアンスの違いを理解できているファザーは、私の文法のミスやより良い言葉のチョイスをその都度指摘してくださいました。また、異文化交流として、放課後に他国からの留学生と一緒に何度か食事を楽しみました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回のステイ先には、私以外にも日本人がいました。彼は成人男性で、語学を身に着けようと、今後留学を考えているようでした。そんな彼を見て、いくつになっても夢を持っている人は素敵で、輝いて見ると感じましたし、なにより学生時代にやりたいことに挑戦できている自分を幸せに感じました。私にはまだ成し遂げるべき目標があるので、応援してくれている家族への感謝の気持ちも込めて、残りわずかな大学生活も有意義に送ろうと改めて考えました。また、他国の留学生とふれあって、やはり自分は自国についての知識が少ないと実感しました。ただ日本が好きというだけではなく、日本や近隣諸国についての知識を増やし、経験から物事を批判的に考えられるような社会人になりたいと考えました。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：私立正則学園高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修生活について】

授業は speak&write の様な授業で、クラスは初回に受けた英語での面接と、listening, reading, writing のテストによって振り分けられました。なので、自分にあったレベルで授業を受ける事ができました。僕のクラスでは主に教科書を使った授業が中心でした。予習は特に必要はないのですが、週に二回程度宿題が出ました。また、金曜日には週末テストだったので、復習は必要でした。興味深かった体験は、授業の一環で行なった、動画作りです。ランダムにグループに分けられ、動画を作ったのですが、僕の入ったグループにはサウジアラビア人とコロンビア人の人がいました。私はその活動で、いかに海外の人と協力するのが難しいかを知りました。文化が違えば、考えも違い、いろいろな意見がグループ内で飛び交い、リーダーもまとめるのが一苦労な様でした。しかし、この様な外国人達と協力して1つの作品を作るという貴重な体験ができたので、とてもいい体験になりました。

【日常生活について】

僕は今回の留学で初めてホームステイを経験したのですが、ホームステイは僕の考えていたものとは少し異なりました。僕の滞在した家は、学校から離れていて、僕以外の留学生が5人いる家でした。家のルールは特に無かったのですが、唯一不自由だったのが、家の電気がつかなくランプで生活しなければならなかった事でした。どうやらオーストラリアでは、電気代が高いらしく、ホストマザー曰く、滅多なこと以外では電気はつけないとのことでした。なので、宿題や復習をする際は少し苦労をしました。その点以外は、料理も美味しく、シャワーの時間などの制限もなく快適でした。ホームステイで大事なことは、自分からファミリーとコミュニケーションをとり、積極的に家の家事などを手伝い、仲を深めることだと思いました。最後のホストマザーとの別れの際は、彼女は泣いていて、危うくもらい泣きするところでした。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回留学に参加した目的が語学力の向上で、主に listening の力をつけたく参加しました。最初の一週間ほどはなかなか相手の言っている事を上手く聞き取れずコミュニケーションをとるのに苦労しましたが、帰国する頃にはかなり聞き取れる部分は増えました。また、バスケットボールが趣味でバスケットボールコートに通っていたのですが、そこでいろいろな国の人たちと出会い、いろいろな異文化に触れる事ができました。僕は最初は少しシャイでしたが、そこでたくさんの人と話すことによって、より積極的に、上手く英語を喋れる様になりました。この研修で見て、聞いて、人々と関わって経験したことは決して日本ではできない事なので、この経験を今後の学生生活に活かしていきたいです。また、来年には長期留学に参加したいと思っているので、TOEICのスコアアップにも努めたいです。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：長野県下諏訪向陽高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修生活について】

授業が始まる前にリーディング、スピーキング、ライティング、スピーキングのテストがありました。私のクラスでは主にスピーキングと文法を中心とした授業を行いました。文法は、TOEICのパート5のような問題をインターネットを使い、クイズ形式にした問題を毎週行いました。先生はなぜこれが正解なのか、不正解なのか丁寧に教えてくださいより一層理解することができ、繰り返し復習しました。私は文法が苦手なので、今まで混乱していた部分を改めて学習したことで今までより記憶に残すことができました。

また、クラスにはコロンビア人、ベネズエラ人、中国人といった様々な人種の人と関わることができました。地域によって発音やアクセントが違って聞き取りにくい部分や、話してもうまく伝わらない部分があり大変でした。しかし、自分から積極的に話しかけにいき、各国の生徒と現地の言語や文化や習慣についても話すことができ、授業では学べない細かなところまで教えてもらいました。

授業の中でとても面白かったのは、オーストラリアについてのビデオを見る授業です。シドニーから離れたところにある町の様子や自然、文化、習慣、社会的な問題についても学びました。私たちは主に、シドニーといったビルがたくさんある景色しか見ることができなかつたので、遠く離れた自然豊かなオーストラリアを画面越しに見て、まだオーストラリアについて知らないことがたくさんあるなと思ったと同時に、もっとオーストラリアについて知りたいなと思いました。

【日常生活について】

留学中オーストラリアで生活するにあたって大変だったのは、お金の管理と通信です。オーストラリアは思っていた以上に物価が高くてお金の管理が大変でした。特に、昼食は自費だったのでほぼ毎日サンドwichを作つて持つていき少しでもお金を使わないようにしました。また、私は日本からWi-fiやSIMをフリーにしていかなかつたので道に迷ったときによくても大変でした。電車やフェリーは定刻通りにきたけどバスは定刻の時間に来なかつたり、次のバス停を表示しないので、自分が降りる場所を把握していなければ降り過ごしてしまう心配がありました。ホームステイ先では私以外にもルームメイトがいたので、後にも人が使うということを意識し清潔に使いました。ホストマザーとは日本とオーストラリアの違いについてや、その日にあったことやたわいも無い会話をたくさんコミュニケーションを取りました。学校では知ることができないようなオーストラリアについても知ることができました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して、日本の便利さを改めて知りました。実際に海外に住んでみて不便に感じたこともあり、道に迷った際には自分でどうしたらよいのか考え、解決策を見つけました。私は物事に対してそこまで積極的ではないので最初は不安な毎日でしたが、慣れていくうちに積極的になり少しだけ自分の行動に自信が持てるようになりました。

また、自分の苦手な部分を理解し克服することができたのですが、忘れないように今後も繰り返し学習し応用問題にも挑戦して、TOEICのスコアが向上するように努力します。また、自分がなりたい職業に向けて今自分に足りない部分に力を入れて少しずつ近づけるようになります。

所属：外国語学部 英米語語学科 2年

出身：福島県立あさか開成高等学校出身

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【日常生活について】

オーストラリアは移民の大国であり、私のホストファミリーは中国人家族でした。朝食はトースト・シリアル・フルーツと外国らしい朝食でしたが、夕飯はワンプレートに料理が乗っていて自分で電子レンジを使って温めて食べるスタイルでした。個人のイメージで家族揃ってご飯を食べると思っていましたが、みんな帰宅の時間がバラバラだったため一人かホストグランドマザーと食べる機会が多かったです。ホストグランドマザーは英語が単語でしか話すことが出来ず、会話が大変でした。しかし私は中国語を第二言語で履修しているので、授業習った単語を使って中国語で会話をする機会もありました。英語以外を使って交流する機会もあり、いい経験ができました。学校は一時半で終わりだったので、放課後色々なところに出かける機会が多くありました。私はクレジットカードをメインで生活しようと日本円をあまり換金せず、換金したオーストラリアドルは交通費として使おうと考えていました。しかしお店によりますが、カード払いの場合合計に1.5%プラスや、50ドル以上の合計のみカード払いができるという、体験をしました。少しでも損しないように、クレジットカードだけでなくオーストラリアドルも多めに持って行くのがいいと思います。

【学校生活について】

学校側から、クラスごとに授業用テキストとワークブックが渡されました。そのテキストは共有で書き込みが一切できないので、テキストに合わせたノートも配されました。授業中は先生が生徒に質問をする場面がほとんどでした。リスニング・リーディングがメインでその中で文法・単語を学習し、毎週金曜日に確認テストがありました。ライティングの授業は習った文法を使った文を150字程度で書く内容でした。また毎週金曜日のテスト終了後、3・4名1人または2人でプレゼンテーションをやりました。テーマは「教える」でした。私は折り紙でハートの作り方を教えました。英語で教えることは難しく、折り紙が初めてのクラスメイトもいたので大変でした。完成するとすごい!!と喜んでくれて、教えてよかったです。他のクラスメイトは、日本語の“やばい”の使い方、南アメリカ伝統のサルサダンスなど、楽しい内容ばかりでした。また毎日授業でその日やった範囲の宿題が出されました。ワークブックはほぼ毎回1ページで復習できる内容だったので、量も多くないし内容も授業のままなので難しくありませんでした。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修に参加する前は、「自分の英語が伝わらなかつたらどうしよう」とネガティブになっていましたが、ホストファミリーなど実際に交流し伝わったときはとても嬉しかったです。時々、ホストファミリーの話すスピードが速く理解が難しかったときもありましたが、聞き直しすると優しく簡単に言い直してくれました。今後はそのようなことがあったのでリスニング力を鍛え、様々な言い回しが使えるように語彙力も身につけたいと思いました。将来は、学んだ英語を活かせる職業に就きたいです。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：広島国際学院高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修国・地域の紹介について】

オーストラリアは日本の季節と真逆なので、私たちが短期研修を行った8月から9月にかけては冬でしたが、日本の冬とは違い、昼間は15度前後あるので上着無しでも生活できる気温でした。しかし朝と夜は寒いので羽織るものが必要でした。街の様子は近代的な建物もあれば、昔に建てられた歴史的な建物もありました。それに日本と同じ左側通行なので他の国よりも生活しやすいと思いました。公共交通機関を使う時など分からないうがあれば、現地の人たちに聞くと親切に教えてくれるので過ごしやすかったです。バスに乗る時の注意点は、自分の乗るバスが来たら手を挙げて合図をしなければバスに乗れません。定刻にかかわらず、早く着くと待たずに行ってしまうので気持ち早めにバス停で待つことをおすすめします。

研修先の大学は1949年に設立された総合大学、ニューサウスウェールズ大学（UNSW）です。どちらもシティ一からバスで約20分のところに位置します。私たちがいたのはUNSW Globalという機関で、多くの留学生は本校とは離れたその校舎で授業を受けます。そこには多くの教室や図書館、食事や休憩ができる部屋、カフェもあります。学校終わりに本校に行って、食事をとったり買い物をすることもできます。

【日常生活について】

決められた約束事はホームステイ先によって異なります。大体の共通点は、当日の夕ご飯の有無やバスルームの使用時間が10分程度と短いことです。あとは身の回りのこと（食器洗い、洗濯、掃除）は自分で行います。その他の細かいことは家庭によって異なります。

授業が午前中に終わるので、放課後に様々な場所に行くことができます。大学近くで食事はもちろん、シティーまで行き有名な観光地でショッピングもできますし、ビーチが綺麗なので行くことをおすすめします。他国籍のクラスメイトと仲良くなれば一緒に出かけて英語に触れる機会も増えるので楽しいです。

オーストラリアではキャッシュレス化がすすんでおり、公共交通機関と利用するのにもOpalカードがというものが必須です。お金の管理については少しの時間でも方見放さず持つようにし、授業の間の休憩時間も自分の荷物を持っていくように言われました。食事については朝と夜はホームステイ先が用意してくれますが昼は自分で買います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して、自分の英語がなかなか伝わらなかつたり、相手の言ったことを聞き取れなかつたりして、今の英語力ではダメだと改めて実感できました。オーストラリアには英語で接客をしている日本人にもたくさん出会い、刺激を受けました。学習に対する意欲と目標ができたので短期研修によって得たものは大きいと思います。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：神奈川県立厚木西高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【日本との相違点について】

私は5週間のオーストラリア短期研修に参加して、日本といいくつかの相違点を発見しました。私が最も衝撃を受けた相違点は大きく分けて2つあります。1つ目は食事についてです。2つ目は考え方についてです。1つ目の食事については誰もが気になることだと思います。私は出発前に心配になって味噌汁をキャリーバッグに詰めてオーストラリアに持って行きました。その判断は大正解でした。皆さんは普段、日本でジャンクフードやエスニックフードを食べますか？私はジャンクフードやエスニックフードが好きで毎日でも食べられると思っていました。ですが、それは間違いでした。オーストラリアは多民族国家なので、これといったオージーフードは目立たない印象でした。なので、ハンバーガーショップや色々な国のレストランが街にはたくさんありました。もちろん日本食の寿司などのレストランもありましたが、比較的高価な傾向にあるためあまり手を出せませんでした。幸いなことに私のホストファミリーが日本米を食べる家族だったので少し救われた時があります。このケースは当たり前ではなくて、周りの友達は日本米を家で1回も食べていませんでした。そうした状況から後半になるにつれて日本食が恋しくなりました。日本人は外国人より旨味を感じる力が優れている事が証明されています。それは鰹節や昆布などのダシ文化が大きく影響しています。その味の感覚の相違から、調理方法から何まで大きく違ってくるので、日本の味を感じることが難しかったです。そこで活躍したのがインスタント味噌汁です。ホームステイ先や学校の熱湯を使って簡単に日本の味を感じる事が出来ます。大きさかもしれません、5週間丸々日本食と離れる事は、意外と長く感じると思います。私がインスタント味噌汁を飲んでいる一方でホストファミリーの子供はあまり好きそうな感じではなかったので、食文化の相違を近くで感じることができました。

【研修先の町や国について】

この短期研修で行ったシドニーは世界的に比較的安全な都市として有名です。夜でも光が多く観光客も多いので安心してディナーを楽しむことができます。シドニーのように女性一人でも安心して歩けるようなところは世界的に珍しいと思います。ですが、麻薬非合法国にも関わらずあまり目立たないようなところで危険薬物を使用している人たちもいるので暗い所や路地裏などは避けた方が良いです。さらに、時々観光客を狙ってコインをせがんてくる人もいるのですが、そのような人は無視するのが良いです。比較的安全な国とは言え日本にいる気分のままではいるのは危険です。ですが1つ身をもってシドニーの治安の良さを体感しました。私はバスの中にiPhoneをバスの中に忘れてきました。外国で落とし物をしたら帰ってこないと思えと言われて來たので半ば諦めました。留学先の外国人留学生友達を含め、何人の人が協力してくれました。最終的に乗客がバスドライバーに届けてくれて会社の落とし物センターに届いていました。奇跡かもしれませんが見つかった要因としてシドニーの人が良い人だという事が大きいと思います。もし財布や携帯を失くしたとしても焦らないことが一番です。iPhoneの人はiPhoneを探すというアプリを設定すると大変便利です。失くしたのがラスト1週間だったので慣れからくる緩みだと思います。シドニーは人が優しいだけではなく、街並みがとてもおしゃれでたくさんのフォトスポットがあります。さらに有名なブルーマウンテンなど大自然へ電車一本で行けるアクセスの良さもあるのでとても良い場所です。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の短期研修をして自分の英語能力を良くも悪くも見つめなおすことができました。高校や今まで積み上げた英語が通用している心地よい感覚とシドニーでの授業で全く聞いたことがない言葉や時々自分の言いたいことが伝わらない場面での悔しい気持ちがありました。さらにリアルな英語を感じたいと思い積極的に道行く人に本当は知っている道を聞いてみたりしました。そういう積極性が身についたのが私の中で一番の収穫だと思います。シドニーで生活してみて、たくさんの新しい感覚を味わって海外の楽しさを改めて感じたので海外で働きたいという気持ちがより一層強くなりました。そのためにはもっと勉強しなければいけません。これといった明確な夢はまだ持っていないので、これをよい機会に職を探してみたいと思います。私が知らなかつた世界を知れて海外の友達の輪を広げることができた良い経験でした。

所属：外国語学部 英米後学科 2年

出身：福島県立白河旭高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修国・地域の紹介について】

オーストラリア人と日本人では、生活スタイルや考え方は大きく異なります。さらに、オーストラリアには様々な国籍や民族が暮らしているため、それぞれ異なる生活スタイルを持っていると思いました。まず、生活習慣についてオーストラリアは雨が降る日が少なく水が貴重なため、シャワーは5~10分以内と決められている場合がほとんどです。お店やレストランは基本的に17時~18時の間に閉店します。友達と夕食を食べるためレストランを探している時、ほとんどのお店が閉店していて、とても困りました。木曜日や金曜日はレイトナイト・ショッピングとして20~21時まで開いているお店もあります。コンビニも�数が少なく、日本のコンビニと比べると品揃えも悪いため生活環境は日本よりも少し不便さを感じるかもしれません。また、学校生活でも考え方の違いがありました。研修先の授業を通して日本人は自分の意見をしっかり持っていないと感じました。私のクラスには日本の他の大学から来ている生徒も多数いました。授業内でグループワークをしている時、他の国からきている生徒は自分の意見や考えを長々と話す中で、日本人の生徒は少し話して終わってしまう人や全く言葉に出さない人ばかりでした。日本人は文法の間違いや意見を否定されるのを恐れて自分の意見を言葉にして伝えることが苦手なのだと他の国の生徒を見て気づきました。

【日常生活について】

日本よりも学校が早く終わることから放課後には観光などをする時間の余裕がありました。学校周辺を散策して、バスに乗れば簡単にビーチや都市部に行くことが出来ます。私のホームステイ先が学校から離れた場所にあったので早めに帰る必要がありましたが、そうでない人はシドニーの夜景を見たり、パブに行ったりと楽しんでいました。また、授業内で仲良くなった他国留学生と放課後に買い物や食事を楽しむことが出来ました。お別れの日には手紙とプレゼントを渡してくれて、この学校に通って良かったなと感じました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して広い世界に飛び出ると、心も広くなると思いました。よく海外に行くと視野が広がるという言葉で表現されますが、私の中では自分の中の当たり前が壊されることで包容力が上がるイメージを持っています。自分の当たり前に慣れずに何事にも感謝できるように、そして自分の当たり前を無意識に人に押し付けないように気を付けるきっかけをくれました。他国で生活することで、自分の社会で活かせる部分や改善しないといけない点をたくさん気付かせて貰いました。以前よりも成長した姿でオーストラリアに足を運べるように精進したいです。

所属：外国語学部 英米語学科 2年

出身：都立南平高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修参加の動機について】

私はこれまで日本を出たことがなく、今回が初海外でした。大学入学時、自分の中で決めていたことのひとつが「大学生の間に一度は海外に行くこと」でした。なぜなら中学時代英語の先生に「学生のうちに海外を経験しないとい」と言われたからです。その時留学や旅行など海外の体験談をたくさん聞きました。私は初めてのことは苦手でしたがその未知の世界は楽しそうだと思いました。その頃から将来英語を使う仕事に就きたいと考え始めており、さらに英語が好きだった私にとって、それは徐々にですが目標になりました。とは言えなかなかタイミングはなく大学生になりました。初体験となるので遊びに行くというよりも留学のプログラムに参加する方が、色々決まった中で行動する分安心かなと考えました。去年も短期研修の案内は目にしていましたが、大学生活に慣れる1年にしましたかだったので応募ませんでした。そして今年、行きたい気持ちは今まで一番強いものだったと思います。しかし、金銭面の不安や自分自身への自信のなさから親に言い出せずにいました。ある時何気ない会話から留学に行きたいという気持ちを伝えると両親は全力で応援してくれていました。それが大きな後押しとなり、応募し、参加できることになりました。

オーストラリアを選んだ理由は、単純ですが最も興味のある国だったからです。きっかけは高校の同級生の留学でした。一年間オーストラリアで生活し帰ってきた同級生がとても充実した表情をしていましたが印象的でした。楽しかったんだなとすぐにわかりました。また、個人的にオーストラリアはのんびりした雰囲気のイメージがあり、スローペースな自分に合っているのかなと思っていました。実際にやってみてオーストラリアを選んで正解だったと感じています。

【日常生活について】

私のホームステイ先は他の留学生はおらず、ファミリーとの生活でした。ホストマザーは仕事、ホストブザーは学校に行き、私はたくさん出かけていたため、朝と夜しか会えるタイミングはありませんでしたが、一緒に食事をしながらの会話はとても楽しいものでした。私は話すのが得意ではありませんが、毎日その日の出来事を報告するなどコミュニケーションをとっていました。自分なりにこう伝えてみようと考えることができました。初日にルールを聞いていたので特に問題なく快適に過ごさせてもらっていました。家に犬がいる生活も初めてでしたが、すぐに慣いてくれて毎日遊んで癒されました。

行く前に不安だったことのひとつがお金に関してでしたが、クレジットカードと現金を使い分けしていました。動物や水族館などのチケットは事前にネットで買っておくのが少し安くなるので、やはりクレジットカードは作るのが良いと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この研修中、初海外ということも手伝って思いがけないことがたくさん起こりました。今までならあまり自分で言えずに、ただあたふたしていた気がしますが、今回は自分から話しかけて道を教わったり、お店などで分からぬ時に聞いたりすることができます。そのおかげで周りの皆さんに優しく救われ、無事に5週間終えることができました。それは海外に限らずこれからも必要なことなので継続していきたいです。またオーストラリアが大好きな国になっただけでなく、もっと色々な国に行ってみたいと思うようになりました。決して不可能なことではないので、挑戦してみたいです。この短期研修はとても大きな経験になりました。初海外がオーストラリアで本当に良かったです。

所属：外国語学部 英米語学科 3年

出身：私立和光高等学校

2017.4 拓殖大学入学

2019.8 オーストラリア短期研修参加（ニューサウスウェールズ大学）

【研修生活について】

研修生活について先ず思ったことは、異なる背景を持った学生がいるということです。クラスの中には現地の大学院に通う為に英語を勉強している人や旅行感覚で学校に来ている人など各自の目的は異なります。また、私のいたクラスでは18歳から26歳までの年齢の人が語学学校で英語を学んでいました。有難いことに、私は国際色豊かなクラスで英語を学べたので多くの異文化に触れる機会を得られました。15人ほどのクラスの中に、日本人は私を含め2人しかおらず英語を学ぶ上で最高の環境でした。しかし、人によっては授業が簡単すぎることもあるので少しでも授業のレベルに疑問を持ったら相談するべきだと思います。正直に言って、僕がいたクラスは簡単だったので予習も復習も何もしませんでした。中学生レベルの英語の授業だったと思います。宿題は毎週出されますが5分で終わります。案ずるより産むがやすし、習うより慣れよだと思いました。積極的にコミュニケーションを取らないと勿体ないと思いました。

【日常生活について】

最初にホストファミリーから家のルールや注意事項などを聞いておくと、良いと思います。学校までの経路なども初日に聞いて確認しておくと良いと思います。なので積極的にファミリーとコミュニケーションを取り、疑問に思った事を質問すると良いと思います。あと私は短期研修ということもあり、ほぼ毎日色々な場所へ出かけていたので交通費が1か月間で250オーストラリアドルかかったので、これから研修に行かれる方は是非参考にして下さい。

携帯はSIMロックを解除してから持っていくとスムーズに通信手段が確保できるのでその方法をおススメします。または、ポケットWi-Fiなどをレンタルする方法がありますが値段的にはSIMカードを現地で購入した方がお得だと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の短期研修を通して日本と海外の違いを感じることができ、とてもいい勉強になりました。考え方や働き方の違いなどを実際に自分の目で見て確かめることができたのはいい経験になったと思います。百聞は一見に如かずだと思いました。1か月間という短い期間ではありましたが、私の人生において最も密度の濃い1か月だったと思っています。海外で1か月間過ごしたおかげでサバイバル能力も高まったので今後の学生生活でも、その能力を生かし楽しんでいこうと思います。



国際学部プログラム

インドネシア (第17回) ダルマプルサダ大学

UNIVERSITAS DARMA PERSADA (通称: UNSADA)
Jl. Radin Inten II (Terusan Casablanca) Pondok
Kelapa Jakarta Timur 13450 Indonesia
<http://www.unsada.ac.id/>
Tel : (021)8649051 Fax : (021)8649052

1986年、インドネシア日本友好協会とインドネシア元日本留学生協会（どちらもインドネシアの組織）との協定により設立された日本とインドネシアの友好関係を表すシンボリックな大学で、日本の皇室、国会議員等も多く訪問しています。4学部を有し、特に日本語学科はインドネシア日本語教育界双璧のひとつといわれ、毎年本学と共同で日本語弁論大会を開催しています。

研修概要

目的

インドネシア語、日本語ボランティア授業、企業見学を中心とした海外研修を実施します。この研修では拓殖大学で受講する1年分のインドネシア語特別集中授業、大学周辺の学校でのボランティア授業を行います。

対象学生

国際学部在籍者（15名前後）
他学部・他学科の学生も若干名募集します。

要件

地域言語インドネシア語を1学期以上履修していること。

単位認定

「開発研修」I～III（国際学部のみ）
※単位認定方法の詳細は、国際学部「講義要項」を参照ください。

期間

2020年8月上旬～8月下旬（約3週間）

滞在方法

インドネシア人家庭にホームステイ。

募集、選考

募集4月下旬 面接及び合格発表5月中旬

選考方法

面接（人物、学業成績、健康状態などを総合的に判断）

研修日程（2019年度の参考）

8/8 (木)	成田発 ジャカルタ着
8/12 (月)	授業開始
8/27 (火)	授業修了
8/29 (木)	送別会・ジャカルタ発
8/30 (金)	成田着、通関後解散

研修費用（2019年度の例）

● 旅行基本費用（航空運賃、成田空港税等）	… 78,970 円
● 現地交通費	… 11,375 円
● ホームステイ費（4泊）	… 6,667 円
● ホテル代（17泊）	… 56,667 円
● 授業料諸費	… 8,700 円
● 海外旅行総合保険料	… 5,530 円
● 予備費	… 2,091 円

合計 170,000 円 その他生活費用等が発生します。

（レート 100RP (ルピア) = 1 円で算出）

所属：国際学部 国際学科 1年

出身：都立杉並総合高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマップルサダ大学)

【研修参加の動機について】

私は高校生の時に二度インドネシアに行ったことがあります、拓殖大学にもインドネシア語を学びたくて入ったので入学時からこの研修に参加するつもりでした。インドネシア語を選択していて話せるようになりたいと思っているなら1年生のうちにこの研修に参加することをお勧めします。はじめはまだ知識のない状態でいっても何の意味もないのではないだろうかとも思いました。でも実際にやってみたことでインドネシア語に慣れて勉強の仕方もわかるようになったし、インドネシアに友達ができたことで、SNSでつながりインドネシア語に日常的に触れることができるようになりました。もしこのような研修に参加すると決まつたら早いうちに準備を始めたほうがいいと思います。初めての人とかもネットで調べれば何が必要になるのか、現地調達できるものは何なのかはわかると思うので早いうちに準備しましょう。今回の研修で少しでも興味があって研修に参加することができる環境にいるのならば積極的に参加するべきだなと思いました。

【日常生活について】

平日は基本ホテル滞在だったので生活に不自由はありませんでした。私の中で一番の問題はトイレだったけれどそこは日本とあまり変わりなかったのでよかったです。大学のトイレも流せる所がありました。でもホームステイ先は家庭によってはトイレが洋式のところ、和式のところ、シャワーのところ桶のところなどいろいろあつたけれどどんな家庭でも生活をしているうちに慣れると思います。現地の方々とかかわる中で気を付けるべきことは、握手やハイタッチなどでは左手を使わないようにすることです。左手でも気にしない人もいますが、使わないほうがいいと思います。服装も気を付けてください。露出の多いものはもちろんだけですが透けているものも避けたほうがいいと思います。冷房が強いところも多く個人的な意見としては、観光日以外は長そででちょうどよかったです。教室は冷房がすごく聞いていることもあるので羽織るものを持っているといいと思います。あと、パスポートは必ず肌身離さずに持ち歩きましょう。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修に参加して確実にインドネシア語の知識は増えたと思うし、外国語を話すことへの恐怖心はなくなりました。日常生活で使えるような単語や表現を教えてもらえるのでその日に教えてもらったことを放課後に実際に使ってみて復習する感じだったので無理せずに勉強することができました。そして、どうやって勉強するのが自分に向いているのかが何となくわかるようになったので後期と2年生頑張れると思います。わからないことがあったら相談に乗ってくれて教えてくれるインドネシア人の友達もできたことが今回の研修に行ってよかったと思う理由の一つです。過去に二回インドネシアに行って将来インドネシアで何かしたいと思っていたけれど今回の企業訪問で三洋電機やJETRO、JICAに行ったことが、自分が本当にしたいこと、そのためには何をすべきなのかを現実的に考える機会になりました。今後はもっとインドネシア語を自分のものにして夢に近づくとともに興味のある東南アジアの他の国にも行ってみようと思っています。

所属：国際学部 国際学科 1年

出身：都立杉並総合高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマップルサダ大学)

【研修参加の動機について】

私がインドネシアという国を選んだ理由は、高校生の時、インドネシアへのボランティア活動経験があったからです。インドネシアのことを何も知らない状態で行ったため、ボランティアで訪れた孤児院では、思うように意思疎通ができませんでした。しかし、優しい愛のある対応で、受け入れてくれたインドネシアの人たち、そして Indonesia という国を、好きになっていました。そこでもっとインドネシアの文化、言語などインドネシアという国について知識を得たいと思い印度ネシア研修に参加しました。地域言語でももちろん印度ネシア語を選択していて、基礎的な知識しかない一年で研修に参加するか、ある程度の知識がついてから参加するか迷いましたが、一年生で参加してよかったです。一年の前期で短期留学して力をつけておくことによって、後期からの授業内容の理解が深まりやすくなると感じたからです。そして、参加前にある程度の政治状況や宗教、習慣について知識を身につけるべきだと思いました。宗教による習慣をしらず、失礼な言動を無意識でてしまっている人を何度も見たからです。相手のためではなく、自分のためにも事前学習は必要だと感じました。

【研修国の紹介について】

気温は高いが、風通しがよく日本の真夏より過ごしやすいです。ですがムスリムの方が多いので、半数は長袖や上着を着ています。日本人からみるととても暑そうですが、本人たちはそうでもないみたいでした。室内のエアコン設定はとても低く、壊れているのか?と何度も思いました。なので上着を持ち歩くべきだと思いました。印度ネシアの食べ物は基本的に全て美味しいです。しかし基本的に辛いので、辛いのが苦手な人はレストランなどで辛いのが苦手という趣旨を伝えなければいけません。日本のような生野菜はあまりないので、食事のバランスをとるのが難しいかもしれません。飲み物は基本的に甘いです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修で学んだ印度ネシア語の勉強の仕方を生かして、今後の印度ネシア語の授業により一層邁進します。

印度ネシアにいたときに印度ネシア語に慣れたことで普段から積極的に印度ネシア語を使えるようになったと思うのでその慣れがなくならないように意識していきます。また、イスラム教を身近に感じ、宗教を理解することは、そのひとを理解するうえでとても大切なことだと思ったので、これからも知識をつけていこうと思いました。

所属：国際学部 国際学科 1年

出身：私立白梅学園高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマプルサダ大学)

【研修生活について】

最初にクラス分けテストを受けます。少し難しく感じました。テストの結果次第でAクラスとBクラスに分けられます。私はBクラスでした。基本的には別々の教室で学び、たまに合同で学びます。先生は授業ごとに変わります。教材はダルマプルサダ大学の先生方が用意してくださったプリントです。授業には3種類あります。文法や疑問詞などをやる基本的な授業、大学やホームステイ先でインタビューをしたあと発表するインタビュークラス、自分のことについてスピーチするスピーチクラスです。その他にもインドネシアの歌を聴き取ったり、伝統的な料理を作って食べたり、ゲームを行ったりしました。授業の速さや難易度は丁度よかったです。文法や単語は事前にやっていましたので、思っていたよりも授業についていくことができました。

一番興味深かった授業は Go-Jek で注文してみようという授業です。インドネシアでこんなに配達業者が進んでいるとは知りませんでした。スマホで注文する方法をみんなで学んだあと、実際に注文しました。チャットで話せること、待ち時間が分かることはいい制度だと思いました。この授業で Go-Jek の注文方法、「最初に」などの手順を表すインドネシア語、インドネシアの料理を学ぶことができました。椅子に座って学ぶだけでなく、実際に使用することで定着しやすくなつたと思います。

授業が終わった後は復習をしつつ先生からの宿題をやりました。自分で作った文を先生が添削してくださるので違いや間違えた原因が分かりやすかったです。微妙な表現の違いについても学ぶことができました。単語を忘れてしまったときは自分のノートを見て復習しました。ノートは持っているべきだと思います。私は日本から持って行かずに現地で購入しました。授業だけではなく日本語ボランティアやスピーチのための下書き、インタビューのメモにも使いました。

【日常生活について】

現地での買い物はサンティカホテルのモールがほとんどでした。スーパーでお菓子や飲み物を買ったり、バティックのお店や雑貨屋を見たりしました。たまに向かいのモールへ行きました。仲良くなった大学の友達と遊んだりもしました。お金は予想していた金額より使いませんでした。食事はモールにある店舗に入ってインドネシア料理を堪能しました。Nasi goreng もおいしいですが、Soto Mie などのスープ系がとても好きになりました。Bakso が入っている料理も好きになりました。

ホームステイ先での生活ははじめ心配のほうが勝っていましたが幸せで楽しかったです。でも車から降りてすぐダンスをすることになったときは驚きました。インドネシアの文化を体験した瞬間だったと思います。食事は家にいるときは Ibu が作ってくれました。外に出かけているときは外食をしました。お米と一緒に食べることを知って、日本より並ぶし待つことを学びました。部屋は一人ずつだったのでホテルよりゆっくりできた気がします。週末は Grand Indonesia やモナスへ行きました。ホームステイ先の人だけでなく友達も来ていたのでその人たちとも仲良くなれました。バティックを買うのを手伝ってくれたり、インドネシアの文化について教えてくれたりしました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

現地に行くことで一番したかった文化の体験ができました。それと同時に言語力やコミュニケーション能力もあがりました。難しいと思っていた友達作りもうまくいきました。インドネシア人は温かい人が多いことも学べました。もう一回彼らに会いたいのでインドネシアに行こうと思います。インドネシア語で話せるようになりたいので大学でのモチベーション維持につながると思います。それから、日本語教師に興味が沸きました。今の目標は言語力アップです。

所属：国際学部 国際学科 1年

出身：埼玉県立川口高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマプルサダ大学)

【研修国・地域の紹介】

私は今年の夏休みに3週間、インドネシアに短期留学に行きました。私はダルマプルサダ大学という学校に通いました。ダルマプルサダ大学はジャカルタの東側に位置する西ジャワ州北西部の地方であるブカシという都市にあります。ジャカルタは高層ビルや日系企業がたくさんありましたが、ブカシはまだ発展途上の都市だと感じました。インドネシアは5月から10月までが乾季なので、私がインドネシアにいる間ほとんど雨が降りませんでした。気温は日本とあまり変わりませんが、湿気が少なく日差しがとても強かったです。

男性の服装は日本の男性と違いはありませんでした。女性は肌をできるだけ出さないような格好でヒジャブというスカーフを頭に被っていました。しかしイスラム教徒でもヒジャブを被っていない人もいました。お友達に聞いたら、ヒジャブを被るか被らないかは自分で決めていいのだと教えてもらいました。イスラム教は断食したり、お祈りの回数が多くつたりと窮屈な宗教かと思っていたけど、自分で決めていい部分もあって意外に柔軟だと思いました。インドネシアの正装はバティックというシャツで伝統的な柄が描かれています。最初は少し派手だと思ったけど、着ているうちに馴染めます。ワンピースのバティックはとても可愛いです。

インドネシアは渋滞がすごかったです。高速道路でもなければ土日でもないのに車やバイクが全然動きませんでした。バイクの渋滞には特に驚きました。3人乗りや4人乗り、まだ首が座っていない子をお母さんが抱っこしてバイクに乗っていたので危ないと思いました。インドネシアに行って、日本人は働きすぎなのかもしれないと思いました。インドネシアではスーパーが10時には閉まったり、働いている途中に携帯をいじったり、同僚とおしゃべりをしていたりとても自由でした。それでも商売が成り立っているので、日本ももう少し気を抜いて働いてもいいのではないかと思いました。

【日常生活について】

ホームステイ先では停電してしまうので夜はドライヤーを使わないように言われました。自然乾燥だったので風邪をひいてしまうかなと思ったけど平気でした。ホームステイで一番しんどかったのはお風呂です。ホームステイ先のお家のお風呂はトイレでした。日本のようなトイレに大きな樽があって、その中の水を手桶で汲みながら頭や体を洗います。水浴びは最初は冷たいですが、途中から体が熱くなってくるので不思議でした。思ったより早く慣れました。

またトイレでトイレットペーパーがないのが衝撃的でした。うっかりティッシュを持っていくのを忘れると焦ります。インドネシアでの授業はとても楽しかったです。先生たちは簡単な問題に答えただけでもたくさん褒めてくれるのでやる気がどんどん出てきます。またスピーチの発表でダルマプルサダ大学の学生が見に来てくれた時、質問が自然に出たり、いいところも言ってくれるのでインドネシアに来てから発表することが前よりも苦手ではなくなりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修でインドネシア語への意欲がとても高まりました。私が地域言語の中からインドネシア語を選択したのは楽しそうだったからという浅はかな理由でしたが、インドネシアで実際に現地の方々と話しているうちに自分が思っていることを流暢に伝えたい、相手の言っていることをしっかり理解したいと思うようになりました。現地の方々は気さくに話しかけてくれたので、インドネシア語でコミュニケーションを取るのがとても楽しかったです。それなのでこれからインドネシア語の授業を前よりも熱心に受け、次インドネシアに行ってインドネシア人の友達に会ったときに上達したインドネシア語を話してびっくりさせたいです。

所属：国際学部 国際学科 1年

出身：埼玉県立坂戸高校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマップルサダ大学)

【研修参加の動機について】

私が研修に参加した理由は3つあります。

1つ目は、インドネシア語を上達させたいからです。私は地域言語でインドネシア語を勉強しています。なぜかというと、東南アジアに興味がありその中で一番簡単な言語だからです。それゆえ、この研修で現地のインドネシア人の先生からインドネシア語を学びたいと思いました。

2つ目は、インドネシアの文化を学びたいからです。研修に参加する前から、インドネシア人の友達や昨年一昨年に参加した先輩から話を聞き、日本と違うインドネシアの文化について聞きました。例えば国民性で言うと、日本は真面目だからアルバイトも厳しいが、インドネシアのアルバイトは緩くて座ったりおしゃべりしたり携帯をいじったりできます。日本にはないインドネシアの文化についてすごく興味を持ちました。

3つ目は企業訪問したいからです。大学卒業後の進路を考えた時に、海外勤務の仕事に興味があったので、この研修の企業訪問で何か将来のことを考える手助けになるだろうと思いました。

応募のタイミングについては、1年生で参加するべきだと思います。現地の大学で1年生の前期に学ぶことを勉強するので、良い復習になりました。また、新しいことも学ぶので、研修に参加してない人と比べると後期の授業が簡単になると思います。他にも、実際にインドネシアに行くと価値観が変わります。これから学校生活や進路を考える上で研修に参加した経験が生かされると思うので、1年生の時に行くべきです。

研修に参加する前に履修した方が良い授業は東南アジアです。インドネシアは日本と比べてまだ発展途上の国です。それは何故なのか、どう発展しているのか、また研修中に独立記念日と重なるので歴史的背景を知っておくべきです。東南アジアの授業では、詳しくインドネシアや周辺国について学ぶことができます。

また、図書館にあるインドネシアについて書かれた本を読んでおくと、深く理解できると思います。準備スケジュールについては、授業はしっかりと受けておくこと。現地で学ぶ時に日本で学んだことが本当に活かされます。荷造りは、一週間前に荷造りをしました。それまでに必要なものは用意し、荷造りして必要だと思ったものを買い足しました。直前に準備はしない方がいいです。

【日常生活について】

平日はホテルに泊まりました。授業終了後はバスでホテルに戻りその後は夜九時のミーティングまで自由行動です。友達と一緒にホテルの下のモールでご飯を食べていました。週末はホームステイです。基本、私を受け入れてくれた家族やその友達とお出かけしました。ホームステイしているときに、インドネシアの独立記念日（8月17日）と重なり独立記念塔に行きました。そこでは、DJなどのゲストステージやイルミネーションなどのイベントが行われていました。また、研修先の町はモールがたくさんあり栄えていました。研修先のダルマップルサダ大学は、日本語で有名な大学で日本語を流暢に話す学生がたくさんいました。施設はWifiや、安くておいしい食堂や、きれいな体育館や、日本の協力でコンピューターがたくさんあったりと、整っていました

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して得たことは、自分の身は自分で守るということです。幸いみんな無事にかえってこられましたが、何かの事件に巻き込まれることは日本にいる時より可能性が大きいです。治安は良くないため、危ないなと思う瞬間が多々ありました。また、価値観が大きく変わりましたしインドネシアの文化やインドネシア語により興味を持ちました。今後の学校生活への影響と進路に大きく影響しました。在学中にインドネシア語の長期語学留学をして、もっとインドネシアについて学びたいです。また、卒業後の進路としてインドネシアにかかる仕事に就くという選択肢もできました。

所属：国際学部 国際学科 1年
出身：私立女子美術大学付属高等学校
2019.4 拓殖大学入学
2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマップルサダ大学)

【研修生活について】

授業は登校初日に筆記と会話のテストを受け、その結果をもとに分けられたクラスで行われていました。授業内容は数字、色、物の名前などの名詞・代名詞・動詞・助動詞などの単語を教わる座学の授業だけでなく合同でスピーチの仕方を教わるクラス、教室を出て実際にインタビューをしたり、コンビニやワルンという小さなお店で買い物をする授業もありました。座学の授業ではプリントが配られそのプリントに沿って授業が進められます。研修期間の中日と最終日にテストがあるので単語を覚えるのが大変でした。また研修の後半にはポチョポチョと呼ばれるダンスの授業があり最終日にはパフォーマンスもしました。授業以外では高校に行き日本語ボランティアとして高校生に日本語を教えました。二班に分かれ私は日本の歌を紹介する班にいましたがどの子も元気がよくて一緒に歌うのがとても楽しかったです。また最後にプレゼントとしてあげた折り紙をものすごく喜んでくれたのが印象的でした。

【日常生活について】

インドネシアは老若男女問わず気さくで親切な人達ばかりでした。ダルマップルサダ大学の学生はもちろんモールの店員やホテルのフロントスタッフの方も会うと笑顔で挨拶をしてくれて色々な話をしました。会話の中で相手からインドネシア語を教わったり、逆に自分たちが相手に日本語を教えたりと日本ではなかなかできない交流ができたと思います。インドネシアの物価は日本に比べて安いです。一万円をルピアに両替したら札束になって戻ってきたり、500mlの飲み物が35円で買えたりするので来たときは驚いてばかりいました。食べ物も安い値段で買うことができますが買うときに「辛くしないでください」と言い忘れると結構な辛さで味付けされてしまうので注意が必要です(笑)。また、水道水は飲むことができないので買う必要があります。ですが平日はホテルで貰えるのでほとんど買うことがありませんでした。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

この研修は私にとって初めての海外渡航でした。最初のころは環境の違いから体調を崩し、授業を受けることができず日本に帰りたいと思うときもありましたが友達やアシスタントの先輩、先生のおかげで体力も回復し、最終日まで滞在できました。今ではそのことを嬉しく思います。体調不良になったことをきっかけにインドネシアの良さだけでなく日本での生活へのありがたみも感じることができました。

また、研修期間中、自分が思っていたよりも沢山の人と話せたことに嬉しく思う反面言いたいことがきちんと伝わらず悔しく思うこともあり自分の語学不足を痛感しました。今後の学校生活ではインドネシア語の勉強を今まで以上に頑張りたいと思います。

所属：	国際学部 国際学科 1年
出身：	秋田県立大館桂桜高等学校
2019.4	拓殖大学入学
2019.8	インドネシア短期研修参加(ダルマップルサダ大学)

【研修参加の動機について】

私がインドネシアと関わるきっかけとなった出来事は、入学当初にインドネシアの魅力を教えてくれた先輩と出会ったからです。その先輩と出会うまでは他の国に興味がありました。インドネシア語を第2言語として選択してから言語を学習するようになっただけでなく、インドネシア映画を見るようになって実際にインドネシアに行ってみたいと思い今回インドネシア研修に参加しました。

研修に行くおすすめのタイミングは1～2年生だと思います。私の場合、インドネシア語を選択しようと考えていなかつたためインドネシアについて知識がありませんでした。実際に渡航したことによって、インドネシアの文化や言語を学ぶことができただけでなく友達も多くできたのもっとインドネシア語を頑張ろうと思うきっかけになりました。特にインドネシアに行ったことがなくインドネシア語を学習している人は研修に参加すると学習しようとすると理由が見つかると思うので参加をおすすめします。

出発までにしておいた方がいいことはある程度、文化とインドネシア語を勉強することです。文化面では、インドネシアはイスラム教徒ということもあり日本と異なる部分が多いです。日本では普通のことがインドネシアでは普通じゃないことが多いので情報を集めておくことが大切です。語学面では、人と話す機会が多くなるのである程度インドネシア語を話せると自分自身にとってとても濃い研修になると思います。インドネシア語を選択していないひとでも「ありがとう」などのあいさつや自己紹介を勉強しておいた方がいいと思います。

【日常生活について】

約3週間のインドネシア研修のメインの宿泊先はホテルでそのうちの4日間はホームステイでした。私の場合、ホームステイ先ではホームステイ先の方家族との交流だけでなく村の方々とも交流をすることができました。しかし、インドネシア人で日本語を話せるのは1人しかいなかったため交流の際はなかなか言葉が伝わらず苦労する場面もありました。間違ってもいいので自分で話しかけに行ったり、学んだことを活用してはなしたりする行動が大切です。

放課後や休日は近くのショッピングモールに行く機会やインドネシアの観光地に行く機会がありました。ミーティング時間は午後9時でした。インドネシアの伝統をみたりお土産を買ったりすることができました。また、研修期間の夕食は自分自身でスーパーかファミレスなどで夕食を食べることになるので様々なインドネシア料理を食べることができました。注意点として物価は安いですが、昼食と夕食は研修費用に入っていないので昼食と夕食分のお金を含めて持ってきた方がいいです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して文化の違いとインドネシア語を詳しく学ぶことができました。研修を通して多くの友達もできたことによって次はインドネシア語でもっと話せるようになりたいと思うようになりました。この研修でさらにインドネシアに興味が出ただけでなく、日系企業に訪問して日系企業も興味が出ました。今後の学校生活では、インドネシア語の学習を続けるだけでなく、日系企業も視野に入れて情報を収集していきたいです。

所属：国際学部 国際学科 1年

出身：都立府中西高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマップルサダ大学)

【研修参加の動機について】

私がインドネシア研修に参加した理由は、ホームステイや企業訪問、ボランティア活動など観光ではできないことをして、様々な面からインドネシアはどういう国なのかを確かめたかったからです。小学生の時にインドネシアから一年間留学生が来ていたのですが、その時はインドネシアについてよく知らなくて、疑問に思うことも多々ありました。それ以来インドネシアはどういう国なのかもっと知りたいと思っていました。特にホームステイやボランティア活動を通してインドネシアでの私生活の様子を知ることや、インドネシアでの授業はどんな感じなのかを理解できるようになりたいと考えていました。

私が1年生のうちにこの研修に参加した理由は、先輩が「研修に行ったら、帰ってきてからの授業が理解しやすくなる。」と言っていたからです。私もこの研修に参加してから、インドネシアについてもっと知りたい、インドネシア語をもっと話したいと思うようになりました。

私は大学で東南アジアの授業や国際協力入門を履修しており、そこでインドネシアの知識を蓄えておくことができ、JICAやJETROではそこでの知識が役に立ち、授業内容と照らし合わせながらお話を聞きました。

【研修生活について】

最初の1週間くらいは日常会話でよく使う言葉の授業がありました。初めは、日本でも勉強しているからある程度大丈夫だろうと思っていたのですが、研修先での授業は日本でまだ習っていない単語がたくさんあり、授業内容も濃かつたので、復習は欠かせなかつたです。私は物覚えが悪く、習った単語をノートに書いてもなかなか覚えられなかつたのですが、お店や友達との会話で何回か使っているうちに自然と覚えることができるようになっていました。なので、習ったことを覚えて、実際に会話で使ってみるようにして復習をしていました。研修先では座学以外に研修先でしかできない授業がありました。私が特に楽しかったのはインタビュークラスでした。私はあまり大人数にインタビューはできなかつたのですが、友達と結果を集計すると、甘いものが好きだけど辛いものは好きじゃない人は結構いることや恋愛観はどうなのかななど、普段はなかなか聞けないようなことまで聞けて、自分のインドネシア人に対する見方も結構変わっていきました。交流会でもインドネシア人に対して質問はできますが、交流会にいないホストファミリーやお店の人との話題作りにもなって、とても楽しかったです。

週末はホームステイをしました。ホームステイは2回あり、1家族2、3人で泊まったのですが、1回目の時、一緒に泊まるはずだった人が体調を崩してしまい、1人で泊まることになってしまいました。その時は私もまだまだインドネシア語が身についておらず、思うように会話ができませんでした。しかし、上手く会話ができなかつた分、もっと頑張ろうと思い、ホームステイ中でも勉強して、習ったことをなるべくたくさん使うように心がけました。すると、初日よりも言いたかったことが伝わり、嬉しいと思ったと同時にもっと上手に話せるようになりたいと思うようになりました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私はこの研修を通して、インドネシアに対する知識量と関心が以前より高まりました。私はインドネシアに着いて間もないとき、英語もインドネシア語も苦手だったので、お店でのやり取りすら全くできず、聞き取ることも話すこともできませんでした。しかし、研修中に様々な人と話をすることで、言葉や文化をだいぶ理解できるようになりました。なので、今後はこの研修で学んだことを生かして、インドネシア語の勉強に力を入れてインドネシア語で交流できるようになります。またインドネシアと関わっている日系企業について調べて、日本との繋がりについてもっと知りたいです。

所属：国際学部 国際学科 1年

出身：宮城県仙台市立仙台高校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマップルサダ大学)

【研修参加の動機について】

両親の知人がインドネシアと日本を行き来して仕事をしている方がおり、高校時代からインドネシアの文化などについて話を聞く機会が多々ありました。そこからインドネシアという国に興味を持ち、今回の短期研修への参加を決めました。まわりの方の多くが地域言語選択でインドネシア語を専攻している方でしたが、私は別言語を選択し、東南アジアで英語を勉強してみたいということもあり、英語専攻での参加を決めました。英語専攻者は私を含め2人で、先生はダルマップルサダ大学（研修先）で英語を専攻している生徒の方と先生が毎日交代制で教えてくださいました。先生は、全く日本語を話せない方達だったので、英語での会話を中心に慣れてくると英語でインドネシア語を教えてくださいました。インドネシア語にも触れることができ、語学留学で2言語を学べたことは私にとってとても良いチャンスでした。

海外研修には、1年生のうちから行くことをお勧めします。実際私は、この研修に参加したおかげで多くの友達ができました。先輩方や同級生達、現地の方々との交流が私自身を少しではあるかもしれません、強くしてくれた気がします。またもっと海外研修に参加して、語学を勉強したい、交流を広げていきたいと思うようになりました。拓殖大学の留学プログラムは、夏季と春季が主なので、早いうちから参加を希望する方は、ぜひ夏休みに参加できる短期留学に参加をしてみてほしいです。インドネシア研修の場合、期間は約3週間で、プライベートで旅行に行くよりも費用は安く行けることはチャンスであり、メリットだと思います。研修に参加をする前に、事前研修というものがあります。そこでその国で絶対に必要なもの、してはいけないこと、他言語選択者の為にプリントなどを通じて基本的な会話などを教えてくださいます。どれも重要事項ばかりなので、責任を持って話を聞くことをお勧めします。私自身出発までに修得しておくべき科目は、特にないと思いますが、留学を有意義なものにする為にもその国の食文化、その国の主な宗教や基本的な日常会話は身につけておくと良いと思います。そうすることで、早くから現地の方々と関わることができます。インドネシアの場合、多くの方がイスラム教徒です。学校の友達もホームステイ先の家族もほとんどの人が毎日5回必ずお祈りをしていました。学校やショッピングモール、ホテルなどには当たり前のようにお祈りを行う場所が設置されていました。お互いの国の文化を理解していくことの大切さを改めて知ることができました。

【日常生活について】

この研修は、平日はホテルで暮らし、金曜日の放課後から日曜日の夕方までホームステイという形式をとっていました。ホテルは3人部屋で、前半・後半に分けてランダムで部屋割りが決められていました。私はほとんどの人が初対面だったので、交流することのできる良い機会だったと思います。そのおかげで仲良くなったり友達が多くできました。ホームステイは主に2人組で、事前にペアが決まっていました。ホームステイ先によって家族構成や食生活、観光場所などは異なり、私のホームステイ先は多くのショッピングモールに連れて行ってもらったり、インドネシアでしかできない貴重な体験をさせてくださいました。

インドネシアのホテルは、シャワーとトイレが日本と同じように使用することができますが、一般家庭の多くはシャワーではなく、桶に入っている水を使用する家庭が多く、トイレも自力で水を流す家庭が多いようです。そのような部分を理解した上で研修に参加すると、スムーズに参加ができると思います。平日のホテル暮らしの時は、毎日夜21時にエントランスでミーティングがあり、その次の日の出発・集合時間、持ち物などの確認を行っていました。そのあとの夜の行動は事件、事故を防ぐ為にも避けるように言われていました。

平日の放課後には、日本語を勉強している生徒との交流会や最終週には解団式で披露するインドネシアのダンスの練習など内容の濃い体験をさせてもらっていました。週末には、ホームステイ先の家族とショッピングモールに行ったり、生徒・ホームステイ先の各家庭が全員集まり、インドネシアの地域をミニチュア化したようなパークに行ったりしました。食生活もホテル暮らしの時とは異なり、各家庭の料理やローカル店での料理を楽しみました。私はインドネシア研修に行くまでにインドネシア料理を食べたことがなかったのですが、インドネシアではほとんど毎日インドネシア料理を食べました。それほど、インドネシア料理が美味しかったです。特に私が1番好きなインドネシア料理はミーゴレンです。ミーゴレンは日本で言う、焼そばのような食べ物です。また、インドネシアの物価は凄く安かったので、学校の学食で約150円ほどでした。ホームステイ先でもホストマザーが美味しい料理を振舞って頂きました。インドネシアでは、南国のフルーツの沢山食べました。家の周りにあるマンゴーやマンゴースティンなど初めて食べるフルーツもありましたが、どれも美味しかったです。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

研修を通して得たことは、語学力が成長したのはもちろんのことインドネシアの友達を始め、先輩方や同級生に多くの友達ができたことが大きな収穫となりました。少人数の英語クラスのメンバーではありましたが、周りの友人や先輩または現地の学生の方々などから指導を受け、最終的には自分1人で買い物ができるまで語学を学ぶことができました。また、現地に行きその国の文化を学ぶことで自分にとって将来自分にとってプラスになると考えました。なので、これから私は大学で様々な国の勉強をし、沢山の国に行って沢山の国の文化を自ら体験していくとおもいます。

所属：国際学部 国際学科 1年

出身：千葉県立流山おおたかの森高等学校

2019.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマプルサダ大学)

【研修生活について】

英語コースの授業はインドネシア語コースと非常に異なります。英語コースは最初先生たちとコミュニケーションを取ることから始まりました。先生は全部で4人いてみなさんとても優しかったです。その中でも特にお世話になったのは2人の学生の先生でした。年が近いからかもしれません、とても距離が近く親しみやすかったです。何時間も受けた授業の中で印象に残っているものがいくつかあります。インドネシアの有名なインスタントラーメン(Indomie)を食べたり、先生が手作りのお菓子を持ってきてくれたり、ショッピングの時に値切る方法を教えてもらい、それを実践するために学校近くのモールに行ったり、日常生活やショッピングなどで使える簡単なインドネシア語を英語で教えてもらったりしました。どの先生たちもみな優しかったので、わからない問題や気になったことを質問することができました。英語のことでわからないことはもちろん、インドネシアのおすすめのお土産やおすすめのモール、食べ物なども教えてくれました。英語コースの生徒が私含め2人だったので学生の先生2人とでよく昼食を食べました。その時も英語で会話をしていたので、常に英語に触れている環境でした。授業の後半は文法などをやっていてやや難しいところがありましたが、先生に聞いたり友達と相談したりして理解を深めました。ホワイトボードやパワーポイントを使う授業がほとんどで毎授業集中して取り組んでいました。インドネシア語コースよりも約1時間授業が早く終わるので、職員室で友達と宿題をしていたり、先生たちとお話をしたり、インドネシア語コースの授業に少し参加してみたりしました。また、英語コースだけどインドネシアの文化に触れることも多々あったので、英語も学べてインドネシアについても学べてとても有意義な研修生活でした。

【日常生活について】

ホテルでは3人1部屋でした。どの部屋もユニットバスでしたが、部屋によって多少の差がありました。例えば、ベッドがシングル3つの部屋とシングルとダブルが1つの部屋があつたり、シャワーのみの部屋とバスタブがある部屋だったり、シャワーとトイレの仕切りの壁があつたりなかつたり、お湯が出たり出なかつたりなどです。私の泊まった部屋ではバスタブの水道をひねると、土みたいな色の水が出てきて驚きました。

ホームステイ先の家は、私の家と異なる点が多く見られました。1番印象深かったのはバスルームです。マンディというものを初めて体験しました。事前にはシャワーがあると聞かされていましたが、ホストファミリーに「シャワーが壊れている」と言われ最初はマンディに抵抗がありました。でも段々慣れていったのでそんなに苦ではありませんでした。

私はホストファミリーに観光地に連れて行ってもらっただけでなく、近所のイベントにも連れて行ってくれました。夜11時頃に近くの広場にみんなで集まり、焼き魚と白米を葉っぱの上に盛り、みんなでカラオケ大会やお喋りをしながら手でご飯を食べました。また、朝に子どもたちが集まってゲームをするイベントにも参加しました。これらは研修として訪れているからできることだと感じました。貴重な経験ができたのでとても満足しています。

学校では学生の皆さんとたくさん交流させてもらいました。3回ほどあった放課後の交流会やバドミントンで仲良くなった学生がたくさんいました。皆さん積極的に日本語で話しかけてくれることがとても嬉しかったです。中でも交流会で2回同じグループになったことがきっかけで仲良くなれた子は学校で会う度に話しかけてくれました。学生との交流があったから学校がより楽しかったのだと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修でインドネシアの文化にたくさん触れることができました。個人的な話なのですが、私はマンゴーが食わず嫌いでいた。ホストファミリーに言われて初めてマンゴーを食べました。私が思っていたよりもはるかに美味しいと挑戦してよかったです。何事も挑戦だということが改めて実感できました。インドネシア語を履修していない私は、今後の学校生活でインドネシア語に触れる機会が少ないと思いますが、自分が履修している地域言語の勉強も頑張ろうと思いました。また学校生活ではいろいろなことがあります、失敗を恐れずいろいろな活動に挑戦して経験を増やしていきたいです。

私は将来海外と繋がる仕事がしたいと考えています。今回のインドネシア研修でその想いがさらに強くなりました。異文化を体験することは楽しくて新しい発見がたくさんあります。次インドネシアに行く機会があったらそれまでにインドネシア語を独学で少しでも学びたいと思いました。

所属：商学部 会計学科 2年

出身：拓殖大学紅陵高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマップルサダ大学)

【研修生活について】

私は今回拓殖大学の学生として、2019年度、第16回、国際学部、インドネシア短期研修（ダルマップルサダ大学）に8月8日から8月30日まで参加させて頂きました。私は文京キャンパスの学生ですが、今回の研修プログラムが八王子キャンパスの国際学部が主催する研修プログラムに参加させて頂きました。二つ目に私は、学校で履修している第二外国語がスペイン語にも関わらず、今回の研修での語学コースを英語ではなく、インドネシア語コースでインドネシア語を1から学びました。ですから、キャンパスも違い、尚且つインドネシア語を履修していくなくても研修は問題なかったのか？という点を述べたいと思っています。結論から言うと、1から学ぶにしても十分ついていくて、自分のレベルでも異文化交流、語学学習ともに充実して学べる内容でした。

授業についてですが、まず初めに英語コース、インドネシアコースとともにプレイスメントテストを行い、インドネシア語コースはAクラス、Bクラスにクラス分けをしました。最初のテストの難易度ですが、聞くところによると、2年生には少し簡単、1年生には少し難しいレベルでした。インドネシア語がはじめての私はもちろんわかりませんでした。

テストの形式は筆記とスピーキングで、単語、聞き取りが出来るか、言いたいことがいえるか、文章をどれだけ理解できるか、文章をどれだけ書くことが出来るか、の5つの項目を後に自己採点し、研修終了までどのくらい成長しているかを表したもので自分がどれだけ成長したのか、というものがグラフとして目に見えたので個人的なモチベーションアップにつながるとてもいいものであったと思います。授業内容は、ダルマップルサダ大学の先生方がパワーポイントで作ってくださった資料をもとに、単語、文法学習をはじめ、学校の人たちにインドネシア語でインタビュー、合同クラスでインドネシアのゲームで遊びを織り交ぜて、インドネシア語を1から学習する私でも楽しくメリハリをつけて学ぶ事が出来ました。先生方は個人に合わせたペースで個別にも指導してくださいり、毎日言語を学ぶ事が楽しく、とても充実していました。また授業内でgo-jekというジャカルタで流行しているデリバリーサービスの注文をする授業がありました。最先端のサービスでとても良い経験になりました。

【日常生活について】

日常生活において、研修は土日のホームステイを除き基本的にはホテル生活でした。ホテルの部屋割りは前半、後半で部屋のメンバーが変わっていたので、固定メンバーで固まることなく全体的に研修メンバーの親睦を深めることができたと思います。朝食はホテルでビュッフェ形式、ホテル内にはプールと小さなジムがあり、また下の階にはショッピングモールがあるので遠出する必要もなく、とてもいいホテルでした。毎日21時頃ホテルのロビーにて点呼を含んだミーティングがあったので、皆時間と行動にメリハリが持てたと思います。

ホームステイ先は二階建てであり、とても綺麗でストレスなく過ごすことができました。道中交通渋滞が起こりやすいという事もあり、到着に通常1時間でつくものが3時間以上かかり、皆グロッキーになりました。渋滞は嫌いですが、交通渋滞はジャカルタでの問題であり、日本の比ではなく貴重な経験でした。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

今回の研修を通して語学を学ぶ環境の大切さ、インドネシアの大切な友達を得ました。SNS等でお互いの言語でコミュニケーションをとり、今回の研修で終わらせる事なく、お互いに語学を向上させていきたいです。また、私は今回の研修で国内より国外の方で仕事がしたいと改めて実感したので、海外で会計のスキルを活かせるような仕事に携わってみたいと思いました。今後も国内にも国外にも目を向けて学び続けていきたいです。

所属：国際学部 国際学科 2年

出身：埼玉県立南稜高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマプルサダ大学)

【研修生活について】

インドネシア短期研修には英語コースとインドネシア語コースがあり私は地域言語でインドネシア語を履修しているので、インドネシア語コースを選択しました。クラス分けテストで2つのクラスに別れました。授業は90分が三コマあり、基本文法や単語を学ぶだけでなくアクティビティな授業が沢山ありました。合同で授業する場合もあり、皆でわいわいと毎回賑やかな90分でした。例えば、8月17日はインドネシアの独立記念日だったので、みんなでインドネシア料理を作る時間もありました。他にも、大学キャンパス内にいるインドネシア人にインタビューし多くの大学生と交流し友達も出来ました。また、東南アジアでは一般的に使われているデリバリーサービスアプリの使い方を学び私たちが実際にデリバリーサービスを利用する体験授業もありました。座学だけではなく今インドネシアで流行っている遊びや若者言葉の授業もあり毎日がとても楽しい授業で、単語のボキャブラリーが増えていくのが実感していくのが分かりました。

私が一番楽しかった授業はバドミントンです。インドネシアではバトミントンが強くて有名ですが、ほとんどの学生はマイラケットと経験したことがある人で驚きました。私は高校の体育の授業でしかやつたことがなかったのですが実際にインドネシアの学生と対決しました。皆とても上手で惨敗でしたが楽しかったです。授業の最終週からはインドネシアの伝統舞踊を学ぶダンス授業がありました。陽気なテンポで手の動きや足の動きが複雑でした。送迎式では研修参加メンバー14人で伝統舞踊を発表する機会がありました。当日は14人分の異なったバティックを用意して頂き嬉しかったです。発表は緊張しましたが、先生方やホストファミリーらが温かく見守ってくださいり楽しく終えることが出来ました。

授業終わりの週2回日本語を学んでいる学生との交流会もありました。お互いの国についての紹介やお勧めの観光名所や料理などお話しして毎回楽しい交流会でした。この交流会のおかげで友達が沢山出来ました。また、交流会で日本のアルバイト事情を話す機会があり私は代表として皆の前で自分のアルバイトについてスピーチしました。インドネシアにはアルバイト自体があまり存在しないので放課後の過ごし方や金銭事情など日本とインドネシアでは大いに違いが発見することが出来ました。インドネシア語の授業は楽しいだけでなく、宿題や中間テストもあり大変でしたが同室のメンバーで分からぬことを教え合い、交流会で仲良くなれた学生に聞くなどして乗り越えることが出来ました。終了テストでは三週間前よりも大きく成績が伸びていたので自分でも大変驚きました。日本に帰ってからも、インドネシア語を勉強してお世話を始めた先生方や友達に会いに行きたいです。

【日常生活について】

平日はホテル泊で金曜日から日曜日まではホームステイを体験しました。ホテルの下にはモールが直結していたので毎晩研修メンバーとインドネシアの友達と夜ご飯を食べていました。インドネシアは物価がとても安いので夜ご飯代は大体300円ほどでした。私が一番安さに驚いたのは映画のチケット代です。日によって値段は異なりますが一番安い日で300円でした。モールの中には映画館もあったので三回も見てしました。周りにもモールがあつたので生活には飽きませんでした。また、ホテルにはプールや広場があったので研修メンバーと泳いだりお話ししたりして毎日充実していました。休日のホームステイでは各家庭で過ごしました。私たちのホストファミリーは姉、妹、弟、お父さん、お母さんの五人家族でした。皆で結婚式に参加したり、朝6時に起きてジョギングしたりしました。また、地域の運動会にも参加しました。日本でもやったことがある競技もありましたが、久々にやるとともに疲れました。

私はトランプを持ってきていたのでホストファミリーにトランプの遊び方を教え、他にも日本の手遊びも教えました。少しの時間でしたが毎日が濃くて充実した休日でした。別れの時には手作りのバラのブーケをプレゼントして頂きました。また、お土産も沢山頂いてホストファミリーには感謝しかないです。拙いインドネシア語でたまに通じない時もあり、コミュニケーションを取るのが難しかったですがこんな私たちを優しく歓迎してくださいり受け入れてくれたホストファミリーが大好きです。必ずまた会いに行こうと思います。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は海外に三週間も行ったことがなかったので不安が大きかったです。毎日とても充実した日を送ることが出来ました。たまに、お腹を壊すこともあったけど研修メンバーが気遣ってくれて楽しさの方が勝ちました。インドネシア人は皆とても優しくて穏やかな方でした。いつも挨拶をしてくれるし、ニコニコしています。インドネシアにいると時間がゆっくり流れているように感じられました。また、日本は宗教についてほんやりとした考えがありますが、インドネシアの方々は一人一人が自分を持つていてかっこよかったです。日本とインドネシアには沢山違うところがあります。インドネシアの道路は凸凹道だしゴミの分別もせずに捨てるのが当たり前です。ですが、都心に行けば道路は整備されていて、ゴミ箱も種類ごとに設置されています。同じ国でもこんなにも差があることに驚きました。ですが、インドネシアの交通環境は都会でも田舎でも混んでいました。その誘導係も仕事としているので働き方は様々だなと考えさせられました。渋滞があるために仕事に定時に出勤することが出来ないと聞いたときは驚きましたが、電車や交通環境が整えばもっと時間を有効的に使えると考えました。

まだまだ課題が多くあるインドネシアですが、だからこそこれからインドネシアがどのように発展していくのかわくわくします。今回の研修には企業訪問もあり、今現在自分のやりたいことを考えるきっかけを作ってくれました。私はインドネシア人もインドネシアも大好きなのでインドネシアに関わる仕事に就きたいです。そのためにはインドネシア語をもっと勉強して話す、聞く力を付けていきたいです。インドネシアの学生は皆勤勉で私も見習おうと思いました。今回の研修でインドネシア語を学ぶだけでなく、文化、宗教、歴史、現在のインドネシアについて学ぶことが出来ました。様々な宗教や言語が存在しているから、インドネシア人は相互理解しあわいを尊重しているのだなと思います。日本に比べてしまうと過ごしにくいと思ってしまうけれど、また行きたいと思わせてくれるとても素敵な国でした。そこには関わって下さった全てのインドネシア人が優しく穏やかで幸せにしてくれました。また、料理も美味しいで安く過ごしやすいです。今度インドネシアに訪れた時は町並みがどのように変わっているのかがとても気になります。

所属：国際学部 国際学科 2年

出身：埼玉県立所沢西高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマプルサダ大学)

【研修国・地域の紹介について】

私はインドネシアと日本の大きな違いは宗教観の違いだと思います。日本は宗教概念が少なく、宗教が生活に与える影響はほとんどありません。初詣やクリスマス、ハロウィンといった宗教行事も、私たちはイベントの1つという感覚です。しかし、一神教のインドネシアでは常にイスラム・ムスリムの考え方方が身についており、お祈りや断食、行事、ルールなどが生活に大きな影響を与えていました。世界では宗教が原因で争いが発生したり、ときには宗教の力で平和を導くようなことが起こっています。私は現在に至るまで、なぜこんなにも宗教に偉大な力があるのか疑問に思っていましたが、今回の研修で宗教が与える影響力について理解することができました。

私は今回の研修で日本人とインドネシア人の意思の伝え方の違いに気づきました。日本人は言いにくいや、相手の不利になるようなことをはっきり伝えることができません。自分の立場を守りすぎていて、人に嫌われることを恐れています。このことから、日本では会話の中で曖昧な回答が目立ちます。実際に日本では曖昧な回答をしても許されることが多いです。この日本の感覚でインドネシア人と会話をしていると突っ込まれることが多いです。インドネシアに関わらず、世界で通用するために、自分の意思をはっきり伝えることが大切だと学びました。答えづらいことを曖昧な答えで返答することによって、相手に空気を察してもらうという甘えた考えは捨てるべきだと感じました。

【日常生活について】

ホームステイでは、家族や地域の交流の深さに驚きました。自分の両親や友人の両親を敬う気持ち、敬う気持ちから生まれる行動はとても素晴らしい文化だと思いました。帰国した後、自分の地域では近所の方との会話はほとんどないので、とても違和感がありました。

独立記念日では町中が白と赤のインドネシアの国旗の色の装飾で溢れており、着ている服も白と赤で統一されていました。日本では見ることのない爱国心に、温かい気持ちになりました。インドネシアが多くの人から愛されている理由として、このような温かい文化があるからだと感じました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

ダルマプルサダ大学で出会うことができた友人や、ホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。しかし、別れの日に感謝の言葉を上手く伝えることができませんでした。「ありがとう」という言葉を伝えることはできましたが、何に対するありがとうなのか、何が楽しかったのか、自分が今何を感じているのかについては言葉が出てきませんでした。私はとても悔しい思いをして帰国しました。今後は日本で更に語学の勉強に励み、次の春休みにリベンジしたいと考えています。夏よりインドネシア語を上達させた上で、直接友人や家族に感謝の気持ちを伝えたいです。

今回の研修の参加をゴールとせず、インドネシア語検定受験やインドネシア人との人脈を大切にすることで語学を磨きます。わたしにとってインドネシア語は、これだけは誰にも負けない自分の武器だと言えるようにしたいです。

所属：国際学部 国際学科 2年

出身：武藏越生高校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマップルサダ大学)

【インドネシアについて】

インドネシアは東南アジア南部に位置する共和制国家であり首都はジャワ島に位置するジャカルタです。西端から東端までの距離がおよそ 5000km あります、北海道から沖縄までおよそ 2500km の距離となっているためインドネシアの横幅がとても長いことがわかります。また、横幅だけを比べるとアメリカ合衆国よりも大きいことがわかります。この広大な面積に伴いおよそ 300 もの民族、500 もの言葉そして 5 つの宗教があります、人口は世界で 4 位であり、若者が多く今後のインドネシアの発展に期待が出来ます。赤道直下に位置するため熱帯雨林気候とサバナン気候に属し、大部分が常夏の高温多湿の国であるため日本とは違い、四季が存在せずおおよそ、5 月～10 月の乾期と 11 月～4 月の雨期の二つに季節に分かれています。乾期は気温が 29°C 前後で、湿度があまり高くならないため、日本の湿氣がある夏とは違い洗濯物も乾きやすく非常に過ごしやすいが、日差しの強さには注意が必要です。雨期は、日本の梅雨とは違い、激しい雨が短時間に集中的に降ります。インドネシア人は傘を持っている人が少なく理由として、バイク移動が主な手段となっているため合羽を着て雨をしのぎます。インドネシアは宗教国家であり、「イスラム教」、「ヒンドゥー教」、「仏教」、「キリスト教プロテスタン」、「キリスト教カトリック」の 5 大宗教すべてを国教としていて、どの宗教も憲法上で平等に権利が保障されています。なかでもイスラム教徒の割合は約 87% と世界的に見てもとても多い国です。1 日 5 回のお祈りがあるため学校などにもお祈りする場所があります。お祈りの影響で授業が遅れたりするのは当たり前で、私たちが研修に参加した大学はジャカルタにあるダルマップルサダ大学でした。ダルマップルサダ大学は 1986 年にインドネシア元日本留学生協会 (PERSADA) がインドネシア・日本両国への感謝の証として設立された私立大学です。元日本留学生を中心となり、その経験を母国の発展に生かすために設立された大学でありこれは世界的にも非常に珍しいことです。1991 年には天皇皇后両陛下がインドネシアに公式訪問された際に視察され、また 2008 年には秋篠宮両陛下ご夫婦も視察され、キャンパス内に記念の植樹をされるなど日本との関わりが強い大学です。学部は、文学部、経済学部、工学部、海洋学部あります。私たちと交流した学生は、日本語を学んでいる学生ほとんどでした。皆日本語が上手で中には勉強を 1 年間しか勉強していないのに私たちと普通にコミュニケーションをとれる学生がいて驚きました。このようにインドネシアの人は真面目で勉強熱心であることがわかります。インドネシアは巨大な人口を抱える大国であるため、有望な市場として注目を集め今後の発展に期待できる国です。

【日常生活について】

私たちは平日の月曜日から木曜日がホテルに宿泊して金曜日から日曜日はホストファミリーの家に宿泊させてもうという日程でした。私たちが宿泊した場所はジャカルタの繁華街ブカシにあるホテルで周辺にはモールが幾つもあり、私たちのホテルはモールの上にあるため買い物をするのがとても楽でした。学校がある日の一日のスケジュールは、朝の 7 時半に起きて、集合の 9 時までに朝食と学校に行く支度をします。学校まではバスで移動して、約 40 分かけて学校に向かいます、道中ではでこぼこ道を走っているため寝たいのに寝られない時間が続きます。授業開始は 10 時から 90 分間 × 3 の授業を受けます。途中お昼休憩が一時間あり猫やニワトリがたくさんいる中で一緒に食事を済ませ授業に備えます。16 時半に授業が終わります。迎えのバスが来るまでは先生やインドネシアの学生とコミュニケーションを取りながら待っていました。帰りのバスは毎回渋滞にはまるため一時間ぐらいかけてホテルに戻ります。夕食はホテル下のモールで食事をします。だいたい同じ店に行くので店員さんとは仲良くなり、その時はインドネシア語を使いコミュニケーションを取りながら学べるので買い物や支払いの時はとても楽しいです。食事後は、タピオカ屋か、J.CO というドーナツとコーヒーを売っているインドネシアで有名なお店に行くのがルーティーンでした。その後は、21 時にホテルのロビーで先生からの連絡事項や体調面についての確認、点呼があります。終了後は、ホテルに付いているプールやジムで遊んだり、中庭で友達と話をして、部屋に戻り授業の復習や課題をして就寝というのが授業がある平日のサイクルでした。

ホームステイは、金曜日授業終了時にホストファミリーに学校まで迎えに来てもらいそこから一緒に行動をともにします。私たちがホストファミリーと行った場所は、モナスやタマン・ミニなどの有名な場所や、地域のお祭りやプール、ファミリーの知り合いの結婚式に参加させてもらうなど楽しい日々を送りました。なかでも、日本語塾に通っている生徒の人たちとの交流は貴重でした。生徒のほとんどが仕事をしている人たちで、日本企業で働いている方や日本人の方が多く住んでいるアパートのフロントで働いている方もいました。大学での交流とは違い実際に仕事している方との交流は貴重な体験をすることが出来ました。

最初はインドネシアの生活に慣れる事が不安だったが、すぐに慣れとても楽しい毎日を過ごすことが出来ました。大学に通っていて気づいた点は、ダルマップルサダの学生は夏休みにもかわらず大学に行っている事に驚きました。学生にとって大学は大切な場所だということがわかり、私たちも見習わなければいけないと感じました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は、大学入学語の地域言語選択でアルファベットだから他の言語に比べて簡単かなと思いインドネシア語を選択しました。しかし、インドネシアの語学を学ぶと共にインドネシアの魅力について惹かれていき、現地で勉強したいという気持ちが生まれました。2 年生になり研修費用も貯めることもでき初めてインドネシアに行くことが出来ました。研修に参加して 1 番に変わった所はやはり語学力の向上だと思いました。ダルマップルサダ大学の授業のカリキュラムの内容が座学よりも実践的なものが多く、例えば、インタビューやスピーチの授業、また近くのコンビニや店に行くなど拓殖の授業では出来ない実践的に学ぶことが出来たからだと思います。これもダルマップルサダ側が私たちの事を真剣に考えてくれているからだと思いました。他にも現地学生との交流会を設けてくれ、私は日本に帰って来た現在でも連絡をやり取りする大切な友達を作る事が出来ました。これからもインドネシア語を勉強していく、生活や文化など深く知りインドネシアで働く事が出来るように努力していきたいと思いました。

所属：国際学部 国際学科 2年

出身：私立東京立正高等学校

2018.4 拓殖大学入学

2019.8 インドネシア短期研修参加(ダルマップルサダ大学)

【研修国・地域の紹介について】

まず、日本と大きく違うものは宗教が何よりも大きいと考えます。インドネシアは国民の約80%以上90%未満ががイスラム教であるというデータがあります。その際、ムスリムの主な方たちは礼拝を行っています。礼拝は一日に五回行うことになっており、礼拝を行うための礼拝堂のようなものがトイレの横にあったりします。他にもAzan(アザーン)と呼ばれる音楽が至る所に流れています。これらは普段絶対に日本では味わうことのできない文化だと考えます。研修先の学校では日本とは違う建物の仕組みでした。熱帯の国ならではの風が吹き抜けやすく作られていて、窓がない部分が多く見受けられました。食堂についても、現地の人と話しやすい雰囲気の環境だったので、学力アップには最適な場所でした。日本とは違いユーモアな性格の人が沢山いるので楽しい反面、注意して行動を行わなければならない国なので、次回の研修メンバーには気を付けて行動を行うようにしてほしいです。

【研修生活について】

今回の研修では、自分が参加した前回の研修とは違い、ホームステイの日程が週末に二泊三日のことでした。二泊三日のホームステイのいいところは、ホームステイで泊まる家族との会話の時間が格段に増えるところだと思います。会話が多くなれば仲良くなるきっかけが出来ますし、インドネシア語も格段にうまくなっていくと思います。ホテルの生活を行っていく中で、共同生活が大事になっていくと、私自身研修前に考えました。なのでメンバー全員には時間をしっかりと守るように促そうと考えていましたが、今回の研修メンバーはそれを言わなくても時間の五分前には必ず集まるように意識をして行動を行っていたので集団行動にはなにも問題はありませんでした。多少ご飯の辛さや油に体が慣れていかない部分があったのかもしれません、お腹の調子が悪くなったり、体の調子がよくなかったりすることが少しあったので、自分自身まだまだ未熟だと感じました。この研修生活の中で、買い物や友達との会話などで語学を学ぶ機会が多くあったので、とても充実した研修生活を送れたと感じました。

【研修を通して得たことと今後の学生生活への影響と進路について】

私は今回改めて、海外で生活を行うことは並大抵なものではないと改めて感じました。特にインドネシアの人から買い物の際や、食事の際で説明を受けるときに、わからない単語などが出ると困惑したりしてしまうことが多々ありました。そんな時、店員の方々は片言の英語で必死に説明をしてくださったり、ジェスチャーを交えて写真をうまく使いながら私たちにうまく伝えようしてくれました。インドネシアのそんな心の温かさにとても感動しました。私は今後日本で生活していくときに、周りへの気配り、笑顔を忘れないように生活していきたいと思います。また、今後の進路などでインドネシアに関わらないとしても、何かの形でインドネシアという国の良さを伝えていければいいなと考えています。